

# 同志社時報

2018.10

No. 146



特集 ■

■「読書時間の減少・活字離れ」の現状と学校教育

## ■不破ノ妻君ノ尤周到ナル看護ニヨリ、 実に摂生法ニ於テハ申分ナキ

「同志社大学設立募金日誌」（『新島襄全集』5,480頁）

一八八九年十一月末、新島が大学設立運動に奔走する中、群馬県前橋で病に伏した際に、教え子で前橋教会牧師不破唯次郎の妻・ユウから受けた看護についての言葉。ユウは新島が設立した京都看病婦学校の第二回卒業生で、看護宣教師L.リチャーズから当時最先端の近代的な看護を学んだ人物である。

この時のことは、八重宛ての書簡（十二月九日、『新島襄全集』4,258頁）にも、「幸ヒナル事ニハ不破ノ奥様日々看病ニ御越し被下、食物一切之御世話致し被下候故、何ニも不都合ハなく、内ニテモ此迄ト申居候次第、又室内ニ気ヲ付昼夜共火ヲタキ暖カニなしオリ候間、手当ニ何ニも落トハ無之候」とある。

新島の苦痛がひどく、食事が摂取できない状況であったのに対して、ユウは少しでも苦痛が緩和され、回復に向かうよう、そして心身の安寧のためにと、食事や身の回りの世話をきめ細かく、賢明に実践していたことがうかがえる。それは、新島夫妻にとつて大変心強かつたのではと思われる。後年、ユウは「患者を思いやり、戸の開閉や足の運び方まで配慮していると、新島に褒められた」とも述べている。

新島は、京都看病婦学校設立の目的に、病人の苦痛を救うこと、熟練した看護力をもつこと、病人の心を慰めることの三点を挙げ、真実の「愛心」を持つて看護できる人材育成の重要性を示している。新島はこうした自分の志が、ユウの「尤周到ナル」看護に具現していることに満足したのではないかと思われる。

岡山 おかやま  
寧子 やすこ  
（女子大学看護学部教授）

## ■ Doshisha college song Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

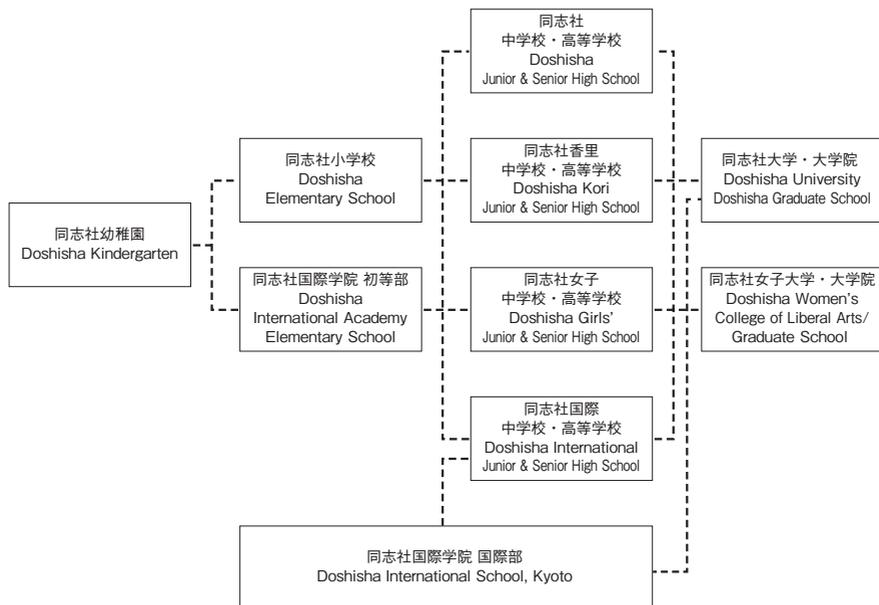
One purpose, Doshisha, thy name  
 Doth signify; one lofty aim:  
 To train thy sons in heart and hand  
 To live for God and Native Land.  
 Dear Alma Mater, sons of thine  
 Shall be as branches to the vine;  
 Tho' through the world  
 we wander far and wide,  
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。  
 その学徒の精神的、肉体的、  
 神のため、祖国のため、生きんという  
 一つの崇高な目的を。  
 親愛なる母校よ、同志社の学徒は、  
 ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。  
 たとえ、世界くまなく、広くはるかに、  
 われらさまようと、汝の教訓は、  
 われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)

## ■ 同志社の一貫教育体制

### The Integrated Educational System of the Doshisha



\* 一定の条件があります (帰国生の要件)

# 『「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」シンポジウムを開催！』

2018年6月14日

2018年6月14日、同志社大学今出川校地良心館にて、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」シンポジウムを開催しました。

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」は、2018年度からスタートした事業で、「同志社大学ビジョン2025」において掲げたテーマに即した質の高い教育プログラムの提案を求め、大きな成果が期待できる取組に対して事業経費の一部を大学が負担する等、支援していくものです。

当日は松岡敬学長の開会の挨拶に始まり、2018年度採択の5つのプログラムについて事業責任者、担当者から紹介がありました。続いて、5人のパネリストを招きパネルディスカッションを行いました。稲岡恭二教務部長がモデレーターを務め、『「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」が目指すもの』と題し、本プログラムの意義について考える機会を持ちました。

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」は事業の推進を支援し、そこで得られた様々な教育効果を分析・共有し、本学の教育研究力の向上に役立て、次代の人物を養成することを目的としています。



## ■女子大学

# 『京田辺キャンパス「ラーニング・commons」を設置』

2018年3月22日

昨年、今出川キャンパス楽真館に設置されたのに続き、京田辺キャンパスでは聡意館を増築することによりラーニング・commonsを設置しました。

学修の可視化を目指して開放的なガラス壁を多用し、既存建物との一体感や同志社らしさを求めてレンガ壁を適所に配置。ウィングルムの庭との調和を重視し、低層で広がりのある形状としました。



## ■中学校・高等学校

# 『80年以上続く伝統の由良キャンプ』

2018年7月21日～29日

中学1年生の夏の由良キャンプは、1936年から80年以上続く本校の伝統的な行事の一つ。

校友の皆様や地元の方々に支えられて今に至っています。

今年度もまた、生徒達の満面の笑顔があふれ輝く行事となりました。



## 『体育祭』

2018年5月8日～9日

高校5月8日火曜日、中学5月9日水曜日に実施いたしました。  
天候にも恵まれ、小春日和の中、競技、応援に生徒達主体で楽しい一日を過ごすことができました。



高校生選手宣誓（パフォーマンスも盛り込んだ個性あふれる宣誓）



中学生選手宣誓（校長先生を前にまだまだ緊張感のある宣誓）

## 『中一修養会』

2018年5月10日～12日

5月10日～12日、入学間もない中学一年生を対象に、丹波篠山にある宿泊施設「ユニトピアささやま」で修養会を行いました。『同志社で学ぶ』～自分を見つめて、友達を理解して隣人になろう～とのテーマで、礼拝を守り、オリエンテーリングなどを通してクラスの友人との交流の時を持ちました。聖書の言葉を心に留めながら、お互いを受け入れあう者となれたらと思います。



オリエンテーリング



広場で昼食



キャンドルライトサービス

## 『高校球技大会』

2018年6月14日



学年別6クラス対抗のハンドボール大会。午前中の予選リーグ後、午後は決勝戦、順位決定戦を行った。

## 『Isolde Kurz Gymnasium 交換プログラム』

2018年6月1日



ドイツから交換プログラムで本校を訪問しているイゾルデ・クルツ・ギムナジウム (Isolde Kurz Gymnasium) の生徒達が、本校保護者に協力してもらい茶道を体験した。

## ■ 小学校

## 『6年生修学旅行』

2018年6月4日～13日

6月4日から6月13日まで、6年生はアーモスト、そしてボストンへ修学旅行に行きました。今回は、アーモスト大学のジョンソンチャペルで行った入所式で松岡学長から児童にお話をいただくことができました。また、ボストンでは、マウントオーバン墓地へのハーディ氏墓参で八田総長にご一緒いただき、墓前で児童にお話をいただきました。



## 初等部：Grade4 Overnight Trip to Miyama and Miyazu

2018年6月19日～22日

4年生は、プロのトレッキングガイドさんの引率の元、3万2000ヘクタールもの広さの原生林の中、由良川の水源を求めて歩き始めました。森の中は、神秘的な世界が広がり、一瞬時が止まったような感覚になりました。

自然の中の新鮮な空気をいっぱい吸い込み、探究の単元 (Unit of Inquiry) のテーマ、「水の循環」を自分たちの目でしっかりと確かめる事ができた宿泊学習でした。



## 国際部：Toyooka Trip

2018年5月23日～25日

DISK Grade 5 added two additional learning trips to their annual trip to Toyooka. They visited a solar cell manufacturer (Kaneka) and then visited a solar farm that had more than 8,000 solar panels. It was a great experience to learn how solar power has helped Toyooka city.



## 『花の日礼拝』

2018年6月5日



各ご家庭からお花を持ち寄り、子どもたちと神様に感謝の礼拝を行いました。その後、日ごろ私たちを見守って下さっている方々へお花を届けに行きました。花の香りや美しさを感じながら、神様からいただいている愛を多くの人と分かち合う大切な時間となりました。

## 『慰問』

2018年7月2日



年長組が介護老人福祉施設を訪問し、歌を歌ったり利用者の方と手遊び歌で触れ合い、たくさんの笑顔と拍手をいただきました。「誰かに喜んでもらうことが自分の喜びにつながる」ことが、子どもたちの心に大切に刻まれたと感じます。手作りのプレゼントをお渡しして、とても喜んで下さいました。

# インタビューの2人

私の志  
(本文4~7頁)

## 藤井 安さん

1978年京都府生まれ。2000年、同志社大学商学部卒業、老舗バッグメーカーの株式会社井野屋入社。研修後、メンズバッグを展開するマスターピース事業部に配属。2012年、分社化によってMSPC株式会社へ転籍。2013年よりマネージャー。大学時代はサッカーサークルに所属。当時のポジションはミッドフィールダー。趣味は現在もサッカーとフットサル。好きなサッカー選手はスペインのセルヒオ・ロケッス。



自分達が良いと思うメンズバッグを世に出すため、常に好奇心を大切にしています。アウトドアブランドからライフスタイルグッズまで、情報チェックも日課です。

## 中島めぐみさん

1987年、奈良県生まれ。2010年同志社女子大学学芸学部情報メディア学科卒業、関西テレビ放送株式会社入社。2018年8月現在の担当番組は「報道ランナー」(サブキャスター/木・金午後4時47分)、'モモコのOH!ソレ!み〜よ〜'(土曜午後1時59分)、「マルコポロリ」(日曜午後1時59分)、ナレーションなど。座右の銘は「やると決めたら全力投球!」。小中高はバスケットボール部、大学では弓道部(三段)、合気道も少々。2012年に同局のアナウンサー林弘典と結婚。



どんな仕事も楽しい一方で、毎日が反省と勉強です。元気さと明るさが求められた20代を卒業して、30代は安定感のあるアナウンサーを目指します。

# 同志社 時報

No. 146

2018.10

## 私 の 志 INTERVIEW

有名メンズバッグブランドを統率 藤井 安さん

物づくりとは互いを信じ合うチームプレーである

関西テレビの人気アナウンサー 中島めぐみさん

取材現場も制作現場も真摯な姿勢で全力投球

## 特 集

「読書時間の減少・活字離れ」の現状と学校教育

新聞業界の動向

「読むチカラ」を向上させるための取り組み

大学での読む力の必要性和その支援体制

「衰退」する読書行動から虚構世界の拡大へ

同志社小学校の道草教育をもとにした取り組み

河村麻紀／塩野淳子／植田阿津子／Andrea FORBES

伊藤 高史

9 8

濱嶋 幸司

22 15

諸井 克英

28

高松 真也

33

## 目 次

〈表紙〉

啓明館

中谷隆志(大学心理学部事務長)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉

岡山寧子(女子大学看護学部教授)

〈口 絵〉

■大学 「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」シンポジウムを開催!

■女子大学 京田辺キャンパス「ラーニング・コモンズ」を設置

■中学校・高等学校 80年以上続く伝統の由良キャン

■香里中学校・高等学校 体育祭

■女子中学校・高等学校 中一修養会

■国際中学校・高等学校 高校球技大会/Isolde Kurz Gymnasium 交換プログラム

■小学校 6年生修学旅行

■国際学院 初等部:Grade4 Overnight Trip to Miyama and Miyazu/国際部:Toyooka Trip

■幼稚園 花の日礼拝/慰問

「私の志」インタビューの2人

シンポジウム「All Doshisha 教育推進プログラムが目指すもの」

建物案内 恵愛館(女子大学)

同志社の逸品 セイヴォーリー家の家族聖書

同志社社史資料センター

同志社ナウ

日本学術振興会賞受賞に寄せて

飛龍志津子

メディア創造学科名称変更記念公演

森 公一

平田オリザ作・演出 アンドロイド演劇《さようなら》について

Gabriel Frost JOHNSON

尺八、国境を越えて

藤井 宏樹

近畿税理士会主催の「租税教室」に片岡愛之助さんが来校

山田 慎吾

全国高等学校アーチェリー選抜大会準優勝

55

私の研究・私の授業

賛美歌だって時にはポップなのである

関谷 直人

会計の視点から企業経営を検討する

河合 隆治

手のかかる マグネシウムを 手入れする

湯浅 元仁

翻訳の思想、思想の翻訳

三ッ木道夫

澱粉ワールドの面白さ―マイクロからミクロを探る―

山本 寿

人と本をつなぐビブリオバトル

加藤美穂子

同志社クローステップ

クリエイティブ・ジャパン科目と創造都市

高木 繁光

同志社女子大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)開設

岡山 寧子

「同志社らしい看護学教育のさらなる発展をめざして」

70

―平安貴族の雅な遊び「貝合わせ」を体験しよう―

中條あさ子

同志社女子中学校の「スプリングイングリッシュキャンプ」

吉永 真

―視野を広げ、物事を多角的に見る力を求めて―

76

スーパードーバルハイスクール (SGH) の授業における本校の学び

坂下淳一／帖佐香織

―人間分子観―について議論しましょう・村瀬学著／政策税制の展開と限界・占部裕典著／外国

74

―神教とは何か―キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために・小原克博著／竹田からくりの研究・山田和人著／

72

憲法で読むアメリカ現代史・阿川尚之著／人権条約の解釈と適用・坂元茂樹著／銀幕の大統領ロナルド・レーガン―現

72

代大統領制と映画・村田晃嗣著／近代日本の庶民史―ふつうの人々の暮らしと人生を紡ぐ・西村卓著／「ネコ型」人間

74

の時代―直感こそAIに勝る・太田肇著／臨床舞踊学への誘い―身体表現の力・阪田真己子他著／「君たちはどう生きるか」に異論あり!―「人間分子観」について議論しましょう・村瀬学著／政策税制の展開と限界・占部裕典著／外国

74

にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力・櫻井千穂著／奨励・説教集 嵐と風と不思議なマント・三木メイ著／「稼

76

得とケアの調和モデル」とは何か―「男性稼ぎ主モデル」の克服・田中弘美著／公共部門のガバナンスとオンブズマン

76

―行政とマネジメント―・山谷清秀著／食通のおもてなし観光学・山上徹著／高校生たちのゆくえん―学校バネル調査

76

からみた進路と生活の30年―尾嶋史章編

76

特別寄稿

最初の校舎「中井屋敷」の謎―143年前の同志社寺町校地―

本井 康博

紀行 びわ湖疎水通船の復活

青木 真美

新刊紹介

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。  
大学Ⅱ同志社大学、女子大学Ⅱ同志社女子大学、中学校・高等学校Ⅱ同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学  
校Ⅱ同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校Ⅱ同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校Ⅱ  
同志社国際中学校・高等学校、小学校Ⅱ同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部Ⅱ同志社国際学院初等部・  
同志社国際学院国際部、幼稚園Ⅱ同志社幼稚園  
●執筆者等の役職・職位は2018年10月1日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。



ふじい あん  
藤井 安さん  
MSPC株式会社マネージャー

## 有名メンズバッグブランドを統率 物づくりとは 互いを信じ合う チームプレーである

女性だけでなく、男性もバッグにファッション性を求める時代です。メンズバッグの人気ブランド「マスターピース」では、商学部の卒業生がマネージャーを務めています。メンズバッグづくりの魅力と物づくりの極意を伺いました。

### 自分の心に従って 開拓者の道を選ぶ

——卒業後の進路に、バッグのメーカーを選んだ動機をお聞かせください。

**藤井** 井野屋との出会いは、実は就職活動がほぼ終えた後でした。幅広い業種に触れながら就活を行う中で、自分のやりたいことを見つけていこうとしていた時でした。ある企業から内定をいただいた後、たまたま友人について就職部へ行った時に井野屋の募集を見つけたのです。マスターピースというブランドは知っていたしファッションが好きだったので、説明会に参加。業務内容に関心を持ちました。そこで進路を改めて考え直した時、やはり人生最初の仕事は、もつとシンプルに自分の興味に従って決めようと思ったのですが、内定先には大変申し訳なかったのですがお断りをして、井野屋に入社しました。

——入社後はどのように仕事をしていかれたのですか。

**藤井** 研修後に配属されたマスターピース事業部はまだ小規模で、2人の上司と私の、計3人しかいませんでした。営業、プレス対応、生産管理から出荷まで、何

でもやりました。デザインの責任者であるディレクターのもと、私も含めて皆で意見を出し合い、知識も基礎能力も鍛えられました。苦労はしましたが、全体を見ながら必死に働いた経験が、間違いなく今の私のベースになっています。

——メンズバッグづくりの面白さは、どこにありますか。

**藤井** メンズバッグの、ファッションアイテムとしての歴史はそれほど長くありません。本来カバンとは仕事用や登山用など、特定の機能に特化したアイテムでした。材質もそれぞれの用途にふさわしいものが使われていた。それらの垣根を取り払うようにファッションアイテムへの進化が始まり、現在の市場が生まれた経緯があります。その市場において、マスターピースは「メイドインジャパン」というコンセプトを大切にしています。高性能性とファッション性を兼ね備え、多彩なラインや幅広いデザインといった、ブランドとしての多様性がある。そこを追求していくのが、マスターピースのバッグ作りの面白さです。

### 優れた選手を統括できてこそ チームが機能する

——現職のマネージャーとは、どのようなお仕事ですか。

**藤井** 基本的には全体を見渡す仕事です。企画、デザイン、プロダクトから営業その他に至るまで、各カテゴリーのスタッフたちが責任を持って、良い仕事をしてくれています。そこに私が良い判断を加えることができれば、すべてが有機的に動き出す。優れた商品が生まれ、お客様の手元に届く。その流れをまとめるのがマネージャーの仕事だと思っています。100%出資の子会社を台湾に作るなど、当社は近年、海外進出にも力を入れていきます。欧米の高級セレクトショップへの卸しも多いため、パリをはじめとする海外の展示会に参加してバイヤーと商談をしたり、台湾の店舗でのイベントに行ったりと、海外出張も多いです。インポートブランドの代理店業務にも携わっているのですが、とにかくがむしやりに毎日を送っています。

——どのようなときに、特にやりがいを感じますか。

**藤井** クリエイティブイティが私たちの存

在価値です。オリジナリティのある物を提案し、潜在的な需要を掘り起こして、従来なかった需要をマーケットに生み出す。そのようなブランドとしての理想をチームとして成し遂げられたときに、大きなやりがいを感じます。例えばビジネスバッグとしてのバックパックは私達が「今」にマッチしたアイテムを提案できたひとつの例だと思います。求められる機能性を捉え多様性のあるデザインを提供することが重要です。

——優れた物づくりに必要なことは何でしょうか。

**藤井** デザイナーや実際に商品を作る職人の方たちと、私のような立場の者との距離が近いこと。そして常に十分な話し合いのできる環境が大切だと考えています。そういう丁寧な物づくりという部分、先ほども言ったメイドインジャパンという形で世界へ伝わっているのではないかと思います。

——個人として実現していきたいことは何ですか。

**藤井** 人生全体を楽しいものにしていきたいです。仕事では私自身のために何かを成すというよりも、共に働いている人たち、これから共に働く人たちが、マス

ターピースというブランドを好きになってくれるための環境整備をしたいと思います。

5年前、上司の退社によって、私は突然マネージャーに昇格しました。「ピンチはチャンス」などと言いますが、それどころではなく、本当に窮地に立たされました。私には絵心もないし、頭に浮かぶイメージを的確に伝えられる言葉も不足していた。だからデザインのことは、デザイナーに任せることにしました。一人でできることには自ずと限界があります。

それぞれの分野の専門家に任せることが大切であることを、肌で理解したのです。まだまだ課題は絶えませんがひとつずつクリアしながらチームで成長していきたいと思っています。私は学生時代、サッカーサークルに所属していました。当時の仲間の絆は今も続いています。チームプレーの素晴らしさを知っています。会社でも、働く人が存分にベスト・パフォーマンスを発揮でき、そのパフォーマンスが正当に評価されるような環境を整えたい。それがマネージャーとして実現したいことであり、私の志でもあるのです。(2018年7月24日、大阪市にて)



なかじま  
中島めぐみさん  
関西テレビ放送株式会社編成局アナウンス部

## 関西テレビの人気アナウンサー 取材現場も制作現場も 真摯な姿勢で全力投球

多彩な番組で活躍中の、アナウンサーの登場です。映像によって多くを伝える面白さ、多くが伝わってしまう怖さを伺いながら、アナウンサーという仕事の魅力に迫りました。

メディア人としての能力を  
磨き続けた学生時代

——アナウンサーを志望された動機を教えてください。

**中島** アナウンサーのきれいな日本語や所作に、子どもの頃から憧れがありました。高校時代は学園祭でのステージパフォーマンスやその準備に打ち込むなど、仲間と共に何かを制作していく過程が好きでした。その中で特に好きだったのが、人前で話すことです。人に何かを伝えて喜んでいただく仕事がしたいと思うようになり、憧れだったアナウンサーを目指すことにしました。決めたからには、現場をご存じの方の教えを受けたい。そう考え、放送局でプロデューサーを長年務められた影山貴彦先生のおられる、同志社女子大学情報メディア学科への進学を志望しました。

——マスメディアの中で、特にテレビに関心を持たれた理由は何ですか。

**中島** 新聞のように文字として残すだけでなく、リアクションも含めて映像で伝えることに関心があったからです。報道や情報番組などでは、各界のさまざまな方にお会いでき、多方面で多彩な体験が

へ理解が広まるための役に立てたと思っています。

——やりがいを見せてください。

**中島** スタッフや取材先の方の喜ぶ表情を見られたときに、一番のやりがいを感じます。友人や街で出会った視聴者の方から、面白かったと言っていただけたときも嬉しいですね。

——良い仕事とは何でしょうか。

**中島** 仲間から「また一緒に仕事しよう」と言ってもらえるような仕事です。視聴者の皆さんに対しては分かりやすく丁寧な、真摯に情報を伝えることです。報道番組では、私はサブキャスターなので自分の感情が入ってしまわないよう、できるだけフラットに原稿を読むよう注意しています。

——良い仕事をするために、普段からどんな準備をしておられますか。

**中島** どんなことにも丁寧な態度で取り組み、楽しい雰囲気です。現場づくりを心がけています。2年前から番組ごとにノートを作り、準備や反省に活用するようになりました。円滑な現場づくりのためスタッフ全員の名前を書いて覚えたり、出演者の情報を整理したり、自分の出演時の反省点を書いて勉強した

でき、感じたことを自分の言葉で伝えられます。それによって視聴者の方に情報が伝わり、発見をして楽しんでいただくことが私の喜びになると考えました。

——大学時代、印象に残った授業や出来事を教えてください。

**中島** 影山先生からは、ゼミを含めて本当に多くのことを教わりました。先生のゼミや「ジャーナリズム論」から学んだのは、物事を多角的に捉えることの大切さです。例えば同じ新聞を購読し続けていると、その新聞の論調に自身の考えが慣れてきます。しかし大きなニュースになるほど、他紙と読み比べたとき、自分の考え方はたくさんある考え方の一つに過ぎないことが分かります。そういう視点、つまりメディアリテラシーの重要性を深く学びました。テレビでは時間的制約があったり見やすい編集を行ったりするため、すべての情報や多角的な考え方を一度に伝えることは困難です。でも、そこで偏った考えを伝えてしまったり、別の考えを持つ方を傷つけてしまったりしてはいけない。伝え手にはそういう自覚が必要であることを、情報メディア学科で学びました。

現場を大切にしながら  
信頼されるアナウンサーを  
目指す

——現在は報道からバラエティーまで、多くの番組を担当しておられます。一番好きな仕事は何ですか。

**中島** 実は、ナレーションです。声のトーンや表現によって、いろいろな挑戦ができるからです。同じナレーションでもドキュメンタリーでは、映像の良さを壊さないよう注意しつつ、耳から自然に伝わるような語りを工夫しています。

——現場へ取材に行かれる際、大切にしておられることは何ですか。

**中島** そこへ行かなければ分からない、当事者の心情やご苦労などの「実際」を大切にしたいです。以前、「大阪LGBT100人会議」取材したことがありました。性的マイノリティーの方々から直面する問題といえば、私たちは婚姻制度などの問題を漠然と思いつかずに、例えば社員旅行では男性・女性の、どちらの部屋に泊まるのかなど、問題にも悩んでおられました。普段は隠れていて見えない問題を取材で少しでも引き出し、社会全体

——アナウンサーとしての志を教えてください。

**中島** 前に出過ぎず、黒子に徹しながら、自分に求められた役割をきちんと果たす。それによって仕事仲間にも視聴者の皆さんにも信頼される、安定感のあるアナウンサーになりたいです。フジテレビ系列で使うアナウンサー用テキストがあります。冒頭に「声は人なり」と書いてあります。自分に自信がなかったり心によどみがあったりすると、それは声に表れてしまう。映像はすべてを映します。この言葉を原点として、真面目すぎるかもしれないが、人格も磨いていかなければと思っています。(2018年7月27日、大阪市にて)

# 「読書時間の減少・活字離れ」の現状と学校教育

近年、児童・生徒・学生の読書時間に関する調査が発表されている。それらの中には、大学生の読書時間減少を示すものもあり、そこにはインターネットの普及とスマートフォンの急激な発達に影響しているのかもしれない。今回は、社会における活字離れの現状や学校法人同志社各学校の「読書」に関わる取り組みと今後の展望を紹介する。



## 「新聞業界の動向」

大学社会学部教授 伊藤 高史

## 「読むチカラ」を向上させるための取り組み」

香里中学校・高等学校司書教諭 河村 麻紀  
 香里中学校・高等学校教諭 塩野 淳子  
 香里中学校・高等学校教諭 植田阿津子  
 香里中学校・高等学校教諭 Andrea FORBES

## 「大学での読む力の必要性とその支援体制」

大学学習支援・教育開発センター准教授 濱嶋 幸司

## 「「衰退」する読書行動から虚構世界の拡大へ」

女子大学生生活科学部特任教授 諸井 克英

## 同志社小学校の道草教育をもとにした取り組み

小学校教諭 高松 真也

## 「新聞業界の動向」

編集部より、「読書時間減少・活字離れ」という特集に何か原稿を、ということでご依頼いただいた。筆者は15年ほど前まで新聞社の業界団体（日本新聞協会）に勤務していたこともあり、昨今の新聞業界の動向、あるいは新聞離れの現状であれば、簡単に書けるであろうとお引き受けさせていただいた。業界の動向は様々などころで報告されているので新味の新しい情報かもしれないが、筆者なりに整理してみた。

### 1. 進む新聞離れ

日本は世界最大の新聞大国である。日本ほど新聞がよく読まれている国はない。大学の授業で、日本の新聞産業について説明するときはこのように教える。実際のところ、日本のように、巨大な販売部数を誇る新聞が複数存在し、人口に比し

ての普及率も高い国はまず見当たらない。そして、そのような新聞大国のもうひとつの特徴は、全国紙のみならず地方紙の規模も大きいことである。世界に名をとどろかす『ニューヨークタイムズ』は、紙の新聞は平日で54万部、日曜版が106万6000部である。『フィナンシャルタイムズ』は20万部未満た（各社の年次報告による）。これに対して日本では、地方紙と呼ばれる新聞でも100万部を超えている新聞がある。数百万部の発行部数を誇る全国紙と、各県で圧倒的なシェアを誇る地方紙の二重構造が、日本の新聞産業の構造的特徴である。

このような構造的特徴は変わっていないのだが、多くの人が感じているように、新聞の発行部数は近年急激に落ち込み、その存在感は薄れている。日本新聞協会のデータ等をもとにこの動向を確認して

みよう。

以下は、日本新聞協会が毎年発表している、加盟新聞社の発行部数の推移である。新聞協会には、主要な全国紙、地方紙は全て加盟しているが『赤旗』や『聖教新聞』のような機関紙は加盟していない。また、コミュニティ・ペーパーと言われるような少数部の地域紙も、一部を除いては加盟していない。

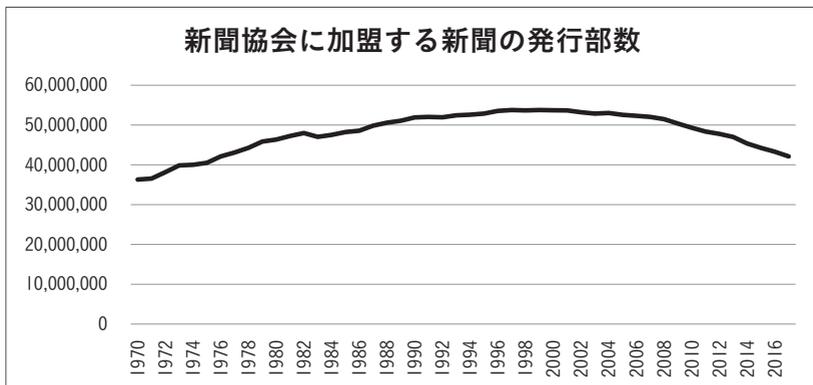
新聞発行部数を全体で見ると、1970年から右肩上がりでも上昇し続け、1990年代半ばに横ばいとなり、2005年ごろから急速に落ち始めている。現在の約4213万部という数字は、1976年ごろの数字に等しく、ピーク時（1997年、5377万部）の8割以下である。

部数の急落の背景に、インターネットの普及とブロードバンド化という通信環

大学社会学部教授

伊藤高史

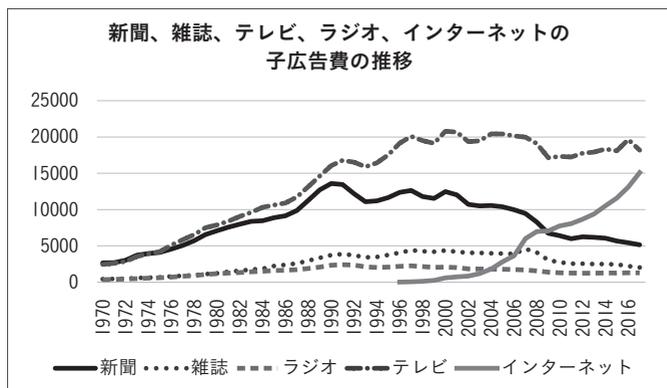
境の変化、および、携帯電話やスマートフォンといった通信機器（携帯端末）の



出典：日本新聞協会のデータから筆者が作成

急激な発達と普及があったことは言うまでもない。インターネットの一般家庭への普及を象徴するイベントが、マイクロソフトのWindows95の発売であった。同ソフトが発売された1995年から数年は、新聞はなんとか現状維持に近い数字を保っていたのだが、2000年代半ばから急激に落ち込むようになった。総務省のデータによれば、日本でブロードバンドの利用者が、ナローバンドの利用者を超えたのが2004年で、携帯電話の普及率が80%を超えたのが2007年、100%を超えたのが2013年である（総務省のウェブサイト「情報通信統計データベース」などによる）。2008年には、日本で初のスマートフォンiPhoneが発売された。インターネットの到来にはなんとか耐えた新聞が、ブロードバンドやスマートフォンの波に押し流されつつある姿が浮かびあがる。

広告の落ち込みは一層顕著である。電通総研が毎年発表する「日本の広告費」に従って、新聞広告の凋落ぶりを見てみよう。新聞、雑誌、テレビ、ラジオのマスコミ4媒体のうち、首位の座を197

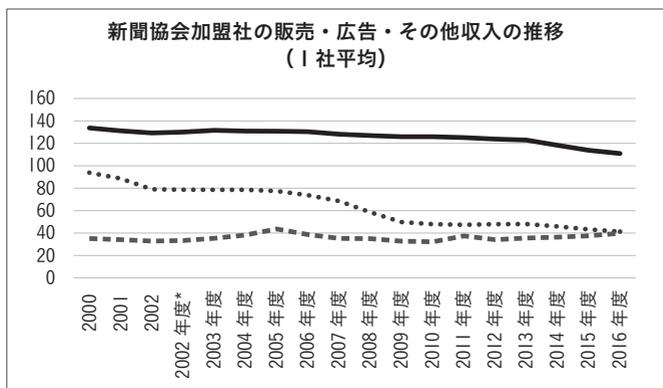


出典：電通総研「日本の広告費」から筆者が作成（縦軸の単位は億円）

0年代にテレビに明け渡した新聞であったが、いわゆるバブル景気の頃までは、テレビと同様に伸びていた。バブルが崩壊すると、テレビはその後も伸び続けたのに対して、新聞は一気に減少傾向に傾いた。そして、1996年から電通総研

の調査対象に「インターネット」が加わる。1995年から10年程度は、新聞販売部数がほぼ横ばいを保っていたのに比べると、広告は1990年代半ばからほぼ一貫して減少傾向にある。2000年代中ごろから、新聞広告の落ち込みが拍車がかかった。最新の2017年のデータでは、前年比5・2%減の5147億円となり、ピークの1990年の1兆3592億円に比べると、実に4割以下の規模にまで縮小した。なおインターネットは2009年に新聞を抜いている。

新聞協会の調査に従って、新聞社の収益構造についても見てみよう。2000年以降の販売収入、広告収入、その他収入の比率の推移をみると、2000年には販売が50・9%、広告が35・7%、その他が13・4%であった。これに対して、2016年度は販売57・8%、広告21・5%、その他20・7%となっている。年によって調査対象社の数が若干違うので、1社ごとの平均値を示したのが以下のグラフである。広告収入の落ち込みが、販売収入とその他収入に比べて大きいことがわかるだろう。その他収入は伸びて



出典：日本新聞協会のデータから筆者が作成（縦軸の単位は億円）

いるが、これは販売と広告が落ちてきているが、これは販売と広告が落ちてきているが、これに相対的に上がっているだけで、デジタル部門などからの収入が大きく増えているわけではない。最新（2016年度）の広告収入は最大値の半分に落ち込んだ一方で、その他収入は微

増という程度であることがわかる。また販売部数が落ちたといっても、新聞社の収入全体に占める販売収入の割合は圧倒的に大きく、新聞社が紙の新聞の販売に頼り続けざるを得ない状況も見えてくる。

なお、テレビだけでなく、新聞を語る際にも、「広告主の圧力に逆らえない」という趣旨の言説がなされることがある。福島原発の事故の後も、東京電力が多額の広告支出をしているため、新聞、テレビは東京電力の批判ができないという言説もかなり広く流布されたように思う。

新聞について言えば、上記のデータが示す通り、新聞の広告収入への依存度は、販売収入に比べるとかなり低い。その広告収入の一部しか占めない東京電力がそれほど大きな影響力を持っているとは思えない。筆者の個人的な感覚では、新聞やテレビが広告主を恐れるよりもはるかに、広告主は新聞やテレビを恐れている。まともな広告主であれば、不当な圧力をメディアにかけることが大きな被害をもたらしかねないことを知っているはずである。

## 2. 新聞社のデジタル化への対応

新聞社はもちろん、デジタル化の波を完全に無視していたわけではない。様々なコンテンツを開発して、デジタルの世界、ネットの世界での読者獲得に尽力してきた。

アメリカでは、世界で最も権威ある新聞である『ニューヨークタイムズ』が2011年から、デジタル版を有料化した。同社の2017年版年次報告書では、有料会員数は2017年末現在で264万4000に達しているという。新聞社の将来を憂う者にとってはこのような報道は慰めになるかもしれないが、ことはそれほど単純ではない。

有料電子版のビジネスモデルは、多くの人に無料で一定程度のサービスを提供し、そのうちごく一部の、特に熱心なユーザーに有料サービスを提供して利益を得るという「フリーミアム」と呼ばれる仕組みだ。この典型はゲームである。スマホやパソコンなどのゲームの多くは、無料でも楽しめる。しかし、ある程度の

レベルに到達しようとするれば、金銭を支払って、特定のアイテム等を購入しなければならぬ。このような熱心な一部のユーザーからの支払いによつて、無料でも遊べるゲームは、ビジネスとして成り立っている。フリーミアムが成功するには、無料のユーザーが多数存在することが前提である。日本語でサービスをし、日本国内の消費者のみを対象とする日本の新聞社サイトと、世界的な名声を誇り、英語という国際言語を使ってサービスを提供する『ニューヨークタイムズ』や『フィナンシャルタイムズ』とは、潜在的な読者数において比較の対象にならないと考えるべきであろう。実際に『フィナンシャルタイムズ』も、全購読者の3分の2が英国外であるという（日経、英F.Tを買収）『日本経済新聞』2015年7月4日朝刊）。

ここでちょっと、日本の新聞社のデジタル・コンテンツへの取り組みを振り返ってみよう。米国では、1993年に『サンノゼ・マーキュリーニューズ』がインターネットで情報提供を始めているが、日本の新聞社がインターネットでの「報

道」を開始したのは1995年だ。朝日新聞社は1995年8月、米国のナイトリダー社と提携して「アサヒ・コム」のサービスを始めた。これが、日本の新聞社がインターネットでニュース提供をするきっかけとなった。同社の後を追って主要全国紙から地方紙へと、ニュースをインターネット上に無料で提供する動きが即座に広がった。また、1990年代半ばから、様々な有料コンテンツの開発にも取り組んできた。例えば産経新聞社は2001年10月、新聞紙面のデータを契約者に配信し、パソコン上で紙面の形式を再現できる「ニュースビュー」のサービスを開始した（2005年3月でサービス中止）。

Yahooなど、他社のサイトにニュースを提供し、その社から料金を徴収するという取り組みも行われている。しかしこの場合、価格決定権を、Yahooなどの利用者側に握られて、かなり安い価格での提供を強いられているのが現状のようだ。このほか、ブログやSNSなど、新しいサービスが話題になる度に、多くの新聞社が新たなサービスを開発してきたが、

筆者が知る限りビジネス的に成功した事例はほとんどない。

こうした中で、日本経済新聞社が2010年3月に創刊した「日本経済新聞電子版」は大きな話題を呼んだ。紙の新聞と同程度（創刊当初は電子版だけの購読が月4000円）にもかかわらず、「日経電子版」の有料会員は順調に伸び続け、同紙の2018年6月7日付の記事では有料会員が60万人を超えたという。

日本経済新聞社に続いて、他の新聞社でもこれに追随する動きが続いたが、成功しているという話はあまり聞かない。

日本新聞協会は2016年度から、会員社のデジタル関連事業収入の規模を把握するための調査を新たに始めた。本稿を執筆している段階では、同協会の機関誌『新聞研究』2017年11月号に掲載された2016年度の調査が最初にして最新のデータである。この調査からは、新聞社が様々なデジタル・サービスに取り組んできたものの、デジタル部門からの収益を将来的にも期待できない厳しい現実が伺える。

新聞協会は全売上高を100とした場

合の「デジタル関連事業売上」の占める割合を調査した。「デジタル関連事業売上」とは、データベースやインターネットを基盤とするプラットフォームを利用した事業などを指す。新聞協会に加盟する新聞社のうち、69社から回答を得たという。その結果によれば、16年度のデジタル関連事業売上の比率の総平均はスポーツ紙を除いて1・22%だった。回答社の5割強に当たる33社は0・5%未満だった。比較的発行規模の大きい約80万部以上クラスの回答8社だけでも、10%以上と回答したのが1社、1%以上5%未満と解答したのが4社、0・1%以上0・5%未満が2社、0・1%未満が1社である。

比較的大規模の大きい社においても、1社を除いては、5%に満たない売上しかデジタル関連事業から得られていないのである。この数字が近い将来、飛躍的に伸びると考えるのはあまりにも楽観的であろう。

### 3. 新聞の将来

さて、新聞はこのような部数の減少に

いかに対応すべきであろうか。先日、ゼミの授業でそんな話になったとき、学生から「新聞は読み辛いというイメージがあるから、美味しい店などを紹介する記事などの、軽い街ネタのような情報中心の新聞をつくるのがよいのではないか」という意見が出た。残念ながら、そうした路線は期待薄だ。

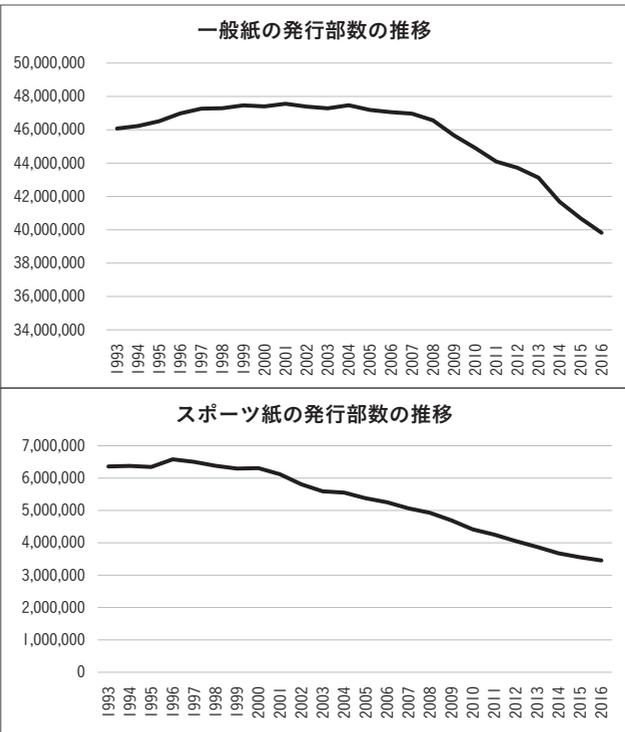
そのことを考えるにあたり、一般紙とスポーツ紙の発行部数の推移に着目してみよう。

一般紙の総発行部数のピークが2001年の4756万部で、2017年は18・5%減の3876万部。スポーツ紙の総発行部数のピークが1996年の658万部で、2017年は48・9%減の336万部である。一般紙とスポーツ紙の双方とも、減少傾向にあることに違いないが、スポーツ紙はインターネットが一般家庭に広まりだした1990年代半ばから一気に落ちており、その落ち込みも激しい。これに対して、一般紙はインターネット普及後もしばらくは横ばいを保っていた。近年は大きく落ちてきているといっても、スポーツ紙に比べればその

幅ははるかに小さいことがわかる。この両者の落ち方の違いが意味しているのは、スポーツ紙が提供するような娯楽情報はインターネットの情報に容易に代替され得るものであったのに対して、一般紙の情報は、インターネットでは代替されにくいものであったということであろう。さて、では新聞の生き残り策として何が考えられるだろうか。

紙幅の都合上、ごく簡単に述べるが、マーケティング・ツールとしてネットを利用する取り組みや、行政などとの密接な関係を生かした地域社会との連携の強化、販売店網を利用した新規ビジネスの開拓などがある。さらに有力なのは、「副業戦略」ともいえるべきものである。有力な新聞社はしばしば、優良な不動産物件を抱えている。そうした資産を生かした「副業」によって新聞経営を支えていくことが考えられる。また、新しいベンチャー企業に積極的な投資をする新聞社もある。

このように書くと、「それならば副業に専念して、新聞販売を止めるのが合理的経営者の判断なのではないか」との疑



出典：日本新聞協会のデータから筆者が作成

問がわくかもしれない。しかし恐らくそうではない。新聞社が持つ取材網と情報収集能力、ブランド力、そしてそれらに基づいた社会的影響力は多くの経営者にとって魅力的であるはずだ。新聞が重大な情報をスクープし、社会に対する影響を保つことができるならば、新聞社の経

営が傾いたとき、新聞を買収したいという企業が出てくるであろう。2018年3月には、『朝日新聞』が、財務省が国会に提出した文書を改ざんしていた事実を明らかにした。こうした報道が続けられる限り、新聞の未来はあると考えている。

## 「読むチカラ」を向上させるための取り組み

香里中学校・高等学校司書教諭 かわむらまき 河村麻紀  
 香里中学校・高等学校教諭 しおのあつこ 塩野淳子  
 香里中学校・高等学校教諭 つえだあつこ 植田阿津子  
 香里中学校・高等学校教諭 Andrea FORBES

図書館での取り組み  
 ～生徒の「読みたい心」を  
 刺激するために～

### 1. 香里中高の不読の現状

毎年、図書館での貸出冊数は減少の傾向にあり、2013年度に1万冊弱あった貸出冊数が2014年度には5000冊前後に落ち込んだ。その後2017年度までは5000冊代で横ばい状態となっている。1年間の貸出冊数がゼロ冊の不読者率は中学生は60%、高校生は80%超である。

ただ図書館で本を貸出していないからといって、本当に不読かどうかはわからない。

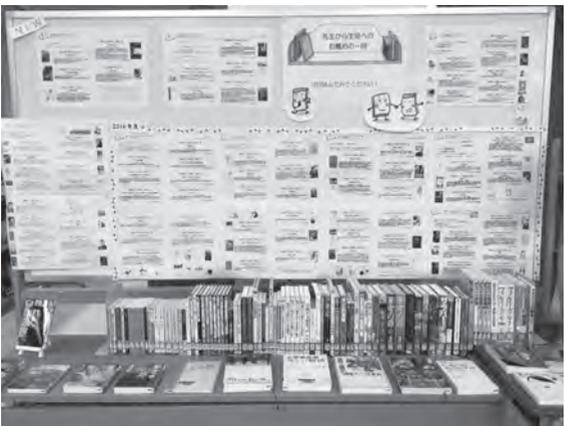
生徒たちは学校で長い時間を過ごしているが、ゆったりと図書館に来る時間がなかなか取れない。補講やクラブ活動、検定試験…、など何かと予定が詰まっている。

図書館としては、まずは自らすすんで図書館に来ている生徒に働きかけることができるよう、展示コーナーを工夫して設置している。

それに加えて、教科の要望に応え、課題関連資料の充実やコーナー設置を行っている。

### 2. ささまざまなコーナー展示

・映像化作品の原作コーナーを設置、展示。『君の隣臓をたべたい』『万引き家族』など



先生から生徒へのお薦めの一冊

・「図書館だより」で先生のおすすめ本を紹介。  
 「先生から生徒へのお薦めの一冊」コーナーを設置して図書を展示。  
 ・生徒図書委員コーナー 図書委員が本の買い出しに行つて購入した本を展示。  
 ・テーマ展示 夏目漱石 没後100年  
 コーナー 2016年度～2017年



英語 多読コーナー



夏目漱石コーナー

度▽、生誕150年コーナー 2017年度▽

### 3. 教科との連携

・英語 多読コーナーの充実&展示の工夫。  
 読みやすさのレベルや英検のレベルとの関係がわかるようにシリーズごとに掲示。  
 ・中3国語 授業時に読書する図書ブックトラックで授業担当教員に貸出。 2018年度▽  
 ・中2国語 教科書で紹介されている本や担当教員推薦のコーナーを設置。授業で図書館使用 2016年度▽  
 ・高1家庭 授業で紹介された図書を展示。  
 ・高3聖書 授業で扱ったテーマに関連する図書、授業で紹介された図書を展示。  
 教科との連携の結果、自分の読書をすすめる生徒が徐々にではあるが、増えてきている。課題が必要に迫られ、図書館に来た生徒たちが、閲覧室にある色々なコーナーに触れ、課題以外でも読んでみたいと思う本に出会い、貸出していく姿がみ

られるのである。

このことから、生徒の読書への興味を刺激することがいかに重要かということがわかる。図書館としては、とにかく生徒を図書館に引き寄せたい、図書館に来る生徒が読書したいと思うように仕向けたらいいという思いで色々と取り組んできた。

今後も教科との連携を図りつつ、図書館独自の工夫を展開し、生徒の心の奥にある読書への興味を刺激し続けたい。

### 国語科の取り組み ～授業時間に読書タイムを～

#### 1. 読書タイムの実践

「卒業を前にして悔やまれるのは、6年間ほとんど読書しなかったこと」——数年前の、文武両道だった或る生徒のつぶやきだ。宿題・クラブ・趣味・友だち付き合い等に追われて読書は後回し、というのが多くの(本校の)中高生の実情ではないだろうか。本の魅力を知った者でない、休み時間や放課後に図書館まで足を運ぶ意識を、なかなか持てないのかもしれない。

教科書10ページ程度の小説を「長すぎ

る!」として拒否反応を示す生徒、漫画の短いセリフになじんで小説の文章は疲れると訴える生徒、これらの生徒の姿に加えて、自身が「生徒には多くの本と出会ってほしい」と願っていたこと……さらに1冊の本との出会いが「授業中の読書タイム」につながった。

アメリカの小学校の国語実践を紹介したその本(注1)は非常に刺激的で、私の力量からも教育事情からも決して同じように実践できないと分かりつつ、諦めきれない魅力的な内容だった。

### 2. 実践にあたっての問題点

- ①いかに本来の授業時間を確保しつつ読書タイムを生み出すか。
- ②読書タイムを設ける意義を生徒にどう説明するか。
- ③本の選定は? そもそも選定してよいのかどうか。
- ④限られた時間に、どの程度の読書量を求めるのか。
- ⑤読書量に応じて平常点などの評価を与えるのか。
- ⑥個人の読書体験を、生徒同士で共有す

る機会を設けるには。

### 3. 解決策

- ①プリント配布などの授業準備は、チャイムが鳴る前に国語係にすべて済ませておいてもらう。起立・礼の省略。ストップウォッチの使用で生徒の作業の集中力を高める。ブックトラックというミニ移動図書館を教室に持ち込む(注2)。
- ②個人個人の力量に応じた「読書に親しんでもらう」多読」までを通して、読解力・思考力を養うと共に精神的成長が促される。
- ③生徒自らが手に取らないような類の本と出会うことも目的の一つなので、担当者が選定する。教科書が推薦する図書を中心に担当者が選んだ本でリストを構成する。
- ④生徒が力量に応じて選びやすいように「初心者用」～「上級者用」に本を分類。「読書カード」(注3)の提出を毎時間義務付けることでペースを作り、できれば学期ごとに1冊の読了を目標とする。
- ⑤読書そのものが、いわば自分へのご褒

美なので、平常点などの評価は与えない。

⑥年に2回、班内においてビデオバトルもどきを行い、所定のプリントを提出させる。

初めての試みは一昨年の中2国語①だった(週2時間)。授業の終わり7分～15分前に教室を出て、生徒40名余りと一緒に中庭を突っ切って図書館まで走っていく。本校の図書館の素晴らしさが、この実践の大前提としてある。「知の宝庫」が身近にあるのに、ほとんど足を運んだことのない生徒がいるなんて悲しすぎる、という思いだ。

予想されたことだったが、次第に歩き出す生徒が出てきて、全員が到着するのに5分近くかかることも(今にして思えば、担当者の無茶な試みに生徒はよくついてきてくれた)。到着した図書館では、選定した本が「初心者向け」～「上級者向け」に分類されて低い本棚の天板に平置きされている。生徒は思い思いの本を手に取り、席について読み始める。本は、授業のたびに司書の方々が整理してくだ

実践2年目の今年度(中3)は、本を満載したブックトラックを教室に運ぶようになつて時間も労力もかなり軽減された。読書時間は実質5分から長くても15分弱(たいていは10分弱)。週に2時間しかないので、読める量は知れている。

4. 実践してみても

初年度も今年度も、生徒の反応は予想を超えものだった。授業では滅多に見せたことのない集中力で本と向き合う生徒たち。お喋りして注意を受ける生徒はいるが、読書を純粹に楽しんでるらしい姿は本当に新鮮で、「本嫌い」という汚名を見事に返上していた。彼らは機会があれば、ライトノベルでなくたって読むのだ。

感想を書いてもらつたところ、ほぼ全員が読書タイムを歓迎していた。「時間が短すぎる」「好きな本がない」という苦情は覚悟していたが、だから「やめるべき」は2名のみで、他はすべて読書タイムの継続を希望していた。「時間が短いことで却って集中して読めた」「普段の自分なら選ばないような本が読めてよかった」など、嬉しい感想も目立った。



注3

生徒は読書カードに「著者名とタイトル」「日付とページ数」「冊数」「気に入った表現やセリフ」「読了後の一文要約」を書く。

読書好きな生徒の中には、次の授業まで待ちきれなくて同じ本を購入、休み時間も読んで2冊3冊と「読書カード」を更新していく者も出てきた。何年前の大学法学部の課題図書『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』を入れておいたら、「面白い」と夢中になる生徒が出てきて驚いた。中学受験で本から遠ざかっていた生徒は、これをきっかけにまた読み始めたとのこと。活字が嫌いという生徒はリストから絵本やハローワークの本を選び、時折友達と談笑しながらも読むときには集中した表情を見せた。

5. 課題

○1学期を振り返って、読書の時間が思ったほど確保できなかったことが一番の反省点であり、今後も残る課題である。クラスによって授業の進度に差があることが大きい。

○定期的なリストの更新。

○生徒からアイデアや苦情をもらつたので、それらをどのように取り込み改良していくか。

6. 最後に

ブックトラックのアイデアと準備、図

英語科の取り組み  
多読のメリット

1. 多読の取り組み

英語を身に付けるためには、まず多くのインプットが必要である。普段の授業や宿題だけでは「英語に触れる」時間が決定的に不足している。よく言われている「留学をすることのメリット」は、英語に触れる時間が多く、どんどん吸収していけることだ。それに対して、日本で英語を勉強していると、どうしても主に新しい単語、文法のルールを勉強することに意識がいつてしまいがちだ。もちろん最終目標はインプットだけでなくアウトプットの技能も伸ばすことであるが、多読で英語に触れる時間を増やすことができれば、基礎知識を得た上で、アウトプットの技能である発話力と文章力に繋げていくことができる。同志社香里では2012年度より、中学生を中心に少しずつ多読の取り組みを始めている。また、高校生では「長文が読めない」と悩む生徒が多いので、親しみやすい本を使った多読によって、長い文章への恐怖心と和

書リスト一覧表の作成はすべて司書の河村先生が行ってくださった。河村先生が居なければ読書タイムは実施できなかった。また、各クラスの国語係は毎時間、教員室と教室の間をブックトラックを押して往復してくれた。この場を借りて皆さまにお礼を申し上げます。

注1 ドナリン・ミラー『子どもが「読書」に夢中になる魔法の授業』(かんき出版)

注2 コンパクトだが、文庫本単行本大型本合わせて130冊余り積める。

生徒には事前にリスト一覧を配布し、ブックトラックの側面にも一覧を掲示。



ミニ移動図書館(ブックトラック)

らげることができると考え、高校生にも多読を推奨している。ここでは各授業内での取り組みを通して、多読のメリットを紹介していきたい。

2. 各授業での取り組み

① 中学2年生での取り組み(授業担当者: フォーブス)

2012年、2014年に行つた中学2年生の英語授業(週1時間)は、主にアウトプット中心の授業であつたが、アウトプットのための適切なインプットとして、多読を取り入れた。特に使いやすいシリーズとして、「Foundations Reading Library: Collection」(Rob Waring and Maurice Janall 著)を利用した。多読のシリーズは数多く存在しているが、中学生にはこのシリーズが一番適していると考えている。まず、文章と絵のバランスがよく、そして登場人物が全員10代である。物語には、10代の子供がよく巻き込まれるようなトラブルが出てくる。例えば、学校や友達とのトラブル、親や兄弟のトラブルなどだ。このような話であれば、親近感が湧き、どう解決するか、話に集中しやすくなってくる。レ

※読書物の本は1週間に1冊程度読んでください。引き続き読む場合は読書館に行ってください。

Week	Book Title	Page	Summary & Comment
例	The tickets	p. 1-3	Jerryの誕生日なので、Jimmyが彼女に2枚のチケットを買った。これが何のチケットかはまだ分らない。この2人の関係が気になる。
May28 - Jun3			
June4 - June10			
June11 - June17			
June18 - June24			
June25- July1			

資料：授業で使用したReading Card



中学2年生の授業の様子

レベル1〜7があり、共通の登場人物がいるので、人間関係を知ることにも面白さがある。

授業では、まずレベル1を2〜3人組で音読をさせた。英語に自信がない生徒も楽しそうに友達と音読していた。読み終えたら、物語の出来事を10個の英文で

が苦手な生徒たちもこの5分だけは集中して読んでいた。また、教員は授業に何冊か読みやすい本を用意していき、本を忘れた生徒や今持っている本を読み終えた生徒には、それらを読むように指導した。そうすることで「クラス全員が本を読んでいる」環境を与えた。Reading Cardは試験前に回収し、平常点に加算するようにした。

書く。これによって物語に出てきた単語が思い出しやすくなり、文も書きやすくなる。授業では、貸出用の一つの物語の本を全員に配り、数回の授業で様々な物語を読ませた。長期休暇用には、レベル2の6つの物語が入っている本(Collection)本を一人一冊ずつ配った。細かいルールは設定せず、読み終わったら要約を書く課題を与えた。

②中学3年生での取り組み(授業担当者:植田)  
2018年度の中学3年生では、多読を始めるにしても「これまでに図書館を利用したことがない」という生徒も多く見られたため、まずは初回の授業で図書館に連れて行き、好きな英語の本を選んで読む時間をとった。彼らがそれまでイメージしていた「英語の本」とは全くちがう、デイズニー作品やその他の映画化されている物語が、絵本のように読めることを知り、初回の授業では、予想以上に興味を持って本を選んでいった。

③「Reading Card」を配布し、①本のタイトル、②一週間に読み進めたページ数、③あらすじとコメントを書かせるように

夏休みの宿題にも同じような課題を与え、図書館を利用するように促している。図書館では、本のレベルが分かりやすいように工夫して置いてくださっている。まだ始めたばかりの取り組みだが、図書館と連携して、今後も継続していく予定である。

③高校1年生での取り組み(授業担当者:フオーブス)

高校1年生のコミュニケーション英語①の1時間はライティングという授業を担当している。中学生と同じ趣旨ではあったが、高校生ではもう少し細かいルールを設定している。冒頭に述べたシリーズの文の多くは直接話法になっている。本の文をそのまま写して使うより、間接話法を使って、書き換えるように指示した。

例えば、以下のような形だ。

直接話法 He said, "Please open the door."  
間接話法 He asked (me) to open the door.

生徒は書き換えのルールを少し難しく感じており、要約を書く回数を重ね、慣

した。生徒たちの英語力には大きな差があるため、本のレベルや読む量の指定はせず、「自分が読みたいもの」を借りるように指導した。どのレベルのものを選んでいいか分からない、という生徒には「辞書がなくても読めるレベル」のものを選ぶようにアドバイスした。英語の多読において「辞書を使う・使わない」の議論はあるが、「楽しんで読む」ことに重点を置いた取り組みを意識しているため、辞書は基本的に使わないようにしている。英語読解においては約95%以上の単語を理解していないと内容理解が難しいと言われている。逆に言えば、残りの5パーセントは辞書を使わずとも「推測(guessing)」できる可能性が高い。そのため、「1ページの中に知らない単語が5%以上あるもの」は避けるように伝えた。

また、英語の授業にも図書館で借りた本を持って来るように指導し、各授業の最後5分間は英語の本を読む時間とした。この5分はとても大きな意味があり、あわただしい毎日の中で落ち着いて本と向き合う時間にもなり、自ら読み進めるの

れることを目標としている。また、要約は過去形で書くことがふさわしいので、書き終わったら過去形のチェックを行う。一回目は、授業中に音声を聞きながら、一斉に本を読む。学期末にアンケートを実施したところ、多くの生徒は「本が面白い」や「もつと英語の本を読みたくなります」と書いていた。また、授業で、「もう半分以上電車で読みました」などの発言もあった。

英語の多読は、英語の本に触れること、英語の文章力を上げることなど、様々な目標が存在している。すべての生徒が図書館に行き、英語の本を借りることは難しいが、アンケートにコメントを書いた生徒の中には、英語の本を借りに行ったら、授業の取り組みに効果があった者もいた。

本年度より、フオーブスが図書・情報部主任となり、図書館にいる時間が増えたため、英語の本を見ている生徒には積極的に声をかけ、多読のコツなどを伝えていく。今後の授業でまた新しい取り組みができるか検討したいと考えている。

# 「大学での読む力の必要性とその支援体制」

大学学習支援・教育開発センター准教授

濱嶋幸司

## はじめに

大学生の読書離れが増えているという最新の大学生の読書時間の調査結果を紹介し、読書習慣のない大学生が増えていることを確認する。ただし高校までの読書習慣がない学生も大学での学習で必然的に読む力をつけなければ卒業はできない。ここでは大学学習法に関して、各学部の初年次教育科目だけでなく、授業外学習の取り組みを紹介する。同志社大学のラーニング・コモンズの学習支援プログラムは大学生の「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」といった力の育成支援を授業外の立場から用意している。

## 大学生の読書時間の分析から

全国大学生生活協同組合連合会が実施している「大学生生活実態調査」の2013

の「読書離れ」は事実であるが、このことで何が問題なのか、感覚的に反応するのではなく、じっくり考えてみてみよう。

## 大学生になってからの学習

さて、読書習慣の有無にかかわらず大学での学習生活では読む力が必須となる。所属学部（学科）を卒業するためには学部（学科）が設置した多くの専門科目を修得しなければならない。各学部には卒業のための学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が定められており、各科目の果たす役割やウェイトが規定されている。各科目にはシラバス（講義概要）が存在し、その科目の到達目標、各回の授業内容、参考図書や文献、成績（単位認定）基準などが記載されている。このように履修科目を学生が修得するためには当然、多くの文献を読む必要がある。もちろん、読むだけではなく、講義によって理解したことを要約し、さらには自分の主張を書いたり、人前で報告したりすることも要求される。つまり、どの学部（学科）においても大学での学習には「読む」、

年から2017年（5年分）のデータを借りて日本の大学生の読書時間を調べた（「大学生生活実態調査」については以下を参照のこと <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>）。

5年の間に大学生が1日に読書をする平均時間が26・9分（2013年）↓31・7分（2014年）↓28・8分（2015年）↓24・4分（2016年）↓23・6分（2017年）と下がった。その要因は1日に読書をしな（0分）学生」の割合が増えたことにある。読書をしな（0分）学生の割合は40・9%（2013年）↓41・7%（2014年）↓45・6%（2015年）↓49・8%（2016年）↓53・9%（2017年）と増え、今や半数の大学生は1日に本を読んでいる（読書習慣がない）ことを示す。読まないのでスマートフォン（スマホ）の

「聴く」、「書く」、「話す」といった力が総合的に必要となる。

大学生が自主的にそれぞれの力を培っていければよいのだが、なかなかそうもいかない。中には高校までの学習との違いでつまづいてしまう学生もいる。すでに大学での学習方法について大学教育研究者らによって多くの実践が積み重ねられている。大学での学習方法は確立されている。とりわけ大学入学後に実施される入門科目の果たす役割は大きい。入門科目では、所属学部（学科）でこれからのような学習をしていくのか、どのような力が必要とされるのかを講師や文献（教科書）から知り、実際に課題に取り組み、実演していく。このような取組（初年次教育プログラム）は本学の各学部も独自におこなっている。「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」といった力が今後の学習の場面で必要とされ、総合的に駆使されない限り単位修得できない。

もちろん、講義時間内（たとえば90分×15回）ですべての力を修得するのは難しい。授業時間外で学習をしなければならぬ（ここには当然、予習も復習も含

影響によるものかと全国大学生生活協同組合連合会からの依頼もあり分析してみたが、スマホ使用時間と読書時間に関係はない。

むしろこの5年の間に読書をしな（0分）学生が全体的に多くなっている。それは高校までに読書習慣のない学生が大学に入學し、大学生になっても読書習慣が身につけていない学生が多いということが推測される。大学生になってから新たに読書習慣を身につけるにはハードルが高いことが想像できる。

しかしながら、今の大学生に読書習慣がなくとも真面目に授業のある日は大学に行き、授業に出席し、成績（単位）を気にしつつ、交友関係を大事に、そして課外活動にも参加している。読書以外の項目の回答結果をみれば、多忙ながらも充実した大学生生活を送っている。大学生

まれる）。学内外問わず、学生たちが主体的に学習する空間と時間の確保も大事である。次に学習空間について本学の施設（ラーニング・コモンズ）について紹介してみたい。

## ラーニング・コモンズの紹介

本学では学習空間として図書館はもとより、ラウンジ、各学部の学習スペースなど多く用意している。それらに加え、大人数を収容できる「ラーニング・コモンズ」を今出川校地では2013年4月から、京田辺校地では2018年4月から開室した。本学のラーニング・コモンズの特徴は学習者の能動的な学び（アクティブ・ラーニング）をおこなうことを目的とし、グループでの協同学習および個人学習が可能な仕器と空間を兼ね備えた施設である（同志社大学ラーニング・コモンズのHPを参照：<http://ryoshinkan-1cdoshisha.ac.jp/>）。

学生は授業外の学習をおこなう場所としてラーニング・コモンズを利用する。学習者同士の学びを可視化させることを念頭に壁を取り払った空間設計をおこなった（図参照：フロアマップ）。当施設



写真：(左：今出川)ラーニング・commons内アカデミックサポートエリア(右：京田辺)

のコンセプトは「知的欲望開発空間」で、学習者が主体的に学習したくなる環境を配備した。学習に関することであれば自由に飲食(二部、食不可のエリアもある)しながら対話が可能なオープンかつ公共空間として現在も運営している(一部は利用に際し、予約が必要なエリアを設けている)。

文献を読み、参照しながらの学習は当然ラーニング・commonsでも可能である。今出川校地では図書館と独立した施設となつているが、京田辺校地では図書館内に併設となつている。両校地の図書館等で借りた書籍を持参して学習することも



図 同志社大学 ラーニング・commons フロアマップ 専用HP (<http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>)より

できれば、持込・貸出PCや別端末を用いた電子化した書籍・論文ファイルなどをみながら学習することもできる。両校地のラーニング・commonsは開室以降、アクティブな学習をしている学生たちで終日にぎわいをみせている。

### 学習支援スタッフとして

ラーニング・commonsは物理的な学習空間施設だけではない。施設内には多くのスタッフが常駐する。今出川校地には留学相談コーディネーター、マルチメディアラウンジ専従、学外の印刷会社(プリントステーション)といった各専門職

援者が積極的に介入することは控えている。たとえば、レポートの課題に悩んでいる学生がいたら、課題の概要や本人が書きたいことを聞き取り、テーマ設定に必要な文献を検索することを促す。実際に検索された文献が図書館に所蔵されていれば、自分で確認し、必要であれば現物に目を通すことを勧める。調べ方がわからないのであれば、支援者が知っている情報検索ツールの実演をしたり、図書館にはレファレンス職員が居るので直接問い合わせてみることを勧めたりする。支援者は相談者に対し、レポートは自分の思いを書き連ねるのではなく、関連する文献を読み込み、内容を整理したうえで要点を絞って自分の主張を説得的に述べるように伝えている。レポートを完成するにあたっては「読む」、「理解する」、「書く」(さらにもっと多くの力が必要とされるかもしれない)が連動する。学習相談の場において支援者は対面を通じて相談者の固有の問いに向き合い、問いが何であるかを共有し、解決に向けて相談者は何をしたらいいのか、授業外の立場か

員が勤務している。また両校地には受付スタッフ、学生スタッフ(紺ジャン)のほかに、学習支援を専属におこなう教員としてアカデミック・インストラクター(筆者もそのひとりである)、そのサポート役を担う大学院生のラーニング・アシスタント(LA)も常駐している。アカデミック・インストラクターとLAはアカデミックサポートエリア(写真参照)に常駐し、学生からの学習相談対応をおこなっている(2018年度春学期は平日「今出川は10-19時、京田辺は10-18時」に予約なしで受け付けた)。

学習相談とは学習に関する困ったこと(個人でもグループでも可能)をアカデミック・インストラクターとLAとがチーム(支援者)となつて寄り添い、よりよい解決法に向けてアドバイスをすることである。相談者自身に何に困っているのかを話してもらい(支援者は聴く)、困っていることを理解したうえで、解答そのものではなく、解答を導くためのアドバイス、ひとつではなく複数のやり方(選択肢)を提供することを心掛けている。学習するのは相談者本人であるため、支

ら学生が修得すべき力の支援をおこなっている。

### セミナー・ワークショップの開講

もうひとつアカデミック・インストラクターの業務として、アカデミックスキルセミナー(今出川)およびアカデミックスキル養成ワークショップ(京田辺)の開講(企画と担当講師)がある(図参照・告知ポスター)。これらは対面ではなく、参加を希望した受講者に講義形式および設定した課題をワークとして時間内に実施、解説するプログラムである(今出川ラーニング・commonsが開室した2013年度より開催している)。学習相談に行くことには心理的な抵抗があるが学習に役立つスキルを修得したい学生に向けた講座を用意する。

2018年度春学期は今出川では90分と30分の2つのコースを用意して全13メニューで36回、京田辺では30分のみで全6メニューで17回開催した。両校地とも開催前に告知をおこなった。今出川での希望者は専用サイトで希望セミナーを予

約するようにお願いし、京田辺での希望者は当日ラーニング・コモンズ内の開催会場に直接来てもらうようにした。参加者へは両校地ともに学習支援・教育開発センター（注1）が用意した「受講証明書」を発行するようにしている。商学部の初年次学生対象の導入科目およびいくつかの科目では「受講証明書」と参加時の内容をまとめたレポートの提出があれば、授業成績に加点される措置が取られている。授業外のラーニング・コモンズでの学習支援プログラムを正課科目と連携させ、ひとりでも多くのそして興味のある学生に受講してもらえよう全学部に働きかけてもらっている。

主なセミナーおよびワークショップのメニューを紹介すると、「レポートの構成法」、「引用の方法」、「プレゼンの構成法」などがある。今回の特集である「読む」ことに力点を置いた「学術文献の読み方」や文献の探し方に力点を置いた「情報探索の方法」といったメニューも今出川に限ってはあがるが用意している。京田辺でも検討中である。

このセミナーのメニュー設定に際して（学習相談やセミナーやワークショップ）がある。「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」といった力を総合的に支援する体制を全学的に整えておかなければならない。

おわりに

冒頭に示したように読書習慣のない大学生は増えている。もちろん、大学生になつて本に親しむ時間を多く費やし、読書習慣をつけてほしいところではある。ただし、それと同じもしくはそれ以上に大学での学習には「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」といった力がなくては卒業できない。そのためにも学習の習慣をつけることでこれらの総合的な力が身につく。所属学部（学科）で必要とされる知識を得るためにも、多くの文献を読み、理解し、自分の主張を述べていく力が養成されなければならない。

すべての学生に対して、大学にある学習施設、支援プログラム（学習相談やセミナー・ワークショップ）を活用して、自分の学習習慣を確立し、有意義な大学生活を送ってほしいと願っている。

は大学の学習法に必須とされる基礎的な知識の提供を最優先とした。すでに各学部の初年次教育科目と重複する内容であったとしても、今後の学習生活に必要なことは用意すべきであるとして学習支援・教育開発センタースタッフ間で取り決めた。必要な支援プログラムは正課内外にかかわらず提供すべきであると考えた。これは初年次だけでなく、大学への適応が進んだ2年次以降の学び直し、もしくは復習を促す機能もある。たとえば、レポートの引用方法に不備があったり、参考文献が未提示であったりすることによって、ときには剽窃が疑われるようなレポートを書いてしまったとしたら、その学生が被る不利益は甚大なものとなる。「知らなかった、わからなかった」では済まされないこともある。このような不測の事態を防ぐためにも、学習の課題を抱える学生が利用できる場所としてラーニング・コモンズ内の学習支援プログラム

（注1）ラーニング・コモンズは本学の学習支援・教育開発センターが運営している (<http://cf.doshisha.ac.jp>)。センター発行のニュースレター（CLFレポート）年2回発行にラー

ニング・コモンズの運営状況を掲載しており、利用統計や学習支援プログラムの内容を知ることができる ([http://cf.doshisha.ac.jp/cf\\_report/latest.html](http://cf.doshisha.ac.jp/cf_report/latest.html))。



同志社大学ラーニング・commonsHP (<http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp>)



図 2018年度春学期告知ポスター  
アカデミックスキルセミナー(左:今出川)  
アカデミックスキル養成ワークショップ(右:京田辺)

# 「衰退」する読書行動から虚構世界の拡大へ

女子大学生活科学部特任教授

諸井克英  
もろいかつひで

## 読書行動の現況

最近の全国調査によると（毎日新聞社、2015/14年調査、満16歳以上）、書籍を「読む」者の割合は5割代に過ぎず（52%/男性53%、女性50%）、ここ20年間大きな変化は見られない。「文章を読む能力があるのに本を読まない」「不読者」の存在が深刻な社会問題となっているのである（塚田、2014）。出版業界の状況を見ても（全国出版協会・出版科学研究所、2011）、推定販売金額や部数ともに明らかに減少している。このように顕著となっている「読書離れ」現象に対応して、'08年には衆議院・参議院において全会一致で「国民読書年に関する決議」が採択された（<http://www.mojikatsui.or.jp/link/5dokushonen2010.html>）。しかしながら、「読書離れ」の進

行は、政治的運動によって抑止できるようなものではなく、メディアの発達と多様化の観点から幅広く捉えるべきであるとともに、そもそも読書という文字・活字に依存した行動を支える心理的メカニズムの解明とも連動すべきである。

## 「読書離れ」論を嘲笑する ライトノベルの隆盛

ところで、ほんとうに読書行動は政治的に問題化するほど衰退したのであろうか。別の言い方をすると、活字を基本として読者に「虚構世界」を提供する小説などはもはや古臭いのであろうか。ここで、書店でも大きな一角を専有し、出版業界のいわばトレンドにもなっているライトノベルに注目して見よう。一柳（2009）によれば、ライトノベルとは「マンガ的・アニメ的なイラストが添

付された、十代の若者層を主要読者とするエンターテインメント小説」である。このライトノベルの歴史は70年代の少年・少女向け文庫の創刊（秋元文庫）、ソノラマ文庫、「コバルト文庫」などに始まる長い歴史をもつ（日経BP、2004）。一柳の指摘を詳述すると、次のような特徴を備えている。①10代を購買層として意識した、エンターテインメント小説、②口語表現、③表紙や挿絵などイラストを多用、④小説外（マンガ、アニメ、ゲームなど）メディアの影響、⑤読者と同一目線（日経BP、2004）。つまり、「国民読書年に関する決議」が想定する読書にはこのようなライトノベルはおそらく含まれていない。従来の形式の読書行動を取り巻く社会的環境が一変しているにもかかわらず、従来の文字・活字に依拠した読書の「衰退」が嘆きの

対象となっているのだ。

## 「世界」構築の道具としての読書

さて、国会での政治的決議までに至った読書行動の問題をライトノベルの隆盛を踏まえながらここで捉え直してみよう。そもそも読書は、外部「世界」を理解・構築するための重要な道具として一般的に称揚される（図1）。学校社会におい

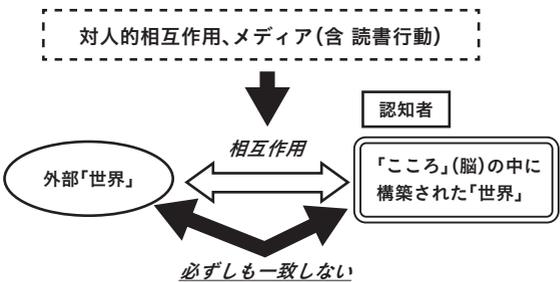


図1 「世界」構築の構図

ても語彙習得や読解力という国語学的観点からも同様に読書は推奨される。しかし、例えば、伝統的な読書行動の中核である小説は必ずしも「正確な」外部「世界」の構築を目指しているわけではなく、読み手の「ところ」の中に一見現実（＝真実の「世界」）から乖離した「虚構世界」を構築する。この構築体験は、現実体験と同様にわくわくした感情などを喚起する。しかしながら、メディアの発達・変容によって活字だらけの小説以外にも「虚構世界」構築の役割を果たす日常的な道具が現れる。それは、テレビ、マンガや、アニメである。とりわけアニメは録画機器の発達・普及などにより「世界」構築のための有用なメディアとなる。これは、現実であれ虚構であれ「世界」を構築するための道具の種類が拡大し、同時に活字のみのメディア（例えば小説）が衰退することになる。

つまり、「読書離れ」現象とは要は文字・活字を中心とした出版物からの後退であり、先述のライトノベルの隆盛は活字自体が嫌悪されているわけではないことを示している。メディアの多様化に合わせ

## 読書行動を支える心理学的機制

以上に述べたような時代や社会条件の変容を勘案することなく「読書離れ」に対して単純に反応することの誤謬に加え、そもそも読書行動を支える心理学的機制が短絡的に無視されているのである。このような観点から、筆者らはいくつかの研究でそのような心理学的機制の解明を試みた（力久・諸井、2011/力久・諸井、2012/諸井、2017）。

最初の研究では（力久・諸井、2001）では、女子大学生（N=324）を対象として書籍接触パターン（大手書店の書籍分類などを参考に独自に63項目作成した書籍に対する過去6カ月間の接触度）を抽出し、帰属複雑性（Fletcher et al., 1986）との関連を検討した。帰属複雑性とは、出来事の原因を「単純・複雑」に捉えるかに関する個人差である。書籍接触に関する主成分分析によって7主成分が得られ、2次主成分分析により物語性

のある書籍(「一般マンガ・コミック」、「特殊マンガ・コミック」、「小説」、「情報誌」、「人文書」と実生活で直接役立つ書籍(「マニユアル」、「実用書」)の2次主成分が抽出された。続いて行った共分散構造分析によって回答者の帰属複雑性における個人差が書籍接触パターンに影響することが明らかになった(力久・諸井、2011/2011参照)。つまり、出来事の原因を日常的に複雑に捉える傾向がある者は物語性のある書籍や実生活で役立つ書籍にかかわらず接触への動機づけが高かった。

続いて、最近の研究(諸井、2017)では日常的思考スタイル(帰属複雑性と批判的思考)と読書動機の関連を検討した(仮説1「日常生活での活発な思考処理(帰属複雑性や批判的思考)は、読書に関する知的成長動機を促進するだろう。」。その際、刺激希求性の影響も併せて調べた(仮説2「日常生活での刺激希求性は、読書に関する消費動機を促進するだろう。」。批判的思考は、Zechmeister & Johnson(1992)によれば、①問題に対して注意深く観察し、じ

つくり考えようとする態度、②論理的な探究法や推論の方法に関する知識、③先の②の方法を適用する技術、という主要3要素から構成される。帰属複雑性概念は出来事の原因帰属の仕方に注目しているのに対して、批判的思考性概念は思考過程をより一般的に捉えている。さらに、この研究では、新奇な感覚・経験を求めて読書行動へと動機づけられる可能性を考え、新奇な感覚・経験を求め、社会的・身体的リスクを厭わない個人的傾性である刺激希求性(Zuckerman et al., 1978)も測定した。このために、女子大学生(N=35)を対象に質問紙調査を実施した。

ここでは、共分散構造分析の結果を概説しよう(諸井、2017 図1参照)。

仮説1を支持する有意な影響経路が得られたが(批判的思考)↓(知的成長動機)、(帰属複雑性)↓(知的成長動機)、予測しなかった結果も認められた。つまり、批判的思考の高まりは、読書自体を目的とする読書行動を抑制する(批判的思考)↓(消費動機)。日常生活の中で深い認知的処理志向性が培われている者は、

読書行動があくまで知的高揚の手段として位置づけられており、時間的消費に過ぎない行動を回避するからであろう。興味深いことに、知的成長動機と消費動機に正の影響経路が存在することから、知的高場につながる時間消費は許容されるという。エブラール(1992)によれば、「一連の仮説やさまざまな予測を作り直すこと」や「テキストの配置された信号の解釈を試みること」がとりわけ難解テクストの読解にとつて必要である。つまり、読書を介した知的成長動機の背景には批判的思考や帰属複雑性が存在するはずである(仮説1)。したがって、本研究では予測しなかった批判的思考と消費動機との関連を支える心理的機制については今後の検討課題である。

おわりに

—時代を嗅ぎ取る読書行動へ—

読書行動は、知的探索志向性の反映である。逆に言えば、この志向性は従来の文字・活字に依拠した読書のみを必ずしも惹起するとは限らない。近年のライトノベルの隆盛に象徴されるように、時代

や社会条件の進展に伴いコミックやアニメ世界への接触を活性化するのである。さらには、ライトノベル、コミック、あるいはアニメが構築する虚構世界は、現実社会の変容と連動している。例えば、今世紀初め頃にわが国に現れた「セカイ系」概念に基づく作品群は、'90年代のわが国の「バブル経済の崩壊」と世界的な「冷戦の終結」により、我々が「自由だが冷たい(わかりにくい)社会に直面する」(宇野、2008)ことの所産である。①「モノはあつても物語のない世界」つまり「モノ」という絶望や、②「引きこもり/心理主義」的傾向(≡自己愛化)に特徴づけられる社会の変容に連動した「セカイ系」と呼ばれる作品群が創造され、伝統的形式の観点からは「不読者」に含まれる者も、おそらく知的探索志向性を充足するためにこれらの作品群を受容するのだ。

数年前の夏にあの政治的「喧嘩」を領導したSEALDsは、TwitterやLINEなどのSNSを駆使し、若者の間に存在する紐帯と発信力を誇示した(高橋・SEALDs、2015)。つまり、先に述

べたような自己愛傾向の誇大化に伴う政治的無関心という若者への烙印を否定して見せた。この謂わばSEALDs現象は、大人たちによる若者の「読書離れ」という烙印と相同であるといえるが、知的探索志向性は大人たちが予期せぬ仕方発揮・充足されるのだ。

〔引用文献〕

Fletcher, G.J.O., Danilovics, P., Fernandez, G., Peterson, D., & Reeder, G.D. 1986 Attributional Complexity: An individual differences measure. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51, 875-884.  
 エブラール, J. 1992 『1985 ヴァランタン・ジャムレ・デュヴァルはいかにして読むことを学んだか—独学の模範例— 水林章・泉利明・露崎俊和訳 シヤルチェ, R. 編 『書物から読書へ』みすず書房, 29-83頁  
 一柳廣孝 2009 はじめに 一柳廣孝・久米依子(編) 『ライトノベル研究序説』 青弓社 13-15頁  
 毎日新聞社 2015 『2015年版

読書世論調査—第68回読書世論調査—第60回学校読書調査—』毎日新聞社  
 諸井克英 2017 女子大学生における日常的思考スタイルが読書動機におよぼす影響 読書科学, 59(1), 1-11.  
 日経BPMック 2004 『ライトノベル完全読本』日経BP  
 力久由香里・諸井克英 2011 読書行動を支える認知的メカニズム—帰属複雑性の役割— 生活科学(同志社女子大学), 45, 37-43.  
 力久由香里・諸井克英 2012 読書行動を支える認知的メカニズム(II)—読書行動に関する尺度の検討— 生活科学(同志社女子大学), 46, 29-35.  
 高橋源一郎・SEALDs 2015 『民主主義ってなんだ?』河出書房新社  
 塚田泰彦 2014 『読む技術—成熟した読書人を目指して—』創元社  
 宇野常寛 2008 『ゼロ年代の想像力』早川書房  
 Zechmeister, E.B., & Johnson, J.E. 1992 *Critical thinking: A functional*

*Approach. International.* Thompson Publishing Inc. 宮元博章・道田泰司・谷口高士・菊池聡訳『クリティカルシンキング 入門篇』1996、北大路書房

全国出版協会・出版科学研究所 2011 『2011年版出版指標年報』 社団法人全国出版協会・出版科学研究所

Zuckerman, M., Eysenck, S., & Eysenck, H.J. 1978 Sensation seeking in England and America: Cross-cultural, age, and sex comparisons. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 46(1), 139-149.

## 同志社小学校の道草教育をもとにした取り組み

小学校教諭  
高松真也 たかまつしんや

### 1. 同志社小学校の道草教育

子どもたちに求められている資質・能力は大きく変化しています。今までは、解き方があらかじめ定まった問題を正確に効率的に解く力が求められてきましたが、最近の社会の加速度的変化の中で生き抜く力を身につけるために、蓄積された知識を礎として、主体的に情報を取捨選択し、自ら問いを立ててその解決を目指していくことが求められています。今回改定された小学校学習指導要領（平成29年告示）の総則においても、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」があげられ、身につけた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして学習の対象となる物事を捉えることが重要視されています。

同志社小学校でも、開校以来、教師が面白い授業を考えて、教師主導で授業を展開するのではなく、子どもたちが今までに学習したことや日常生活の中で経験したことを持ち寄り、子どもたち自身が授業を創り上げていくことを大切にしています。また、その際、「何を学んだか」だけでなく、「どのように学んだか」を大切にし、さらに「学ぶことは楽しい」と感じるような授業の展開を目指しています。私たちはこれを「道草教育」と呼び、学びの過程や学習の中で積み上げてきた価値を大切にしています。道草教育の考え方は授業の場面だけでなく、様々な学校生活の中でも活用し、子どもたちの成長につなげています。それは、本や活字に親しむことについても同じことが言えます。これから本校の具体的な取り組みを紹介していきます。

### 2. 読書推進に向けた取り組み

読書を推進する取り組みにおいても「道草教育」の考え方を大切に行っています。子どもたちが本を読みたくなるような仕掛け、本を読むことで新たな知識を得ること、心を動かされる瞬間を味わうことに主眼を置いて、「We Love Books」や「Book Reading Circle」などの活動や読書週間、読書タイムを設定しています。「We Love Books」とは、毎月決められたテーマに沿って教職員が本を紹介する取り組みです。例えば10月のテーマは「スポーツ」で、スポーツにちなんだ本を紹介したり、読み聞かせをしたりします。子どもたちは身を乗り出して話を聞き、活動が終わるとわれ先にと、本の貸し出しカウンターに並びます。毎月テーマが変わることで様々なジャンルの本に



We Love Booksの取り組みの様子



Book Reading Circleの取り組みの様子



出会うことができ、今まで興味を持っていなかった本を手取る良い機会となります。

「Book Reading Circle」では、主に英語の本を中心に、アニメや短い物語を読みます。子どもたちは自分の興味を持った本を自由に手に取り、音読していきます。中には、今までに母国語で読んだことのあるデズニ作品や昔話など、チャレンジしやすい本も多くあります。読んでいて興味を持てなかったり他の本を読みたいと思ったりした時には、途中で本を交換して新たに読み始めることができます。また、Podを使つて、耳からも情報を得られるので子ども

もたは楽しく音読することができ、1冊の英語の本を読み終えたときには、達成感を味わうことができます。年1回の読書週間には、高学年の児童の代表で構成される図書委員や教員による読み聞かせがあります。読書週間の休み時間を使つて行うため、普段グラウンドに出て遊んだり教室等で友達と話をし



読書週間の取り組みの様子

たりしている子どもたちも、本に触れ、本の魅力や読書の楽しさを味わうよい機会となります。

また、月初めの1週間、毎朝10分間は読書タイムとして朝読書に取り組んでいます。礼拝前の短い時間ですが、一人ひとりが自分の好きな本と向き合い、落ち着いて本を読む時間を設けています。この朝読書には、全児童、全教員が参加し、読書の時間を楽しんでいます。他にも、電車内での読書の啓発活動や長期休暇等での読書の推進をしています。

しかし、同志社小学校では読書感想文を書くという活動はしていません。なぜなら読書感想文を書くことが目的になつてしまうと、読書に対する苦手意識を生む可能性があるからです。本を読んで感じたことを書くという活動は大切ですが、それ以上に純粹に読むことを楽しんだり、物語の世界に入り込んだりすること、子どもたちが本を読んで感じたことや得た知識を生かすことを大切に考えているからです。もちろん、その思いや感じたことを「書きたい」「表現したい」という意欲が高まれば、どんな書かせていき

ますし、私たちもそういった姿を望んでいます。

### 3. 言葉や文字を大切にしたい取り組み

学級での指導の中で、力を入れていることの一つに「字をていねいに書くこと、わかりやすくまとめること」があります。ユーキャンの2018年度上半期人気講座ランキングでは、資格が取れる講座に人気が集まる中、「実用ボールペン字」が5位にランキングしているほど、誰しもきれいで整った字を書くことにはあこ

がれを持つものです。子どもたちは、面倒である、早く遊びたいなどの理由で、字を雑に書く様子がしばしば見られますが、落ち着いてていねいに書く経験を重ねることで、その心地よさを体感し、次への意欲につながっています。それは、ノートをまとめるということにおいても同じです。後から見返したときに大切なポイントがわかり、見やすく、理解しやすいノート、自分だけの参考書のようなノートづくりを目指しています。また、新聞や模造紙にまとめたり、リーフレット

を作つたりする活動にも力を入れています。小学校という発達段階を考慮し、えんぴつやペンを使う良さに触れ、文字の大切さを実感する機会を設けています。そしてその際、もう一つ大切にしていることがあります。それは、辞書を使うということですが。国語辞典や漢字辞典を手に取り、一つひとつていねいに調べます。すると、調べたい情報だけでなく、他にも知らなかった様々な情報を手にすることができ

ます。本学級では「漢字先生」という学習にも取り組んでいます。漢字先生とは、ペアで二つの新出漢字を一つずつ分担して調べ、翌日それをお互いに教え合うという活動です。子どもたちは友達にしっかりと責任を持って教えようと、辞書を使って漢字の成り立ちや意味、様々な熟語などを熱心に調べてきますが、それによつて、子どもたちは新たな発見をする喜びと、友達にそれが伝わり理解してもらえる達成感を感じています。

また、「書く」学習だけでなく、「話す・聞く」学習においても、言葉を大切にしています。授業の場面において、クラス

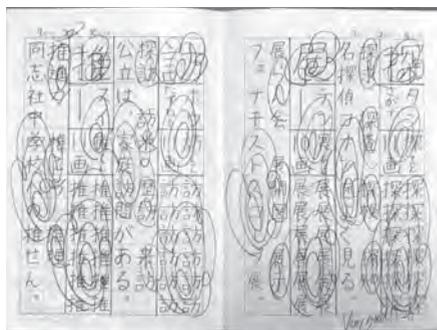
同志社小学校では、2015年度に児童用P.E.90台を購入し、Wi-Fi環境を整備し、運用を進めてきました。ロイロノートというアプリを使うことで、教材の準備や加工を短時間ですることができ、今までにできなかった授業の展開が可能になるなど、学習効率を大幅に改善することができるようになりました。また、P.E.にある様々な機能が子どもたちの学習をサポートしています。例えば、文字の予測変換機能は、正確な漢字を覚え

ていなくてもスムーズに文章が書けるようにサポートしてくれます。インターネッツを利用できることで、調べたい言葉を簡単に検索し、写真や動画も手軽に利用することができます。これにより、子どもたちの学習環境は大きく変わり、使い方によってはより便利に、より効率的に学習ができるようになりました。このことは、一見するとまさに活字離れの原因であり、前述した言葉や文字を大切にしたり取り組みと矛盾したようにも思えますが、ICT機器を使うことで、文字や言葉を書く学習や暗記することを蔑ろにするということではありません。もちろん知識として獲得しなければならぬことは沢山ありますが、そういった学習は別の時間に確保した上で、例えば、自分の意見を友達と意見交流をする時には、思考力や表現力を大切に学習しなければなりません。目的に応じて使えば、学習において非常に有用なものになります。これからの学習の方法として、暗記内容はある程度コンピューターに任せただ上、思考力や豊かな表現力を獲得する学習スタイルへの転換も必要なのではないかと

考えています。また、どのクラスにもいる学習面で課題がある子や、暗記学習が苦手な子にとっては、漢字を暗記したり言葉の意味を覚えたりする学習が思考力や表現力を養う上での妨げになっていることがあります。予測変換機能などはそういった子どもたちが学習する上で大きなサポートツールになります。プレゼンテーションでもICT機器を使う場面が多くなっています。本校では、6年生になると一人ひとりがテーマを決めて研究を行い、その成果をポスターセッションという形で発表します。その際にも、多くの子どもたちがパソコンやP.E.を使ってプレゼンテーションをしています。しかし、毎年数人の児童は模造紙での発表を選んでいきます。その子に理由を尋ねると、コンピューターを使うのが苦手という理由ではなく、自分の研究内容を伝えるためには、模造紙にまとめた方がより効果的だというものでした。もちろんICT機器にはICT機器のよさがあり、より便利に分かりやすく発表できるのは事実です。しかし、紙やペンを使って自分の考えを表現することにも

常に便利なもので、現代の我々の生活には欠かせないものです。小学校学習指導要領（平成29年告示）の総則においても、情報活用能力について言及され、プログラミング学習を体験しながら論理的思考を養うことが求められています。また、AI等の登場により子どもたちに求められている資質・能力は大きく変わり、AI等の仕組みを理解し、それを扱うことができる能力が求められています。そして、そのためにも、前述したような言葉や文字を使った思考力、表現力がより一層求められているのではないかと思われ

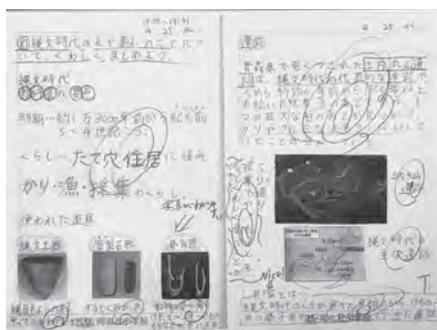
ます。同志社小学校では、2015年度に児童用P.E.90台を購入し、Wi-Fi環境を整備し、運用を進めてきました。ロイロノートというアプリを使うことで、教材の準備や加工を短時間ですることができ、今までにできなかった授業の展開が可能になるなど、学習効率を大幅に改善することができるようになりました。また、P.E.にある様々な機能が子どもたちの学習をサポートしています。例えば、文字の予測変換機能は、正確な漢字を覚え



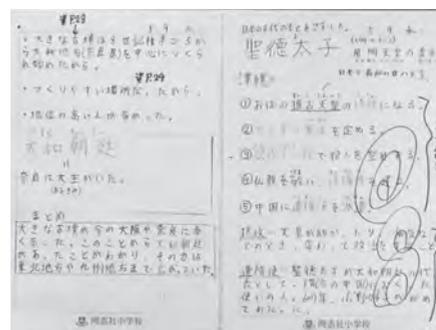
漢字ノート



漢字先生



自主学習



全員が「わかる・できる」を目指していく上で、言葉を使ったコミュニケーションはとても大切です。自分の考えを発表する際の「ここまででは分かりましたか」という確認、「〇〇に対して意見はありますか」という問いかけ、「〇〇に賛成です」という態度、「〇〇という意見と似ている」という付け加えなど、子どもたちには一方的に自分の意見を言うのではなく、聞き手を意識してコミュニケーションをとることを意識して話すように指導しています。

このようにして、文字や言葉を大切に

#### 4. ICT機器を使った授業

パソコンやタブレット等のICT機器を使うことは、読書時間の減少や活字離れを促進させる「敵」のようなもの思われています。確かにそのような面も否めませんが、それ以上にICT機器は非



ICT機器を使った授業の様子

値や言葉を使つてのコミュニケーションを大切に指導していきます。今から約10年後には今ある職業の半分がその役割を変えたり、消滅したりしていると言われていきます。その中で、道草教育をもとにしながら私たち教員も、新たな情報や外部からの刺激に目を向けて吸収し、子どもたちにとつてどのような力が必要なのかを見極め、指導にあたっていくことが大切だと考えます。これからはその中心には「活字」があり、「言葉」があることでしょう。

それではか表現することのできない良さがあります。プレゼンテーションをする子どもたち自身が何をどのように伝えたいのか、どういう思いなのかを明確に持ち、パソコンやiPad、模造紙などの中から自分の発表にあつたツールを選択できるようにすることが大切だと考えています。

このように、ICT機器を使うことで、学習の方法や内容は大きく変わってきています。今までは、図書室に行つて本を調べて情報を得ていたものが、インターネットを使うことでより簡単に情報を得ることができるようになりました。発表の際には、パソコンやタブレットを使うことで、写真や動画を取り入れることができ、プレゼンテーションの方法も変わってきています。一方で、インターネットを使った社会問題やトラブルも起こっています。だからこそ、インターネットを便利に使う方法を教えるだけでなく、インターネット上で起こる様々な問題の加害者にも被害者にもならないために情報モラルについての指導をしています。本校では「ICT Users Guide」という冊子

に情報機器の扱い方や情報モラルについてまとめたものを子どもたちに配布し、学習に役立てています。

### 5. 今後の取り組みについて

同志社小学校では「We Love Books」や「Book Reading Circle」やその他の活動を通して読書の時間や本に親しむ時間を確保しています。図書室には2500冊以上の本があり、今後も道草教育を進めていく上で、本を読むこと自体はもちろん、心を動かされる本との出会いや新たな知識の獲得など、子どもたちが読書という活動を通じて得られる価値を大切に様々な取り組みを企画していきたいと思ひます。

また、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった言語活動を通して、コミュニケーションツールとしての言葉を大切に扱い、ICT機器の良さもうまく取り入れながら、思考・表現する際にはツールをその目的と合わせて取捨選択できるように力をつけていきたいと思ひます。ICT機器が今まで以上に発達し、社会が加率的に変化していく中で、言葉の価

2018年6月14日、同志社大学今出川校地良心館にて、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」シンポジウムを開催しました。

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」は、2018年度からスタートした事業で、「同志社大学ビジョン2025」において掲げたテーマに即した教育プログラムを公募し、今年度は大きな成果が期待できるプログラムを5つ採択しました。シンポジウム当日は松岡敬学長の開会の挨拶に始まり、今年度採択された5つのプログラムについて事業責任者、担当者から紹介がありました。続いて、5人のパネリストを招きパネルディスカッションを行いました。稲岡恭二教務部長がモデレーターを務め、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」が



松岡敬学長

動経済学や社会心理学をベースにした事例分析重視の授業を行う。また従来の講義型授業ではなく、反転型授業を実施。学生は事前に公開される解法ビデオを使って予習しておく、授業で関連問題を解くスタイルを取る。将来的には中高大連携によって真のオール同志社の事業へと発展させると同時に、他の教育機関の教員も本プログラムの教員研修プログラムを受けられるようにして、広く社会貢献へとつなげたい。

〈産官学連携を中核としたキャリア形成プログラムの策定〉  
担当・新関三希代Ⅱ経済学部教授



現在、経済学部にはキャリア形成のための多様なインターンシップ制度がある

が、経済学研究科では大学院をターゲットにしたプログラムが質・量ともに不十分である。また、経済学研究科にはアジア諸国からの留学生が多く、日本語能力の不足に起因した進路の不安定性が、彼らのモチベーション低下の原因となつて

## レクチャー

### シンポジウム

# 「All Doshisha 教育推進

# プログラムが目指すもの」

目指すもの」と題し、本プログラムの意義について考える機会を持ちました。

第一部 2018年度プログラム概要

「ALL DOSHISHA 論理的思考教育プログラム」

担当・下嶋篤Ⅱ文化情報学部教授



情報過多の現代社会において、論理的思考を貫き合理的な判断力をもつて社会に貢献できる人物を養成することが、本プログラムの目的である。

論理的思考力を「①論理エンジンⅡ情報と比較・分析し、異なる論理的道筋を区別し正確に結論を導く能力②論理的読解力・表現力Ⅱ与えられた論証・論説に含まれる複雑な論理的道筋を正確に分析し、自らが同等の論証・論説を構成できる能力③論理適用力Ⅱ誤りを起こす心理的条件や、誤りを誘う修辞・説得の手法への耐性」と考え、①②を基礎能力、③を応用能力とする。基礎能力の育成には、形式的証明や、論証図を用いた反復トレーニングを行い、応用能力の育成には行

〈グローバルマインド養成を目的とした日本人学生と外国人留学生との必修プログラム〉  
担当・松川真美Ⅱ理工学部教授



2009年度に採択された国際化拠点整備事業（グローバル30）の特色の1つ

「国際科学技術コース（ISTC）」は、10年に開設以来、博士課程（前期課程および後期課程）で162名の外国人留学生を受け入れの実績がある。ダブルディグリーなど学部間協定の締結校は24校に増加し、理工学部では確実に国際化が進行中である。しかし日本人学生の派遣の伸び悩み、閉鎖的な留学生コミュニティなど、課題は多い。グローバルマインドを持つた国際人をさらに養成するためには、日本人と留学生が対等に学びながら双方のニーズを満たす必修プログラムが必要である。

本プログラムは、学生主体のPBLプログラムであり、日本人学生と外国人留学生が交流し、日々の学生生活において双方が感じる課題や問題点を発見し、協

いる。日本人学生も含めて、大学院生に具体的かつ多様なキャリアパスを明確化することが急務である。本プログラムでは世界各国で活躍できる人物の養成はもちろん、日本で研究活動を行う外国人留学生をターゲットにしたキャリア形成プログラムの構築を目指す。経済学研究科に正規科目と課外講座を置くと同時に、外部のステークホルダーと連携して外部評価を受けるシステムを構築。企業のニーズを掌握し、企業の求める人材像を明確化するとともに、経済学研究科の定めるポリシーとの整合性を測りながら、新たなキャリア形成プログラムを開発する。また学生の満足度調査や採用担当者へのヒアリングなども定期的に行い、多方面から評価をしながら職種・業界を単位として最適なプログラム開発を目指す。就職支援ではなく、あくまでも人物養成に主眼を置いたキャリア支援が狙いであり、最終的には経済学研究科の社会的ブランド力向上へとつなげたい。

働いて課題を解決・改善するプログラムである。その共に学ぶ（共修）の過程の中で、グローバルマインドの3要素である①グローバルな視野②多様性の尊重③異文化理解を身に付けることができると考えている。

ただ単に日本人学生と外国人留学生が交流するプログラムではなく、協働することで解決できる課題（目標）を設定し、その明確な目的（課題解決）を達成するために協働してプログラムに取り組み、とで、①前に踏み出す力（アクション）②考え抜く力（シンキング）③チームで働く力（チームワーク）といった能力が身に付くことも期待している。

学生から提案される課題の規模はまったく未知数である。あくまでも学生主体のプログラムとして運営していく以上は、学生を支える体制が非常に重要になる。特に本プログラムは正課科目ではなく、課外活動としてのプログラムであるため、学生のモチベーションを維持させつつ、主体的に参加する仕組みが提供できるように、きめ細かいサポート体制が必須である。そのため、プロジェクトごとにアドバイザリー教員を設置し、プロジェクトの進捗状況の把握や助言等を行

## ＜ALL DOSHISHA サイエンスコミュニケーター養成プログラム＞ 担当・野口範子Ⅱ生命医科学部教授



遺伝子組換えや再生医療など急速に科学技術が発展していく現代、正確に科学技術を理解し科学的根拠に基づいて行動を判断する能力、つまり科学リテラシーを持つ人材の育成が急務である。2016年生命医科学部は経済学部との間に、関西初の文理横断型「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」をスタート。18年現在、社会学部、文学部を加えた4学部に設置されている。

主に学部2、3年次生を対象に、定員40名+αの「意欲ある学生のための少数制教育」を軸とする。学生は「サイエンスリテラシー科目群」および「コミュニケーションキーター関連科目群」から学修し、異分野からとらえた科学の一般への伝え方を考える。今出川・京田辺両校地間でのテレビ中継、メディアを含めた企業・病院などを訪問する短期インターンシップ、学部の枠を超えた発表会なども実施。18

う予定である。また理工学部の事務職員がサポーターとして、定期的に学生へ進捗状況のヒアリングを実施し、各プロジェクトの悩みや相談等を受け付ける予定である。

本プログラムで得られた成果は、将来の理工学部・理工学研究生に積極的に還元することを想定している。もちろん他学部・他研究科にも波及できる成果である場合は、関連部署と調整しながら、学内外を問わず積極的に還元したいと考えている。

## ＜安全・安心のための課題解決力をもつた良心を手腕とする高度技術系職業人養成プログラム＞ 担当・千田二郎Ⅱ理工学部教授



航空機の部品落下事故、排ガス不正、メーカーによる検査報告の不正など、安全に関わる重大案件が多発する現代。団塊世代の大量退職により、熟練技術者の補充も急務である。安全・安心な社会の構築に向け、良心をもつてこれらの課題

を解決できる高度な技術系人材を育成するのが本プログラムの目的である。現在は理工学研究科機械工学専攻に「安全技術者養成コース」を常設、運営している。人文科学との連携、外部専門家の招へいなどを行いつつ、本プログラムでは①系統立てた知識・学問の修得②高い問題点の分析能力の付与③高い技術者倫理の具備④国際標準に沿った安全への高い意識と知識の獲得を重点的に目指す。博士課程（前期課程）では「安全工学（英語講義）」「リスクマネジメント」、国内外の企業や大学と連携した安全安心実習などを必修化。博士課程（後期課程）では国際報告会、プロジェクトマネジメント実習を通して、より高い総合力を身につけさせる。2019年には本コースを研究科内の全専攻へ展開し、広範な視点、俯瞰力、ボーダーレス社会への適応力などの獲得を目指す。20年には学内の文系学部・研究科とも連携し、長期的には文理融合型の安全・安心のプロフェッショナルの輩出を目標とする。

年8月には、本副専攻の学生が中心となり、同志社大学で世界学生環境サミットを開催した。

メディア人など社会から注目される人物を輩出すると同時に、企業広報部などには即戦力となる人材を送り、同志社大学の存在感をさらに顕在化させることが当面の目標。また、本プログラムを科学的な後期教育プログラムの核へと育て、科学と社会をつなぐグローバルリーダー、サイエンスコミュニケーターの養成を目指す。

## 第2部 パネルディスカッション

（モデレーター：稲岡恭二Ⅱ理工学部教授）

### 人物養成の上で重要な取り組み

稲岡 今日5つのプログラムの責任者である先生方から、プログラムに関する質問への答えと、メッセージをいただきます。また考えたいと思います。まず1つ目の質問です。各プログラムにおいて、人物養

成の上で最も重要な要素は何だとお考えですか。そのためにどのような取り組み、科目を提供されていますか。

下嶋 考える力が一番重要です。今の学生は、考えを極めていくことについて非常に不利な状態に置かれています。手元にはいつもスマホがあり、何かを考えようとするときに、すぐ調べてしまう。かといって、人生で自己実現していくためにはいろいろなことを考えないといけない場面が多くある。この残念な状況を変えるために、思考力を鍛えるプログラムを進めていきたいと考えています。

新関 私もそういう意味では、基礎学力を持った学生の養成を考えています。経済学研究科においては高度な専門的知識に基づいて論理的思考能力・応用力を発揮する人物の養成を目標に掲げていますが、日々変動するグローバル社会に対応するためには基礎的な力が不可欠です。社会に出たとき、求められる力を必要ない場面です。現時点では、現在の経済学研究科が定義している理論と科目をしっかりと学んでいただきたいと思っています。

松川 新島先生がおられたフィリップスアカデミーの教育方針に「Noa shi」とい

う言葉があるそうです。“nur for self”という意味です。日本人と外国人、そして学年の違う人たちが集まって行うこのプログラムでは、グローバルな視点、多様性の理解、異文化を乗り越えて頑張るという3つの大きな柱で頑張っていたらいいと思います。1、2年次の留学生が、ほとんど日本語を話せない留学生と協働するのは大変です。しかし自分のためだけでなく、来年の1年生や新しい留学生のために、こんなことができるのではと想像して各自が目標設定をしてほしい。そして留学生も日本が分かり、日本人もさまざまな外国の文化が分かる。双方向から真の国際人を育てていければと思います。これからは、理系文系にかかわらず、そのような人材が社会に最も役立つのではないか。そのバックグラウンドには“Non sibi”という、世の中や他人のことを考える心があつてほしいものです。

**千田** 私もやはり、学生の問題意識が非常に希薄化し、基礎学力が低下しているという危惧を持っています。もつと広い分野の知識を吸収するという動機を持っていない。理工学部では技術者倫理の養成のために、高度な社会・文明の発達と

環境保護という両面を考えて、持続可能な社会を創生できる人材の育成が重要だと考えています。そして社会に出て、知恵を使って物事を作っていくには基礎となる広い知識が非常に重要であり、企業では安全技術・安全倫理が分かっているという特異なポテンシャルが必要であると思います。

**野口** サイエンスコミュニケーターはさまざまな科学技術について、その内容が社会と人にどんな影響を及ぼすかを直ちに判断できる人であつてほしいです。その上で正確な情報を人に伝える。伝える相手が何を求めているか、何が分からないのかということをきちんと汲み取る能力が求められると思います。伝えたい情報を分かりやすい形に変えても、相手が求めているものとずれていては意味がありません。やはり人の気持ちを汲み取ることの重要性も含めて教育したいと考えています。

#### プログラムの波及効果

**稲岡** 2つ目の質問は、同志社大学の教育の質的向上のために、この教育プログラムを通して、どのような波及効果が考えられるのかということです。この場で

改めて皆さんと共有したいと思います。**野口** 私たちのプログラムは少人数制教育なので、どういう学生がどんな状態であるのかを把握しています。仲間を牽引できる、社会のリーダーになれる人を育てたいと思っていますので、人数は少ないけれども、そういうリーダー養成につながることを考えています。

**稲岡** 既に文系学部と理系学部のコラボレーションで行っていることは、ある程度、野口先生の中では実感のある話でしょうか。

**野口** 現在参画している4学部で行う運営連絡会は年に1回しかまだありませんので、連絡会をもつと密に行えればと思っています。それは課題でもあります。

**千田** 同志社大学は大きな2つのキャンパスに分かれています。この今出川と京田辺で持っている各学部の学問体系の境界領域、新しい学問の創生、境界学問をさらに明示的にすることが非常に重要ではないかと思えます。もう一つ、波及効果ではないのですが、学生にとつての出口、つまり就職をいかに担保してあげるかも大学の義務だと考えています。会社が受け入れやすい人物、会社が要望する人物を養成して、ウインウインの関係を築く。

大学と企業をもつと有機的につなげるという出口戦略が重要であろうと思えます。**稲岡** 学内の波及効果だけでなく、社会との連携など学生の就職を含めた広がりも考え、かつ、もつと明示的な科目整理が必要であるということですね。

**松川** いま理工学部では「Academic English for Science」を1、2年の授業があります。留学生や大学院生がTAになり、英語で論文を書いたり英語で実験をしたりする授業です。かなりハードな授業ですが、今年は定員を大幅に超えて380名もの応募があり、学生は嬉々として学んでいます。しかし、留学生も学び学部生も学ぶという相互的なものがないと、TAは一つの大きな仕事ではあるにしても、いつまでも留学生はお客様さんではないかと思えます。このプログラムは、将来の留学生と留学を希望する日本人学生を獲得するために、留学生と学部生が頑張るプログラムですが、そういうあり方は他の学部にも十分適用可能かと思えます。留学生は日本で就職するときにかなりアピールできるでしょうし、日本人学生は海外での足がかりになる。そういう大きな波及効果があればいいと思っています。

**稲岡** 実際に成功事例を出していくことが、このプログラムの肝になつていくわけですね。

**新関** 私たちのプログラムは、基本的には大学院の留学生のためのキャリア支援というイメージですが、該当する留学生が日本人学生に与える波及効果を含むと考えています。もう一つは、いま学部では海外インターシップなどのプログラムが既に進んでいます。学部生を教育できるようなリーダー格になるためのプログラムも念頭に置いていますので、そういう意味での学部への波及効果も考えています。理系では大学院で学んだことが就職先で生きることが多いと思いますが、文系の場合はそういうパスがあまりない。しかし文系の場合でもアウトプットを見せ、行き先を明確化することで、彼らの研究成果や研究のモチベーションが向上することを期待しています。そのような効果が実証されれば、他の文系研究科への波及効果や、理系の学生への文理融合的な波及効果もあるのではないかと考えています。

**稲岡** 経済学研究科、経済学部を軸に、他の研究科、学部への波及効果も考えておられるということですね。

**下嶋** 我々のプログラムは、さまざまな学部で使っていただけの初年次教育という位置付けで考えています。波及効果としては、おそらく皆さん共通の悩みかと思えますが、学生の論文やレポートを読んでみると、文章力や構成力に疑問を感じることもある。本プログラムで学べば、何が論理的で何が論理的でないかの区別はつくようになると思います。自己評価ができるようになると、すべての文章力の問題が解決するとは言いませんが、そういう意識もできるのではないかと。教員研修プログラムも作っていますので、各学部で教えられる先生を養成させていただくことができます。このような動きを広めたいと考えています。

#### 各プログラムから学生へのメッセージ

**稲岡** 私も実験科目を担当していますが、ひどい実験レポートもあります。そのような学生に論理的思考教育を初年度から受けてもらう。自分の中に種を播き、自己増殖してもらう。専門科目でもその力を発揮してもらう。教員は非常に助かります。教員養成に関しても新しい考え方がだと思えました。私も論理的な思考ができないこともあります。道場みたいなも

のが開かれたらぜひ参加したいものです。今まで2つの質問をきつかけに、各プログラムをひも解いていこうとしました。最後に、このプログラムを進めるにあたり、学生および学内教職員に対するメッセージをお願いたします。

**下嶋** 学生が「考え抜く」という環境は、いま非常に悪い状況にあります。我々も何とかしたいといけないし、学生にも、そのことを意識した方がいいと言いたい。そのための論理的思考プログラムです。学生も良心に従い、考え抜いて、自分の行動を決めてほしいと思います。

**新関** このキャリア支援プログラムを通じて、経済学研究科の競争力アップを狙ってはいますが、ひいては同志社大学全体のブランド力、競争力のアップにつながっていくと思います。全教職員が同じように取り組んでいくのだという目的意識を持っていただければと思います。

**松川** ある留学生から帰国後に、なぜ私たちには同窓会からお呼びがかからないのか、私たちも同志社の卒業生なのにと言われたことがあります。彼らは、自分も同志社人であると思っています。彼らは帰国後に就職してからも同志社の話をしま

すし、海外企業に勤めて日本のブランディングにいれば、同志社ヘリクルーティングに来てくれます。そういう人たちと一緒に、世界的に同志社のあり方を考えていくチャンスが望ましい。この共修プログラムは、日本人学生と留学生が次の同志社の学生に向けてメッセージを作るようなプロジェクトであればと思っています。そして皆で新たな視野、地平線を広げられればと思います。

**千田** 今の学生は考える力が低下し、パーチャルに生きている。非常に受動的である。もつと問題意識を持たせるような教育が必要でしょう。例えば原発問題をどう考えるかなど、こちらから問題提起をして自分で考えてもらおう。将来自分がどういう技術者になるのかというビジョンを思い描けていない学生に言いたいのは、自己実現をして、社会の中でどう自分のポジショニングを取るかということ。を真剣に考えてほしいということです。

**野口** 今の日本の教育課程や受験システムでは、高校生は早くから理系か文系かという選択をさせられます。大学に入ればそのまま文系か理系かという道にしか行けません。実際、サイエンスに興味があるが数学が苦手だから文系を受験する、

あるいは逆もある。そういう意味でも副専攻参画学部をもつとを増やして、多くの学生に履修してほしいと思っています。そのためには他学部の先生、職員の方にお手伝いいただく場面も出てくると思いますが、学生を育てるということで、ぜひ一緒に行動していただきたいと思

**稲岡** 本プログラムは始まったばかりですが、6年、7年、8年と続けていき、2025年にはすべての同志社人の中で考えていける、大きな事業になればと改めて思いました。今日のデイスカッションによつて、目指す方向の共有はできたのではないのでしょうか。来年は1年目の成果報告会ということで、セッションを行いたいと思います。本日はありがとうございました。



2016年7月から京田辺キャンパスの整備事業を実施し、聡恵館ラーニング・コモンズと併設して食堂棟（恵愛館）を2018年3月に竣工しました。

もともと恵愛館は1987年に田辺キャンパス（現在の京田辺キャンパス）北側に建てられました。1階に食堂や購買部、2階には多目的ホールや課外活動施設などが配置され、看護学部関連棟「蒼苑館」建設に向けて2014年1月に解体工事が始まるまでの約27年間、課外活動施設として使われました。

新しい恵愛館は京田辺キャンパス南側に建てられ、ウイंकクルムの庭と一体化した食堂空間となっており、開放的なガラスや既存の建物と調和するレンガ、自然の風合いのある木造屋根が特徴的な建物となっています。屋内とテラス席を合わせて約230席設けられ、周辺の樹木や草花により華やかさが添えられています。

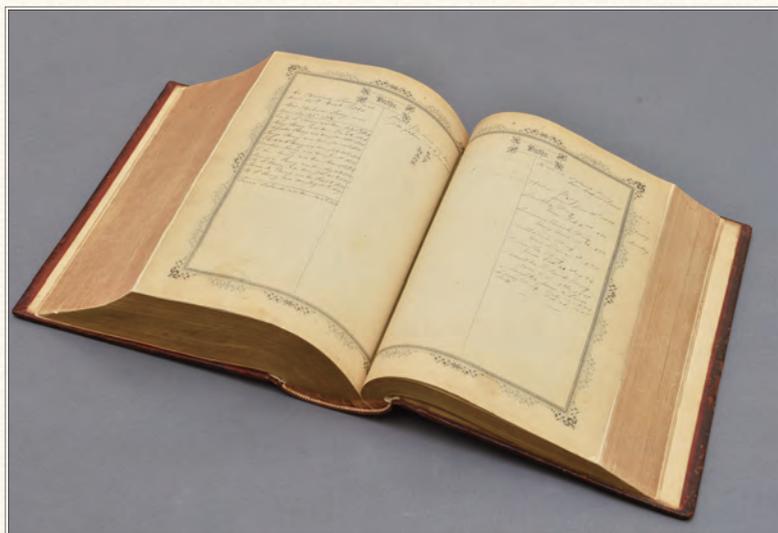
建物の名称は、コリントの信徒への手紙一16章23〜24節「主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。わたしの愛が、キリスト・イエスにあつて、あなたがたと共にあるように。」に由来しています。



同志社の逸品

— collection 8 —

# セイヴォリー家の家族聖書



新島は1864年(元治元)7月17日(陰暦6月14日)、鎖国令を犯して箱館(函館)から密出国を果たすが、その際彼を助けた一人が、ウイリアム・T・セイヴォーリー(1827~1897)であつた。セイヴォーリーは、長崎のトーマス・ウォルシュ会社所有のベルリン号のアメリカ人船長である。新島が上海で下船した後も、ボストンのアルフィアス・ハーディー商会所属のワイルド・ローヴァー号への乗り換えを斡旋するなど、新島のアメリカ渡航を支援した。後にセイヴォーリーは、密出国を助けたことにより解雇される。このことを知つた新島は、1864年(元治元)10月13日(陰暦9月13日)の航海日記に「嗚呼、予、先甲比丹〔著者注…セイヴォーリー船長のこと〕をして不幸に陥らしむるは実に笑止千万之事なり。然し過去〔の〕事如何ともし難し、他年学成の後彼に仕へ、万方其恩を報せば、恐らくハ少しく予罪を償ふに至らん」(『新島襄全集』5巻49頁)と記している。

しかし、セイヴォーリーは1865年8月24日に、ボストン到着後もワイルド・ローヴァー号に足止めされていた新島を訪ね、その無事を喜んでゐる。新島も、セイヴォーリーに恩義を感じており、マサチューセッツ州セイラムを訪れて船長と面会し、また帰国後も手紙などのやり取りを行った。

今回紹介するセイヴォーリー家の家族聖書は、フィラデルフィアのLIPPINCOTT, GRAMBO&Co.から1851年に出版されたものである。旧約聖書と新約聖書の間に関族の結婚や誕生、死亡の年月日を記載するページが設けられており、誕生を記載するページには日本語で「日本江戸 新島約瑟」、英語で「Joseph Nee-Sima was born in Yedo, Japan, 14th, Jan, 1844.」との署名がある。生年月日に誤差が見られることもあり(正しくは陰暦では1843年1月14日、陽暦では1843年2月12日)、新島直筆の署名かどうか定かではないが、「約瑟」は新島が留学中である1869年(明治2)5月27日頃から「Joseph」の漢字表記として用いた名前である。

なお、本資料は2008年(平成20)11月5日に同志社社史資料センターに寄贈された。寄贈者のアーサー・G・ブリガム氏は、セイヴォーリーの曾孫にして同志社女子大学非常勤講師を務める人物である。セイヴォーリー家と新島、そして同志社との奇しき縁を感じさせる資料である。

同志社社史資料センター

# 日本学術振興会賞 受賞に寄せて

大学生命医科学部教授 飛龍志津子

この度、第14回日本学術振興会賞を頂きました。このような賞を頂くことができたのも、一緒に研究を進めてきた多くの学生の皆さん、またご指導くださった先生方からのお力添えによるものです。この場をお借りして心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

このような機会に恵まれましたのも、学科の先生方からのご推薦がきっかけでした。ご自身も多忙を極めておられる中、学科の先生方からは様々な場面でお声がけや励ましを日頃から頂いています。今回、ご推薦いただいたことを機に、自分よりも若い方や学生の皆さんに少しでもチャンスが訪れるよう、私自身もより心がけるようになりしました。チャンスは自分から取りにいかないと、とよく言われます。しかし私自身、振り返ってみますと、周囲の方からのお導きや支えによつて、チャンスや夢が叶ってきたようにも思います。

研究室の学生の皆さんや卒業して活躍中の若手の研究者の皆さんには、このような賞をもつと身近に感じてもらつて、自分たちの努力や成果を認めてもらつたんだと、自信を持つてチャンスを掴む何かのきっかけにしてもらえれば、と願っています。

授賞式はこの2月に、日本学士院で行われました。博士時代の恩師の渡辺好章先生、また修士時代の恩師でもある松川真美先生もご出席くださいました。お世話にな

つた両先生方に見ていただき、とても嬉しかったです。壇上には秋篠宮同妃両殿下のご臨席され、初めての雰囲気にとっても緊張したことを覚えています。授賞

式後の記念茶会では、受賞者はそれぞれ両殿下とお話する時間を頂きました。秋篠宮様からはコウモリのいくつかの学術名をお聞きし、そのお詳しさにとても驚きました。紀子様からは、皇居内で悠仁様と一緒にコウモリを観察されたお話を聞きました。

緊張と嬉しさが交わる、とても大きな一日でした。頂いた賞に恥じないよう、これからより一層、努力していきたいと思います。



授賞式にて生命医科学部 渡辺好章先生と  
(日本学士院)

## 尺八、国境を越えて

中学校・高等学校教諭 Gabriel Frost JOHNSON

最近20年間弱の期間を経て、尺八師範に昇格した。これまでの歩みの一部を紹介したいと思う。

「なぜ尺八が好きになったのか」とよく聞かれる。答えは簡単。音色が綺麗で、出せる音が無限にありそうだから。体に合せて無数の音を発するアナログなシンセサイザーのように感じる。音楽というのは人間の心の喜び、悲しみを表すときよく言われる。尺八ももちろんそうで、宇宙を想像させるような音もある。尺八表現の豊かさは本当に魅力的である。そして私にとって人と人を繋げるパワーもある。

勤め先の同志社高校にも縁がある。20年間もお世話になっている倉橋容堂先生は同志社高校68年卒である（私の雅号はジョンソン霜堂（そうどう）というが、霜堂は先生の堂を私のミドルネームFrostと組み合わせたものだ）。数十年間プロ音楽家として活動に専念している。彼のもとで三味線、琴と組んで演奏する地歌もするし、民謡も、お寺でお経の代わりに演

奏されていた神秘的な本曲という種類の音楽もやっている。もう一つの同志社との縁は、2014年の夏にアーモスト大学で演奏をすることが出来たことだ。私はほとんどアーモストの街の出身で、久しぶりに里帰りした時に、日本の人生や日本文化を紹介したいと思いい、アーモスト大学で幼なじみが働いている縁もあって、向こうの Frost Library Program Committee主催で演奏を開いた。アーモストと同志社との繋がりを祝う日本庭園の「友志園」に隣接した、新島先生の写真が飾られている部屋の近くで数十人の前で演奏させていただいた。地元の人や学生に日本の音を聞いていただく、いろんな質問も受けて嬉しかった。

最後に一番最近の活動を紹介したい。6月に日中伝統芸を研究しているグループに招待され



北京の発表会での演奏



倉橋容堂先生と

北京の発表会に参加した。そこで共演の田氏に出会った。尺八は1000年以上前にもともと中国から雅楽とともに日本に渡った楽器だが、中国ではその当時の笛を吹かなくなつた。田氏はその笛を研究し再現した革命家である。彼との出会いはとても刺激的で、さらに尺八の歴史、国際的の繋がりの大切さに関心を持たせていただいた。尺八師範として今後も同志社とアーモスト、日本と中国、いろんな繋がりに貢献をしたいと思う。本業である英語を教えることも同じく人と人を結びつける道を魅するところだ。尺八、音楽の本当の魅力もそこにあるのかも知れない。

メディア創造学科名称変更記念公演

## 平田オリザ作・演出 アンドロイド演劇《さようなら》について

女子大学学芸学部教授 森公一 もりこういち

アンドロイドに魂の慰めが可能か？

馬鹿げたジョークのように聞こえるかもしれない。しかし平田オリザ氏の手にかかると、それは一定のリアリティを持った問いとして響いてくる。6月13日、新島記念講堂にて開催したアンドロイド演劇《さようなら》は、これから死にゆくとうとする人の魂や、既に死んでしまった人の魂を、詩の朗読によって慰めるアンドロイドの貢献が描かれた演劇作品である。とりわけ舞台後半のアンドロイドと配送業者のやりとりは庄巻であった。ここでは双葉町に送られることになったアンドロイドに、新たな任務が与えられたことが暗示される。人の立ち入りが禁止されている海岸で、未だ発見されていない死者（行方不明者）に対して詩を朗読するのだ。数少ない言葉のやりとりにもかかわらず、あたかもその光景を現場で見ているかのごとくわたしたちの想像性が引き出され、強烈なアイロニーとリアリティが、微かなファンタジ

ーとともに去来する、いまだに余韻の残る見事な舞台であった。

女子大学情報メディア学科は、メディア創造学科へと名称を変更し再スタートした。本年度から創造性の涵養に関わる科目のバリエーションとして、演劇・パフォーマンス系の科目を新設。また必修科目の「メディア創造基礎演習」では、ロボット活用のアイデアを探索するハッカソンのアイデアを準備中である。今回のアンドロイド演劇《さようなら》は、これら新科目の内容と連動しつつ、学びへと繋がる刺激を得るために企画したものである。一つは演劇表現における創造性、とりわけ平田オリザ氏における脚本や演出の創造性に触れること。もう一つは劇においてモチーフとなつたアンドロイド（ロボット）の存在について、今後ますます問われるであろう人間との関係性や社会における位置について考えることである。《さようなら》はこうした意図に的確に応えてくれる作品であり、創造性の涵養とともに根源的な問



「アフタートーク」：公演後のアフタートーク（平田オリザ氏と森公一） 撮影：清水久美



「さようなら」：言葉を交わすアンドロイドと女性 撮影：辻彩音

いをもたらず極めて良質な刺激剤であった。

## 近畿税理士会主催の「租税教室」に片岡愛之助さんが来校

香里中学校・高等学校教頭 藤井宏樹

2018年2月5日(月) 5・6時間目に近畿税理士会主催の特別授業「租税教室」が開催されました。

まず、講師の阿乘栄美先生(税理士)より、税金の基本的な仕組みと税金の種類(飛鳥時代には1,500もあつたが、現在は50ほど)、歳入・歳出の割合等に関する講義が行われました。その後「税の集め方」と使い方は議会で決められるので、有権者がそのことをしっかりと考えたうえで投票することが大切です」という話のあと、3つの模擬政党の公約を聞いて互いに議論したり、候補者に質問したりして投票先を決める模擬選挙を行いました。この授業



には高校3年生約300名が参加しましたが、2017年秋の国政選挙で投票を済ませた生徒もいましたので、身近な問題として捉えることができたようです。投票の結果、「消費税増税分は大学までの授業料無償化や子育て支援に充てる」とした「充実党」が圧倒的多数で支持されました。

亜乗先生のとめのあと、サブライズ企画として近畿税理士会の

広報キャラクターを務められている歌舞伎俳優片岡愛之助さんが登場され、生徒からの質問を受けながら租税教室の感想や税に関する考えを述べられました。

この様子はテレビや新聞等で報道されたほか、近畿税理士会の広報誌『近畿税理士界』648号(4月10日付)で、生徒3名の感想文とともに詳しく紹介されています。

## 全国高等学校アーチェリー選抜大会準優勝

女子中学校・高等学校教諭 山田慎吾

2018年3月26日(土)28日、静岡県掛川市つま恋で開催された全国高等学校アーチェリー選抜大会において、本校アーチェリークラブの田原紗莉さんが準優勝という素晴らしい成績を収めました。

この大会に出場できるのは、その年度の11月までの試合で出した得点から選ばれた上位25名のシード選手と、各都道府県の代表選手のみで、団体戦・個人戦両方でチャンスのある夏のインターハイ以上に出場するのが難しいとされています。田原さんは、夏の試合での点数により23番目のシード選手としてこの大会に出場しました。

選抜大会への出場が決まる前、高校に進学してから初めての全国大会であつた夏のインターハイは、個人戦では5位に入賞しながらも、団体戦では独特の雰囲気吞まれないという不本意な結果に終わりました。敗れた直後から自分には何

高得点を出すためにはどうすればいいのか、ということ自ら考え、工夫しながら練習に取り組んできました。

その練習の甲斐あつて、1日目の予選は上位の多くが2年生で占められる中、(当時)1年生ながら安定して高得点を出し続け、予選を10位で突破しました。2日目の決勝トーナメントでも、持ち前の集中力で接戦を制してトーナメ



ントを勝ち進み、準優勝に輝きました。

決勝戦を終えて多くの人が準優勝を祝福する中、泣き崩れる田原さんから最初に出た言葉は「悔しい」でした。田原さんはまだ満足していません。現在は、インターハイの団体戦で優勝して昨夏の雪辱を果たすため、「次は勝つ」という気持ちを胸にチームメイトと一丸となつて練習しています。

# 賛美歌だって時にはポップなのである



せきや なおと  
関谷 直人  
(大学神学部教授)

## 1. 賛美歌のイメージ

「賛美歌」という言葉で何を連想しますか、と学生さんに尋ねると、たいていは「荘厳」「神聖」という言葉を思い浮かべられない。「真面目すぎて少々つまらない」と答えた学生さんもいた。しかし、私はここで言いたいのである。「ポップな賛美歌もあるんですよ」。

## 2. 「プロパガ」の礼拝

私の研究テーマの一つが、この「ポップな賛美歌」を用いた礼拝である。賛美歌に対して大方の人が持つているであろうイメージを裏切るこの「ポップな賛美歌」であるが、実は世界のキリスト教全体の潮流から見ると、傍流どころか今ではむしろ「本流」と言えるほどの興隆ぶりなのである。いわゆるアメリカの「メインライン教会」(主流派教会)と呼ばれる伝統的なプロテスタント諸教派においてあまり礼拝で用いられることがないこうした賛美歌も、一般に「エバンジェリカル」と称される保守派の教会、とりわけ「ペンテコステ派」の教会の礼拝では、ほぼ「排他的」に歌われているのである。そこではパイプオルガンや電子オルガンなどの「伝統的」な演奏機材は背後に下がり、礼拝堂前部の説教壇の周りにはロックコンサートステージよろしくピアノ、キーボード、ドラム、エレキギター、エレキベースなどが所狭しと

並べられているのである。多くの「メインライン教会」においてその礼拝参加者の多くが高齢者であるのに対して、これらの教会には多くの若者が集まっていることは想像に難くないであろう。

## 3. 「ポップな賛美歌」

そこで演奏されている「ポップな賛美歌」であるが、実はさほどみなさんから遠くにあるものではない。たとえば1960年代から日本で流行した「フオークミュージック」。少し時期を重ねながらやってきた「ビートルズ」や「プリティッシュロック」、「ハードロック」。最近の「オルタナティブ」や「ラップミュージック」など、みなさんが日常的に耳にしているであろう種々のポピュラー音楽。聴いた感じはあの手の音楽だと思っただけで構わない。ただ、いわゆる「世俗」の音楽とは決定的に「歌詞」が違っているのである。メロディーだけを聴いている限りではわからなないのだが、ひとたび歌詞に目をやるとそれらの曲が「賛美歌」であることが「一目瞭然」となるという具合なのである。

## 4. ジーザス・ミュージック

これらの「ポップな賛美歌」は主に1960年代にアメリカの西海岸で若者を中心としたある種の信仰復興運動である「ジーザス・ムーブメント」から生まれたいわゆる「ジーザス・ミュージック」

に起源を持つ。ベトナム戦争の体験は多くの若者を「アメリカン・ドリーム」から目覚めさせた。既存のキリスト教に飽き足らなくなった彼らが新しいキリスト教共同体のあり方を模索した「ジーザス・ムーブメント」にはそれにふさわしい賛美歌が要請されたのである。それが、当時流行していたアメリカンポップ・ミュージックにキリスト教的なメッセージを乗せるという「ジーザス・ミュージック」(「ジーザス・ロック」とも呼ばれた)なのである。それらは1980年代に入りると、音楽性においても、その制作過程販売方法においても、格段に洗練されたCCM(Contemporary Christian Music)へと成長していくのである。

## 5. 「In God We Trust」(我神を信ず)

例えば、見た目や演奏スタイル、曲調は全くの「メタルミュージック」なのだが、その歌詞は純然たるキリスト教のメッセージというのは、かつて80年代にロサンゼルスを中心に活躍した「ストライパー」の「In God We Trust」(我神を信ず)である。こうした曲を聴いていると、アメリカの「ポップな賛美歌」の幅の広に驚かされるのである。



## 6. Amy Grant

Strayperほどではないにしろ、明確にポップ路線で神様を賛美する道を進んできた代表格はAmy Grantだ。1982年にはアルバム「Age to Age」がキリスト教関係の楽曲としては異例の100万枚を売り上げ、注目を集めた。後にこのアルバムは「プラチナディスク」となるのである。

## 7. 「賛美歌は音からポップだった？」

こうした「ポップな賛美歌」が今、世界中で若者の心を掴んでいることを、(私も含めて)伝統的な教会が「非伝統的」と理由で無視することはもはやできないだろう。誤解を恐れずに言うならば、プロテスタントの礼拝音楽はいつでも「ポ

**In God We Trust**

「金がものを言う」って言われているけど  
もし本当だったら何て言うんだろ  
毎日毎日アノ4文字をみている

お金持ち、貧乏人  
でも天国はちゃんと正しい選択をする人  
達のもの  
お金なんかを信用しちゃいけないよ  
だめになっちゃうよ (何度も何度も)

神を信じなさい  
彼をこそ私たちは信じなさい  
(彼だけがただ一つの道)  
神を信じなさい  
彼のひとりを受け入れなさい  
(明日じゃ遅すぎるよ、今日イエスを受け  
入れよう！)

**Age to Age**

肩には車輪  
誰かさんの身勝手な利益のために  
何の余地もなく  
人は働き  
鉄の玉と鎖のように怒りを背負う  
灼熱の太陽はすぐに沈み  
そこには自由の歌が  
一日の終わりに彼らの歌を聞いた  
聖なる人に捧げるその歌は

導いてください  
導いてください  
あなたのもとへ通じる  
川の流れへと  
導いてください  
導いてください  
用意されているはずの救済と  
安楽を求めて——お導きを



ップ」であった。少なくとも基本的な「同時代性」や「大衆性」をもっていたはずなのである。バツハシかり、マルチン・ルターしかり、アイザック・ワッツしかりなのである。皆、その時代時代で、人気のあった音楽スタイルやメロディーを採用してそれぞれの賛美歌を生み出していったのである。ならば、賛美歌が単に「荘厳」「神聖」である必要はないはずだ。私たちが生きるこの時代の音楽性を取り入れた「ポップな賛美歌」もまた、今の時代の礼拝で歌われていいはずではないか。そんなことを考えながら、今日もギター片手に私の「ポップな賛美歌」の研究は続くのである。

## 会計の視点から 企業経営を検討する



かわい たかはる  
河合 隆治  
(大学商学部准教授)

### 企業経営を会計から検討する必要性

「私の専門分野は管理会計です！」と説明しても、どのような研究領域なのかなかなか見当がつかないでしょう。私が所属する商学部においても、「管理会計ではどんなことを学ぶのですか？」ということを学生からよく聞かれます。

そんなとき、私は、「おおまかに管理会計は、会計の視点から企業経営を検討する学問領域です。」と回答しています。企業は存続するために、継続的に利益を出す必要があります。利益は、企業に入ってくるお金である収益から、収益を出すために企業が使ったお金である費用を差し引いて計算されます。つまり、収益が費用を上回れば利益が出て、資本が企業に蓄積されます。

ここで収益と費用のバランスが重要となります。たとえ多くのお客さんが製品を購入してくれたとしても、商品を製造し、販売するのにかかる費用がそれ以上にかかってしまえば利益を出すことができません。反対に、製品の材料を安いものに変えて製造にかかる費用を下げたとしても、それによってお客さんが製品を買わなくなれば、収益が上がらず、利益

を出すことはできません。つまり企業活動が利益に与えるインパクトを注視しなければ、利益がマイナス（すなわち赤字）となり、企業から資本が流出し、企業の存続が危うくなります。

企業の規模が比較的小さな段階ですと、経営者はお金の流れを直接把握することができるとは限りませんが、だんだん規模が大きくなると、お金の流れを把握できなくなり、本当に儲かっているのかどうかわからなくなっていくと、加えて、企業の規模が大きくなると、従業員の数が増えるとともに、業務が分業化されていくために、従業員の業務がどのように企業の利益向上に貢献しているのかが不明瞭になります。このように各業務が利益とどのような関係にあるかが見えなくなると、例えば、工場において、品質を向上するという目的で必要以上に設備投資をおこなったり、営業担当者がより多くの製品を販売するためにお客さんに対して大幅な値引きを実行したりすることにつながります。

し利益の計画値を部門ごとに設定し、計画値を達成するように従業員にもとめます。特に規模の大きい経営者層は、一人ひとりの従業員の活動の状況を把握することができないために、各部署やプロジェクトに割り当てた収益、費用、利益の実績値の趨勢を見ながら経営判断を行うこととなります。

### 会計数値が一人歩きする危険性

収益、費用、利益といった会計数値を把握して経営判断を行うことは重要ですが、会計数値のみで意思決定することは危険です。それは会計数値をみても、その背後にある具体的な状況について知ることができず、実態に即さない意思決定につながる恐れがあるからです。たとえ赤字を出している店舗に改善する余地があったとしても、会計数値だけでみると企業経営を圧迫しているのが閉店という判断になってしまいます。こうした意思決定を続けると、店舗を建ててはすぐ撤退することとなり、かえって企業の利益を圧迫する要因となります。

また、会計数値のみに基づいて指示を出しても具体的な解決になりません。例えば、営業部門において、部下が（収益

である）売上高の今期目標を達成するために、1000万円不足しており、どのように達成するか途方にくれているとします。この時上司が会計数値だけをみて「とりあえず売上高を1000万円増やしなさい。」とプレッシャーを与えても、さらに部下を追い込むだけで、収益は向上しません。この局面に必要なことは、1000万円売上高を増やすために、どの顧客に焦点を当てて、どのようなアプローチを採用したらよいのかについて部下とともに考え、具体的な対策を講じることであるはずですが。

### 会計数値をうまく活用するには

会計数値は、経営活動の結果を示すという利点があるものの、企業内の活動を見えにくくする、具体的な改善策を示さないという限界があります。

会計数値をうまく活用するには、企業が行っている活動や企業外部に存在する重要な情報と結びつけて検討することが重要となります。

近年、管理会計分野において、会計数値と会計数値以外の情報を統合するバランス・スコアカードという枠組みが目ざれております。私は現在、バランス

ト・スコアカードに関する研究から派生して、わが国企業において会計数値以外に重視されている情報としてどのようなものがあるのか、それらの情報はどのような性質を持っているのかについて調査しており、会計数値とそれらの情報をどのように活用したらよいのかについて模索しております。

このように管理会計はとても実践的な学問です。しかし管理会計に関する教科書の多くでは、基礎的な内容の理解に焦点を当てているために、会計数値を計算する技術が主に説明されています。これをそのまま受講生が鵜呑みにしてしまうと、会計数値のみによる管理に疑問を抱かなくなるのではないのかと危惧しております。そのため、講義においては、計算技術の習得よりも、現実の企業で何が起きているのかについて、事例などを用いて受講生にイメージしてもらおうように努めております。そして将来、受講生が会計数値をうまく活用して、冷静に経営判断ができる人材になって頂きたいと願っております。

# マグネシウムを 手のかかる 手入れする



ひろもと さとあゆ  
湯浅 元仁  
(大学理工学部助教)

## マグネシウムとは

マグネシウム、という金属をご存知でしょうか。Googleに「マグネシウム」と打ち込むとWikipediaを除く最初の9件は、栄養素ミネラルとしてのマグネシウムに関するものです。また、マグネシウムの酸化物である、酸化マグネシウムは便秘薬として知られ、最近ではテレビCMにもなっており、耳にしたことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このようにどうも世間では、マグネシウムは体内に取り込むものとして知られているようですが、金属の研究者である私にとっては、愛すべき立派な構造材料の一つです。

マグネシウムは、実用金属材料中最も低密度であり、自動車のボディなどに使われる鉄鋼材料の1/4、新幹線のボディに使われるアルミニウム合金の2/3の重さしかありません。最近では、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどモバイル情報機器の筐体に広く使われ、私達の持ち運ぶ機器の軽量化に大きく貢献してくれています。軽い、ということとは我々の身近な生活を便利に

するだけではなく、自動車、新幹線、航空機に適用すれば、これらの燃費（エネルギー効率）を大きく改善することもできます。しかし、現実にはマグネシウムは、大型輸送機器の一部の部品に使われることはあってもボディなどの大型構造部材に使われることはほとんどありません。それは、マグネシウムが非常に手のかかる金属であるためです。マグネシウムは、金属の中でも変形しにくく、製品の形に加工するのにコストがかかります。また、非常に錆びやすいので、製品として使うときは表面処理や塗装が必要になります。マグネシウムは、実用金属材料中最も軽い、という長所を有しながら、非常に多くの短所も持ち合わせているのです。

## マグネシウムと私

私がマグネシウムの研究を始めたのは、前職の研究所に入所してすぐのことでした。私は、博士課程では分子動力学法と第一原理計算（と言っても密度汎関数法）を用いて金属の原子・電子シミュレーションを行っていました。そんな私が研究所で最初に行ったことは、評価するため

のマグネシウム合金の作製でした。具体的には、以下の3つの手順でマグネシウム合金を作製しました。①マグネシウムを他の合金元素と一緒に炉の中で溶かし、それを鑄込む（溶けた金属を型に入れて固める）。②鑄込んだ金属をフライス盤で形を整え、プレスで板状に押し出す。

③押し出した板をさらに切断、形を整え、圧延機を用いて薄い板状（1mm程度）に加工する。どの手順も計算機シミュレーションをしていた自分にはなじみが薄く、しかもマグネシウムは変形しにくいので、圧延機で板を作る際によく割ってしまいました。計算機の中で原子や電子の挙動を解析していた私は、現実の世界で、マグネシウムと向き合い、彼らの扱いにくさに直面することになったのです。

私は、実際のマグネシウム合金を実験的に評価するとともに、自分の得意分野であったモデル化・シミュレーションを組み合わせることで、「どうすればマグネシウムをもっとよくできるか」を研究してきました。その過程で、マグネシウムが変形しにくい理由、マグネシウムが腐食しやすい理由など様々なマグネシウムに関する勉強をし、仮説を立て、それ

を検証していく作業に没頭しました。そんな作業をしているうちに、このたくさんあるマグネシウムの短所・扱いにくさこそが、マグネシウムの魅力ではないか、と思い始めたのです（そう思い込むしかなかったのかもかもしれませんが……）。軽いつも素晴らしい長所を有しながら、多くの短所を持つマグネシウムを愛おしく思い、何とか世の中でたくさん使ってもらえるようにしたい、と思うようになったのです。そして、同志社大学に移ったからもマグネシウムを研究し続けていきます。

## マグネシウムと手入れ

その軽さで私達の暮らしを便利にしてくれているマグネシウムは、たくさん「手入れ」により成り立っています。加工しやすく、壊れにくくするための合金設計、組織制御のための加工熱処理、錆びを防ぐための表面処理や塗装など、たくさんの人たちがたくさんの手間をかけて、手入れをしてマグネシウムは世の中で使われています。まるで、素晴らしいたくさん長所を有しながらも未熟な子どもを、みんなで育てているような感覚

です。素晴らしい長所があれば、多少の短所があっても周りがフォローすることにより、社会で活躍できる。今までの画一的な、工業的な教育から、個人に焦点を当てた、多様性の富んだ教育への遷移は、たくさん人の「手入れ」により実現できることを、マグネシウムが示してくれているように、私は感じています。

また、日本人は、昔からモノを「手入れ」して使ってきました。服が破れれば繕い、器が割れば継ぎ、何かが壊れた時に手を入れ、または壊れる前に手を入れて、手をかけてモノを大切に使ってきました。さらに、その手入れに価値を感じ、その侘び寂びの美を日本人は感じてきたのです。「手入れ」することで使われるマグネシウムは、この日本人としての精神性を私に思い出させてくれました。私は、マグネシウムを研究することで、マグネシウムが使われるように「手入れ」してきたつもりでしたが、上記のようなことを感じ、実は自分が手入れされてきたのだと実感しています。これからも手入れしながら手入れされ、研究・教育に邁進する所存です。

## 翻訳の思想、思想の翻訳


 お 道 夫  
 三 木 道 夫

(大学グローバル・コミュニケーション学部教授)

私はドイツ語教員でもあり、ドイツ文学・思想の研究者でもあります。ただし一般のドイツ文学者とは違う領域、「翻訳の思想(史)」を主な研究分野としています。最近では「翻訳研究[Translation Studies]」という便利な名前が発明されています。

そもそも翻訳というのは外国語が読めない人たちのための、一時しのぎの、便法に過ぎないという考えがあります。この立場からすると、翻訳は同じことを二度、しかも原作より劣化させて言うための「必要悪」のひとつでしかありません。

## 日本の「翻訳研究」

しかし翻訳という現象をとらえるには別の観点もあります。「翻訳」を、異文化を受け入れる際の特異な仕組みと捉える観点です。日本の明治維新期のように、異邦の文物が一举に移入された場合、日本人はそれらの異質さをどう処理したのか、つまりどう翻訳したのか、という観点から翻訳を考え直してみるのが、

この分野の大先輩、故柳父章(やなぶ あきら)先生には「カセット効果」という術語があります。「カセット」とは「宝

石箱」のことで、中に何が入っているかわからない、だがとても魅力的に見える翻訳語のことです。たとえばドイツの作家ゲーテの翻訳にはこんな訳語が出てきます。とある劇団の座長が回顧して曰く、かつてのドイツ演劇界では「アレキサンドライア風の馬鹿げた台詞回し」が支配的だった、と。「アレキサンドライア風」とは、しかし何のことでしょうか。古代地中海世界のアレクサンドリアなら、ギリシア語風の台詞でしょうか。それともエジプト風情緒を感じさせるものなのでしょうか。どちらにしても判然としないのですが、中身がわからない分だけ異国情緒は感じられます。実はこれ、文学史的にはバロック時代(一七世紀)の詩形「アレクサンドリーナー」のことで、かつては盛んに用いられました。フランスの「アレクサンドラン」を模した詩形ですが、冗長さが嫌われドイツでは使われなくなりました。ゲーテ翻訳の場合、翻訳者が異国情緒の再現を優先したため、思いもよらず「カセット効果」に頼った翻訳をしまったといえます。

## 私の「翻訳研究」

私は柳父先生のような日本語の「翻訳成立事情」を考察する方向には向かいませんでした。ルター以来、ドイツには異邦の文物のドイツ語への移植により文化を形成してきたという歴史がありました。そこで「ドイツの翻訳論考察を通じて近代ドイツ精神史を描く」ことが私のテーマとなりました。さいわい二冊の書籍を成果として世に送り出せました。ドイツ系翻訳論の集成『思想としての翻訳』(2008年 白水社)と翻訳論の内的な関連を考察した『翻訳の思想史』(2011年 晃洋書房)です。ただし私自身が文学や思想の研究者であるため、世俗文書の翻訳論ばかりが対象でした。

しかし聖書翻訳者ルターには、ドイツの文人、思想家が言及する有名な「翻訳者の手紙」があります。ルターは新約聖書のドイツ語訳を出版した際、原典にはない文言が付け加えられたと非難されます。それは「ローマ人への手紙」三章二八節のことです。「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」という部分に「ただくのみ allein」

という語を加え、「ただ信仰によるのみ」とルターは訳します。確かにギリシア語原文にも、ラテン語聖書にもそのような単語は存在しません。ルターはオリジナルには存在しない言葉を付け加えたのでした。ルターは「人が一方を肯定し他方を否定する二つの事柄を述べようとする場合」には、ドイツ語では「ただくのみ」を用いるのが普通なのだとか抗弁し、ドイツ語のメカニズムを引き合いに出します。しかし手紙を読み進めるとルターの意図は別にあることが分かります。ルターはパウロがキリストの死と復活に関して述べた部分を引用し、「ただこの信仰のみが、すべての行いを抜きにして、この死と復活をとらえる」と述べます。ルターの訳語選択は、ドイツ語のメカニズムだけではなく、信仰という強固な思想ゆえなのです。まるで自分の翻訳はオリジナル以上に信仰の真実を伝えるのだ、と言わんばかりです。

「七十人訳聖書」とよばれる伝説的な翻訳聖書も、旧教がルターを批判する根拠としたラテン語訳聖書も、オリジナル以上の位置を占めることがあったようです(加藤哲平『ヒエロニムスの聖書翻

訳』2018 教文館による)。翻訳が信仰という場に登場するやいなや、それが言語上の変換を意味するだけではなく、なることがわかります。

## 教養科目「比較言語文化論」

翻訳には翻訳者の思想、翻訳する文化の思想が反映されます。文学作品などの世俗文書ではその反映は目立ちませんが、宗教文書ではこの思想の存在が際立ちます。むしろこう言えるかもしれません。西欧世界の翻訳の思想のおおもとにあるのは聖書翻訳の思想であって、それが世俗文書の翻訳思想に反映されている、と。

ドイツ語授業をしながらこんなことを考えてきましたが、今年は私の在職最終年になります。何より幸運に思えるのは、この最終年に京田辺校地で、教養講義科目「比較言語文化論」を聖書学者、宮田玲さんと共同で運営できたことです。サブタイトルは「聖書と翻訳」でした。日本の聖書翻訳の文化的な意義や問題点など引き続き講じていただくことを切望しています。キリスト教主義を掲げる本学にはうってつけの教養科目と申せましょう。

# 澱粉ワールドの面白さ —マクロからミクロを探る—



やまもと ひさし  
**山本 寿**  
(女子大学生生活科学部教授)

## 奇妙な現象との出会い

わたしは「食品物性学」という研究室で教育・研究活動を行っています。本来「かたい」「ねばりがある」といった食品の物理的側面を調べ、おいしさの向上に寄与することが期待される研究室です。1990年代半ばに着任後の数年間は、「小麦粉を使わずに、小麦粉と同様の物理的性質を持つ麵を開発する」など、既定路線の研究を学生と行ってきました。しかし、あるとき、同僚の先生から「澱粉にアルカリを加えると、室温でも糊（のり）になるらしい。加工食品に使える結着剤にならないか」と持ちかけられ、まずはZnO溶液を加えた澱粉分散液の粘度が等温でどのように時間変化するか（速度過程）を調べました。すると、通常の熱水糊化で示される凸型粘度—時間データと異なり、凹から凸型へ移行するS字型粘度—時間データを示しました。この予想外の現象は全く知られておらず、元々、理論物理学の研究者であつたわたしは、加工食品への応用よりも、純粋にこの奇妙な現象そのものに興味を持ちました。

## 自己完結できる可能性

物理学の世界では、少数の未解明現象に多くの理論屋が挑み、激しい競争がつかまといまいます。自然に、「実験」と「理論」、「現象論」と「本質論」と専門分化します。しかし、今回の現象は自分の研究室で見つかりました。わたしはこの現象との出会いを「実験による現象の発見からその理論的解明までを自己完結できるかもしれないチャンス」と新鮮な気持ちで捉えました。

## べき乗則型モデル

まず、このS字型の粘度—時間データ系列を記述できる数学的モデルを構築する必要があります。従来の速度モデルは、凸型の粘度—時間曲線しか与えませんが、ここで、モデルに現れる粘度変数を全部、逆数にしたところ、典型的なS字型粘度—時間曲線が導かれました。しかし、実験で得られるS字型粘度—時間データは糊化の条件（温度やアルカリ濃度など）によって、凹部と凸部のバランスが微妙に変わりました。そこで、逆数型を一般化して、べき乗型にしたところ、べき乗指数の値を調整することによって、

実験データ群を包括的に分類できました。さらに、指数の値が、糊化中の分散液における「糊化部と未糊化部の協同性」や「糊化部の孤立性」の程度と対応することがわかってきました。

## 非一様速度解析

化学反応を扱う速度論では、通常、速度定数は反応中、一定と仮定されます。しかし、澱粉粒内部は硬い結晶相や柔らかい非晶相が交代的に現れる複雑な多層構造をなすと考えられています。そこに水やイオンが侵入して、内部を破壊し続ける糊化進行において、速度定数の一様性が保証されるでしょうか。実際、実験データを眺めると、速度定数が大きくなったり、小さくなったりする兆候が見えます。そこで、速度定数の段階的变化を許容する新しい解析手続きを考案し、データに適用することによって、澱粉糊化における速度定数の非一様な進化過程を明らかにしました。

## マクロからミクロへ

このような実験および理論研究を通して感じる面白さは、澱粉分散液の粘度という巨視的な観測量しか扱ってないのに、

その時間変化を丹念に調べ、理論的に解析・考察すると、澱粉の内部構造の複雑さやイオンとの相互作用、複合体形成、糊化部と未糊化部の協同性や孤立性といった、微視的な側面が姿を現すことでした。澱粉ワールドの豊かさ、奥深さを示しています。

## 学生の教育・エンジニアリング的発想

以上のような研究では、理論的側面が私が押し進め、ゼミの学生たちが実験を実行します。学生にデータ解析を実行させる場合もあり、彼女らは立派な共同研究者です。その実力を担保するために、生活科学概論（「情報処理とレポート」）、数学と物理、情報処理、食品物性学、食品加工・物性学実験、食物英書講読といった、わたしが担当する（全学年にわたる）全授業内容を互いにリンクさせ、文理両面、理論・実践両面で鍛え上げます。個々の科目教育は学生が消化できる範囲に留めつつ、全体としては高いものを目指します。

講義科目では、授業が一方通行にならないように、クリッカーシステムを活用し、実験科目では少数のレポートを徹底的にチェックします。評価では「言葉と

論理」をすべての面で重視します。他方、実験科目の加工食品の製造においては、結果に責任を持たせ、厳しく試食評価するものの、そのプロセスにおいては学生の自主的な判断や自由な思考に委ねます。パンとアイスクリームはそれぞれ微生物利用および脂質性冷蔵食品に属しますが、こちらが提示する特定の課題に沿ったものでなければなりません。例えば、2018年度春学期前半クラスの課題の一つは「サツカー・ロシアワールドカップ便乗商品としてのパン」でした。今回の出場国にちなんだ「おいしい、売れそうな」パンでなければなりません。必然的に各国の（食）文化を調べることになります。もう一つの課題は「男性消費者をターゲットにしたアイスクリーム」です。これは女子大生にとって、意外に難しい課題だったようで、明らかに男性の好みを誤解していると思われる商品が続出しました。標準的な製造法だけが実験テキストに記載され、自分の目的に応じてアレンジしなければなりません。それを自分たちで試行錯誤し、考え抜くプロセスが貴重だと考えています。



こほみほ  
穂美 加藤

(女子中学校・高等学校司書教諭)

## 人と本をつなぐ ビブリオバトル

### はじめに

小学生の頃から、暇があれば図書館や本屋に通い、寝食を惜しんで本を読んでいるような子どももいた。読書は、一人で黙々と活字を追う個人的な活動でありながら、時間や空間を超えて著者と対話する、一人ではなしえない活動でもあります。広い世界のどこかで、また長い歴史の中で、自分と同じように考えている人がいると知ることが、私にとって大きな喜びと励みになりました。この仕事を選んだ理由のひとつは、私が感じた読書の楽しさを、まだそれを知らない生徒に伝えたいと思ったからです。それは口で言う程簡単なことではなく、試行錯誤の日々ですが、今回は、本校の図書・情報センターでおこなっている様々な読書推進活動の中から、ビブリオバトルを取り上げて紹介したいと思います。

### 「何か面白く本はありますか。」

学校図書館で司書教諭として働いていると、よく尋ねられる質問であり、また答えるのが難しい質問でもあります。私

ことが難しいのは当然であり、そのため

には生徒と本をつなぐ仕掛けを用意しなくてはなりません。先述した突発的なレファレンスだけでなく、月一回発行する広報紙による新着図書案内や、季節・学校行事に合わせた展示、教職員による読書会など、生徒と本をつなぐいくつかの取り組みに加えて、力を入れたいと思っているのがビブリオバトルです。

### 知的書評合戦ビブリオバトル

ビブリオバトルとは、本を紹介しあうゲームであり、発表者が読んで面白いと思った本を一人5分で紹介し、3分のデイスカッションを経て、参加者がその中から読みたいと思った本を投票して「チャンプ本」を決めるというものです。原型は大学院の研究室の勉強会でしたが、その後人が集まるイベントに変化し、今では図書館や学校、書店などでも多く開催されています。本校では、2014年度に図書・情報センター主催で放課後後利用し2回、また2018年度は教職員研修会にて1回開催しました。今後も授業や図書館、行事など様々な形で開催し

ていければと考えています。

ビブリオバトルは「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチフレーズとしています。ビブリオバトルの教育効果として、自分の言いたいことを5分にまとめる構成力や語彙力、プレゼンテーション能力の向上が注目されています。しかし、ビブリオバトルの本質はキャッチフレーズからわかるように、本を通じたコミュニケーションです。自分の好きな本を紹介することは、自分のある面を紹介することにつながります。本の紹介に現れる発表者の新たな面を知ること、ビブリオバトルの醍醐味です。本を紹介する人への興味が紹介された本につながったり、紹介された本への興味が紹介した人につながったりすることで、人はビブリオバトルを通じて新たな世界を見つげることが出来ます。普段から本をよく読む生徒にも読まない生徒にも、本とのつながりが生まれる仕掛けとして、ビブリオバトルを広げていきたいと思えます。また、ビブリオバトルを通じて人の新しい面を知ること、本だけでなく人間関係でも、新しい世界への広がりがある

が読んで面白かった本はいくつもありますが、それが質問者にとって面白いかどうか、不安に思いながらいくつかのタイトルを挙げてみます。反応はそれぞれです。さらに詳しく内容や感想、どこが面白かったのかを聞かれたり、その本が今借りられるか尋ねられたりすると、少しほっとする自分があります。後日、その本を読んだ感想を伝えてもらえれば、さらに嬉しくなり、また本の話ができるだろうか、と期待してしまいます。

メディアでは「読書離れ」「活字離れ」としばしば騒がれます。本校でも貸出冊数を見ると、90年代は1年に2万冊を超えていたものが、ここ数年は1万冊程度でじりじりと下がっています。また、本をたくさん借りる生徒の中でも、何度も同じ本を繰り返し借りていたり、小中学生対象のものから一般文芸へなかなか移行できていなかったり、幅広く読み進めていくことができていない様子が見られます。お気に入りの本があるのはよいことですが、やはり新しい世界へ、より広い世界へ目を向けてほしいと思うのが心持です。しかし、未知のものに手を出す

生まれることを期待しています。

### おわりに

教育現場でおこなわれるビブリオバトルは、自発的な参加ではなく強制力を持つてしまうため、自分が読んで面白く思った本を選ぶ本来の形を歪めてしまう恐れもあり、批判もあります。また、本校でおこなってきた他の読書推進の取り組み同様、既に図書館に深く親しみ幅広く本を読んでいる生徒の集まる場となつて、図書館や読書から遠い生徒にはハードルが高いという心配もあります。しかしながら、それらは努力しない理由にはなりません。これからの人工知能と共存する社会において、人に求められるのは思考力と言われています。それを養うのに読書は大きな力を発揮できるでしょう。全ての生徒が読書を第一の趣味とするのが目標ではありませんが、彼女たちの数ある楽しみの一つに読書が入っていればいい、本を読むことに恐れや嫌悪を抱かないようになればいい、そのために力を尽くしたいと思っています。

大学全学共通教養教育センター所長

高木 繁光  
たかぎ しげみつ

2018年度より全学共通教養教育科目の新たな科目区分として、クリエイティブ・ジャパン科目を設置しました。これは「同志社大学ビジョン2025」中期行動計画（改訂版）に掲げられた「京都科目」の具体化であるとともに、文化庁の京都移転も一つの契機となっております。ご承知のとおり、文化庁の京都移転が決まり、先行して「地域文化創生本部」が設置され、移転準備が進められています。この流れの中で、文化庁と大学が共同で文化政策研究を行なう新たな試みとして、同志社大学の「文化芸術創造都市に係る評価と今後の在り方」研究が採択されました。

ヨーロッパでは21世紀に入ると、文化・芸術の持つ創造性を活かした産業振興や地域活性化の取り組みが各地で進められ、2004年にはユネスコが、文化による「持続可能な開発」の実現に向け、「創造都市ネットワーク」事業を開始しました。この国際的動向に応じて文化庁もまた、文化・芸術の持つ創造性を地域振興、観光、産業振興に領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置

づけ支援しています。クリエイティブ・ジャパン科目は、この文化庁の創造都市政策を参照しつつ、本学の創造経済研究センター、京都と茶文化研究センター等の研究成果を取り込んだ内容となっております。

クリエイティブ・ジャパン科目は、芸術・文化に牽引された経済・産業を基に創造都市を生み出す政策について考察する「クリエイティブ・ジャパン科目」、京都の伝統・文化への感性を磨き、それを産業振興、まちづくり、地域コミュニティ再生に結びつける方法を思考する「京都科目」、現代日本文化の魅力と可能性をより効果的に海外に発信するコンテンツ創造のあり方を探求する「クールジャパン科目」、日本の伝統、文化について、留学生とともに学ぶ科目から成り、さまざまなクラスを展開しています。

これらの科目の多くは、理論や知識を教授するだけでなく、伝統・文化・芸術の担い手の実践知を扱うため、ゲストスピーカーの招聘、フィールドワーク、実習など多様な授業内容になっています。例えば「京都科目」の「華道から見る京都の伝統

文化の発展」のクラスでは、池坊の先生の引率で六角堂を訪れ、華道の発生と歴史に触れるとともに、実作の授業で生け花に自分の想いを託すことを学びます。「現代町家論」のクラスでは、京都市内や京田辺市内の町家を見学して、居住空間を理解し、活用状況を調査し、京町家本来の居住文化を継承するための企画提案をまとめます。「京都の茶文化」のクラスでは、茶畑など茶文化関連施設を訪れ、学際的、国際的視点から茶文化を理解し、そのグローバルな魅力について考察します。また、お点前のモーションキャプチャーによって熟練者と初心者との脳波の違いを調べるといった、文理融合的アプローチもなされます。「クリエイティブ伝統産業と文化イノベーション」では、伝統産業の海外展開やハイテク企業とのコラボレーションを積極的に行なっている西陣織の老舗（株）細尾のショールーム・工房見学、細尾社長のゲストスピーカー招聘などの機会を通して、文化ビジネスの日本経済における役割、文化イノベーションを引き起こす要件について考えます。

「コンテンツリズム概論」、「サブカルチャーからみるコンテンツの政策・表象・受容・創造」、「現代日本映画」などのクラスを展開している「クールジャパン科目」では、アニメ聖地巡礼やアイドルによる地域活性化、ネット時代における観光潮流の変化、様々なサブカルチャーや現代日本映画の海外での受容状況、市場規模、発信戦略などについて考察します。

「京都科目」および留学生との必修科目をおして日本の文化・伝統のグローバルな展開とイノベーション創出に必要な感性、洞察力、実践知を身につけ、「クールジャパン科目」で新

たなメディア、テクノロジーによる芸術・文化ビジネスの可能性について理解を深めたのち、「クリエイティブ・ジャパン科目」において、文化と経済を融合した創造経済、芸術・文化が牽引する持続可能な経済発展に基づく創造都市形成の最新動向と政策課題について学んでもらいたいと思います。世界有数の創造都市・京都で長らく知事を務められた山田啓二氏も講師としてこの科目の一部をご担当くださいます。

クリエイティブ・ジャパン科目の学びを通じて、日本に新たな文化イノベーションをもたらす人物が育つてくれることを願っています。



京都の伝統産業に触れるフィールドワーク

同志社女子大学大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)開設  
「同志社らしい看護学教育のさらなる発展をめざして」

女子大学看護学部教授 岡山寧子 おかやまやすこ

新島襄は、新しい世の中にふさわしい医療人を養成したいという理想のもと、明治19(1886)年、同志社病院・京都看病婦学校での診療と看護教育を開始した。新島の死後、学校は同志社の手を離れたが、医師佐伯理一郎により引き継がれ、第二次世界大戦後、看護の新制度になるまで続いた。そうした足跡を経て、看護学部は、平成27(2015)年に女子大学6番目の学部として開設、今年4年目を迎えた。看護学部では、新島の医療・看護に対する志を受けつぎ、「同志社らしい看護学教育とは何か」にこだわりながら、質の高い看護職者の育成を目指している。

一方、今、保健医療福祉分野の最前線で活動する看護職者には、現代の多様化した看護ニーズに対応できる、理論に基づいた専門的な知識と技術、態度が求められている。その実現には、高度実践力を持つ看護職者のみならず看護学の教育研究者の育成が何よりも必要となっている。このような社会的要請に対応し、本学の看護学教育の未来を展望するために、学部教育のさらなる充実をはかりつつ、看護の指導的役割を担える人材育成

を目指す大学院看護学研究科(修士課程)設置に向けて準備をすすめて、平成30(2018)年4月に開設することができた。

エビデンスとナラティブを統合できる  
看護実践力の育成

看護学研究科では、理論と方法論に基づいた教育研究力、エビデンスとナラティブを統合できる看護実践力を備え、看護現象を探究し、健康と福祉の向上を促して看護学の発展に貢献できる人材育成を目指している。すなわち、医療者の経験知や慣習に頼るだけではなく、客観的に実証された科学的根拠に基づく医療を行う「EBM:Evidence-based medicine、エビデンス」と、患者との対話を通して、病気になった理由や経緯、生活背景や考え、価値観などの「語り」から患者の抱えている課題を全人的にアプローチする「NBMI:Narrative-based medicine、ナラティブ」とを統合できる看護実践力を備えることを目指すものである。なお、ここでいう看護実践力とは、専門的判断を含む知識、技術、価値観および態度の総体であり、エビデンス

とナラティブを統合できる看護実践力とは、両方の視点を相互補完的に取り入れて調和させ、質の高い看護実践の実現を導く力のことである。

「看護学研究分野」と「助産学実践分野」が  
教育研究の柱

教育研究の柱を「看護学研究分野」と「助産学実践分野」の2分野として、修業年限は2年、入学定員は各分野3名の計6名、学位は修士(看護学)である。

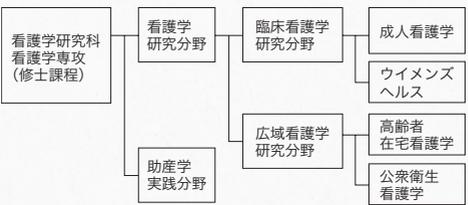
「看護学研究分野」は、さらに成人看護学とウイメンズヘルズを含む「臨床看護学領域」と高齢者・在宅看護学と公衆衛生看護学を含む「広域看護学領域」で構成している。この分野では、個人、家族、地域、環境との関わり、あるいは健康と疾病の連続性に着目した健康増進・維持・回復、さらには出生から死に至るまで、エイジングとともに変化する人々の健康生活に向けての支援において指導的役割を担える人材を育成する。

「助産学実践分野」では、時代の流れに沿った医療環境の大きな変化に対応でき、他の専門職種との協働など高度な専門職として、創造的な助産活動ができる助産師を育成する。助産師国家試験の受験資格を得ることができる。

学部教育では看護師(必修)と保健師(選択)の国家試験受験資格を得る教育課程となっているが、助産師教育は学部開設準備段階から、大学院での教育を考えてきた。というのも、近年の少子化や周産期医療・生殖科学・母子保健等を取り巻く深刻な現状を踏まえると、その現状に込えうる、高度で幅広い助

産実践力を有する助産師を修士課程においてじっくり育成したいと考えたからである。

新島は、かつて「病人の苦痛を救う」熟練した看護力をもつ「病人の心を慰める」ことのできる看護職育成を京都看病婦学校設立の目的とした。今さらながら、この3点は、まさにエビデンスとナラティブを統合した看護実践力育成の必要性を示していることを実感する。学部教育のみならず、看護学研究科での教育研究を積み重ねながら、真実の「愛心」を持った、同志社らしい看護学教育のさらなる発展をめざしていきたい。



看護学研究科の分野・領域



授業風景

国境も立場も越えて世界とつながるプロジェクト  
～Asia STEAM Camp～

同志社中学校

沼田和也

1 はじめに

アジア諸国にてモノづくりや科学技術に関する授業交流を中心にしたネットワークの構築は、本格的には2013年1月より始め、2018年5月現在、交流を持った学校の国はアジアに限れば7か国を越えている。アジアの教師たちとのネットワークを自前で構築し、国境を越えて教材研究、教材開発をしたいと思っ始めたこの取り組みであった。交流の形を変えながら、現在では「Asia STEAM Camp」というイベントが出来上がった。本稿は「Asia STEAM Camp」を中心に現時点での活動履歴を中間まとめとして残すことを目的とする。

2 Asia STEAM Camp

2017年7月29日、30日に、同志社中学校にてアジアSTEAMキャンプを開催した。創造的な教材づくりで有名な(株)アーテック、香港のWINSTARS<sup>®</sup>教育玩具「JitcheBis」の販売を行

◆◆キャンプのスケジュール◆◆

1日目	巨大飛行機プロジェクト 未来のアジアンハウス(図1)
2日目	ロボットコンテスト(roboSTEAM)

っているKORG(株)の協力を得て行った。ロボットプログラミングの教育活動が盛んな香港、台湾、ベトナム、韓国の中学生、日本からは青翔開智中学校(鳥取)、同志社中学校(京都)の生徒が集まり、国際的なチーム(多国籍)を基本にして、ハンズオンな課題にチャレンジした。当日の公用語は英語で、MCもルール説明もすべて英語で進め、最初はぎこちない場面もあったが、終盤にはコミュニケーションが自然にとれていた。表彰、記念写真撮影全ての活動は、異国の者同士のチームで行った。必然的に使用言語は英語である。飛行機プロジェクトでは、飛行機の教材(アーテック)のテキストが、かなり深く学べる教材)を用いて原理を学んだ後、20センチ程度の小さな飛行機製作で、基本となる作業を学び、最後に各チームはオリジナルな設計を施した80センチを超える飛行機を設計し製



作した。小さな飛行機では気にならなかった「自重」という難題と向き合わなくてはならない。巨大な翼も胴体もそれ自身の重さで垂れてしまうからだ。補強して強くすれば強度をだせるもののその分重くなる。より軽く必要最低限の強度を持たせる工夫が必要になるのである。アイデアを英語で相談しあって、手を動かしながらコミュニケーションをとり、何度も失敗を重ねるトライアル&エラーでどうにか完成に持ち込む。

ロボットコンテストでは、障害物(火災発生時のビルとして)にアプローチしながら、救援していくものだった。コースを自律走行する精度、速さが勝負の分かれ目となる。瞬間のひらめき、改良にむけたディスカッション、プログラムの修正、これらのコミュニケーションについて英語をベースに身振り手振り、実物も使いながら共同制作していく体験は貴重なものであった。国境を越え課題を共同で既に現実社会では、アジアの国の会社と上手くコミュニケーションをとりながら協同で商品開発しているものづくりが一般的になっていく。「国境を越えて、ともに知識や知恵をシェアし、一緒になってアイデアを出し合い、目の前の課題に対して解決しよう」と挑戦していったらいいな、「そんな原体験を次世代の子ども達を共有できたらいいな」という願いが、国際STEAM PROJECTアジアものづくり授業PROJECTの原点である。このCampに参加した日本人の生徒は次のように振り返っている。

「人と人とのつながりというコミュニケーションの大切さ、素晴らしいと感じることができました。環境も文化的にも違う人となることが要求されながらも、より性能の高



香港の教育イベント  
Learning Teaching EXPO

いプログラムを作りたい、より遠くまで飛ぶ飛行機を作りたいという気持ちは一緒でした。頑張って伝えたことが相手に伝わってわかってくれたときはすごく嬉しかった。」(S)

3 世界に広がるAsia STEAM Camp

同志社中学校で開催しているAsia STEAM Campの強力なパートナーであるWinnie氏(Winstar代表)の紹介を通じて香港小中高を10校以上視察しリレーションシップを構築しようとしている。香港の年1回の大きな教育イベントである「Learning & Teaching EXPO2017」のオーガナイザーより講演の依頼をいただいた。「創造教室」セッションにてWinnie氏とともに発表させていただいた。

「STEM Education in Japan-Success story of Doshisha junior high school」

「幼児教育」セッションにて(図14)

「Early Childhood Education in Japan」(図15)  
筆者が取り組んでいるアジア諸国の教師や生徒、学校に関わる教材会社、保護者たちがつながって、教育における共通の課題を認識する機会を幸運にも与えていただき、感謝するとともに香港の方々と強力につながって行きたいと考えている。そして香港にかぎらず、韓国や台湾でもAsia STEAM Campを開催したいと徐々にこのアイデアが広がっているのを感じている。

参考

- ・拙稿「技術教育を中心とした国際交流プログラムの提案」アジアSTEAM キャンプの立ち上げにむけて」(平成29(2017)6月刊行) 日本私学教育研究所紀要 第53号
- ・拙稿「アジア諸国における国境を超えた教材開発と授業交流の実施モデルの提案」(平成26(2014)6月刊行) 日本私学教育研究所紀要 第50号

オープンキャンパス 国語の体験授業  
—平安貴族の雅な遊び「貝合わせ」を体験しよう—

香里中学校・高等学校教諭

中條あさ子なかじょう

はじめに

貝合わせとは、平安時代の貴族の娯楽の一つで、たくさんのハマグリを並べ、模様を見て対になるものを探すという遊びである。ハマグリは必ず対になる貝殻としか合わないため、貝殻を合わせてみれば、対かどうかわかることができる。一対の貝殻には、同じ絵が描かれたり、和歌の上の句・下の句が書かれたりする。国語科では昨年、平安時代の遊びを体験することで生徒が古典に関心を持つきっかけになることを期待して、貝合わせを購入した。しかし、日本画家の手による貝合わせは高価で、クラス生徒全員が一斉に体験できるような量は到底購入できなかった。そこで私は、ハマグリを入手して自分で貝合わせを製作し、貴重な美術品として見せるだけの教材ではなく、実際に触れて遊んで体験できる教材を提供することを考えた。

授業準備

貝合わせの材料となるハマグリは、碓石店から碓石原

授業の流れ

まず初めに、貝合わせという遊びについて説明する。また、貝合わせが生まれた背景として、ハマグリがかつての日本人にとって身近な食材であったことも、いくつかのエピソードをまと

じて紹介した。その後、実際に貝合わせを体験する。ルールは、授業時間内でゲームが円滑に進むよう、多少アレンジを加えた。

机の上に十二対の貝殻の片方を、伏せて円形になるように並べる。残った片方はまとめて袋に入れ、一人ずつ袋から一つ貝殻を出して円形の真ん中に置き、対になる貝殻を当てる。当たればその貝は自分のものとなり、外れれば次の人が挑戦する。見当をつけた貝殻を表にして、中の和歌や文字が対応していれば正解である。和歌や文字で判断できない場合は、貝殻を合わせてみれば、対かどうかわかる。全ての貝を取り終わればゲームが終了し、一番多く取った人の勝ちとなる。

貝の模様を見て対となる貝殻を探すのだが、色合いや大きさの細かい違いに気付いて次々に正解する生徒もいれば、違いが全く見分けられず苦戦する生徒もいた。小学生にはなかなか難しかったようで、十二対を全て取り終えるのに十分近くかかった。すべてのグループが終了すれば、席を移動して、一回目は違う中身の貝合わせを体験できるようにし、時間内に三ゲームを行った。ハマグリが予想より大きくて重いことに驚いている生徒や、百人一首を覚えていて知っている歌に出会って喜んでいる生徒、殻の模様を見分けるコツをつかんだ生徒など、皆思い思いに貝合わせという遊びを楽しんだようである。

終わりに

第一回のオープンキャンパスでは、貝合わせのほかに、古典の遊びを体験する授業として、雅楽器を吹くという体験授業も行われた。いずれも、本来は高校三年生の三学期の授業として

行われた内容を、小学生向けに構成し直したものである。文法や単語を覚えて古文を読めるようになることも大切だが、古典の遊びを実体験して日本の文化を体で知ること、教養を高め、大学の学びへと通じる学力につながるのではないかという思いから生まれた授業である。今回、オープンキャンパスで小学生を対象に実施してみ、古典を最初に学習するときの導入として、古典の遊びを体験させることの意義を感じた。遊びの体験は、難解なものとして生徒から敬遠されがちを古典を、抵抗感なく受け入れさせるきっかけになり得ると思う。国語科では、貝合わせや雅楽器のほかに、平安貴族の装束も所有している。そういう教材を利用して当時の生活や文化を実際に味わうことで、生徒の古典学習への動機づけを模索していきたい。



(写真1) 貝合わせ(百人一首)



(写真2) 体験授業の様子

同志社女子中学校の「スプリングイングリッシュキャンプ」  
— 視野を広げ、物事を多角的に見る力を求めて —

女子中学校・高等学校教諭

よしなが 吉永 真

1. 研修の目的

2018年3月、中学1年生対象の国内研修「スプリングイングリッシュキャンプ」を新たに実施し、28名の生徒が参加しました。この研修では、「コミュニケーションの楽しさの実感」、様々な国籍の講師陣との交流による「異文化理解」、英語漬けの環境の中での「英語発信力の育成」という3つのテーマを設定しています。

2. 研修の内容について

研修地のある京北（京都府立ゼミナールハウス）は学校からバスで一時間程の自然豊かな山の中にあり、学習に適した落ち着いた環境です。研修に向かうバスの中では、オーストラリア、ジャマイカ、フィリピン出身の3名の講師と一緒に、ゲームや歌、クイズなどを楽しみ、冒頭から英語漬けの環境でのスタートとなりました。

授業は1クラス9〜10名の少人数で、3クラスに分かれて行



クイズ大会の様子



修了証授与

講師の出身国紹介では、授業の度に講師がローテーションし、生徒達は3名全ての講師の授業を受けて交流することができました。講師はそれぞれの出身国に関連するものを数多く準備しており、生徒達は視覚的にも楽しみながら、歴史や地理、伝統文化や特産品など、幅広く学ぶことができました。様々な地域の英語に触れ、異文化理解を深めるとてもいい機会になっていました。全クラス合同でのプログラムもあり、スポーツやゲーム、クイズ大会など、体を動かしながら楽しく学ぶ機会も充実していました。生徒達は、食事の時間も講師陣と英語でのコミ

われました。スピーキングやリスニング力、表現力や発音の正確さなどを身につけるために、様々な角度から授業が構成され、コミュニケーションの手段としての英語力を高めていきました。ロールプレイの授業では、日常生活や海外生活の一場面を想定し、アイデアを出し合って会話練習をしました。決して受け身になることなく、英語でできる限りたくさん発言することが求められ、クラスの前で発表する機会も多くありました。講師陣からきめ細かなフィードバックを得ながら、生徒達は積極的に取り組んでいました。



講師の出身国紹介

ュニケーションを楽しみながら一緒に過ごしました。

研修の集大成として、グループ発表に取り組みました。クラスの中で3〜4名のグループに分かれ、4つのテーマ「①研修で学んだこと」、「②講師の先生の紹介」、「③日本の文化紹介」、「④日常生活に関するロールプレイ」から自由に選択しました。発表の中には、ロールプレイの中で、研修で学んだことや講師について触れているものもあり、それぞれによく工夫されていました。発表に向けて取り組む中で、グループ内で協力し合うことの大切さも感じ取っているようでした。

研修の最後に、講師陣による全体への講評の後、生徒一人ひとりに、コメントと共に修了証が手渡されました。講師陣と生徒の間で良い関係が築けており、人と人の繋がりが感じられる研修となりました。

3. 研修を終えて

2泊3日の研修の中で、初めは緊張が感じられた生徒達も、徐々に英語でコミュニケーションを取ることが当たり前になり、意欲的に取り組んでいました。生徒達にとって英語漬けの環境はとても新鮮だったようで、純粋に楽しみ、また、熱心に学ぶ姿勢が見られ、充実した研修になりました。研修を通して英語の技能面だけでなく、英語を学ぶ楽しさを実感し、また、積極的にコミュニケーションを取る姿勢が身についたと手応えを感じる生徒も多かったです。この研修がこれからの学びの中で視野を広げ、物事を多角的に見る力を身につけていく、そのきっかけになればと願っています。

スーパーグローバルハイスクール(SGH)の授業  
における本校の学び

国際中学・高等学校教諭

坂下淳一  
ちようさ かわり  
かおる  
帖佐香織

本校は、2015年度にSGHの指定を受け、「環境先進国に学び、世界に提言」というプログラムを実施しています。今回は、私たちが担当している2016年度入学生2年あまりの取り組みを紹介します。

Global Understanding Skills Basic 1 :

高校1年生必修科目

グローバルな社会課題について、基礎的な知識や課題発見の方法を学ぶ講座です。まずはSDGsなどを用いてグローバル・イシューとは何かということについて学び、その中で、環境問題に焦点をあてました。環境経済学、政策学、京都やドイツでの環境政策や環境対策の事例について、さまざまな観点から学びを進め、最終的には身近な問題として学校の廃棄物問題について意見を出し合い、問題解決を目指しました。特にグループワークにおいては、本校は、教員も生徒も多様であることが大きな影響を与えました。

Global Understanding Skills 1 :

高校2年生選択科目

最終的な目的である政策提言に向けてのインプットを重視した講座です。3月には、8名の生徒が参加してドイツ、デンマークへのフィールドワークを実施しました。

開講当初、生徒たちの興味、意欲、学習歴も多様であり、前例のない取り組みは多難を極めました。まずは、「東京の通勤ラッシュの解決」をテーマに、論理的な問題解決の方法について学びました。並行して、ドイツの環境問題についての書籍を読み、グループ・プレゼンテーションやディスカッションなどで情報を共有し、またドイツの環境政策についてリサーチを行い、集大成としてリサーチブック「SGH高校生が調べたドイツ流環境理想図」を完成するに至りました。これらの活動により、分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップなど、DWCLAI0に示されているようなさまざまな力が得られたと思います。また、生徒達が課題に

取り組むなかで、互いの個性や得意分野を理解し、クラスの雰囲気やどんなに良いものになってきたことをとても嬉しく感じています。

フィールドワークでは、都市や地域のサイズとそれに応じたさまざまな取り組みに着目して研修を行いました。フライアムト村、ブライトナウ村やロラン島、フライブルク、ハンブルク、コペンハーゲンなどで、環境ジャーナリスト、領事館、村長、市会議員、洋上風力発電機製造の三菱「estas」社の方々などからお話を伺い、貴重な経験をすることができました。



リサーチブックの作成

Global Understanding Skills II :

高校3年生選択科目

3年生では、自分たちの意見の発信に向けて準備をしていきますが、どのような課題に対しても、それぞれが自分らしく意見を述べ、グループでは自己の役割を果たしながら、前向きに楽しく取り組んでいます。

学校の改善案として、廃棄物問題に着目し、食堂にレフィル容器を提案しようと、市場分析、企画・広報、交渉のグループに分かれて取り組みを進めています。

また、環境政策についての提言を段階的に実施するために、

京田辺市、京都市、OECDの職員の方々からお話を聞いて、学びを進めています。

授業を担当して

授業自体はストーリーを重視して展開していますが、この講座を受講することで見えてきた世界は、生徒によつてさまざまだろうと思います。問題解決に向けてまだ第一歩を踏み出したばかりですが、答えのない問題に対して、知的好奇心を持ち、自分の力を総動員して取り組む姿が強くなってきました。



ホテルビクトリアの太陽光発電パネル(フライブルク)

大人が真剣に取り組んでも解決していない問題に対して高校生が提言を行うことは簡単ではありません。しかし生徒たちは、意欲的に取り組んでいます。その取り組みの中で、私たち教員は、「社会の問題の複雑さ」「それを分析し、動かしていく強い力の必要性」について感じ取り、将来の社会を動かしていきたい人材として、生徒達が成長してくれることを期待しています。個人的な生徒たちの意見やアイデアは、聞いていてこちらも興味深いものが多く、「このような生徒たちが本当に世界を変えていくのかもしれない」と考えています。私たち教員も、まさに自分たちが高校時代に受けたかった授業を作り上げているプロセスの途上です。

# 最初の校舎「中井屋敷」の謎

—143年前の同志社寺町校地—

もと い やす ひろ  
本井 康博 (元大学神学部教授)

## 中井屋敷を借家

百四十三年前、同志社はどこで始まったのか。今出川校地？ 正解は、寺町校地。詳しくは寺町通り丸太町上ル松蔭町十八番地「中井屋敷」である。

同じ寺町でも、新島襄の最初の借家（新島丸頭町。現京都府立鴨沂高校東）ではない。一八七五年十一月二十九日の朝八時に、新島の私宅で祈祷会は開かれたものの、入学式ではない。出席した学生六人は、「その後、全員が（近くの）校舎の方に移動し」、二人を加えた八人で授業が始まった（J・M・デイヴィス著・北垣宗治訳『宣教の勇者 デイヴィスの生涯』一八一頁。傍点と「」は本井）。この「校舎」が、中井屋敷である。翌年九月に自前の校地（薩摩藩邸跡地）に校舎を新築し、引越すまでの「仮校舎」であった。それだけに、不明点がいくつも残る。

たとえば、校舎借用交渉。キリスト教への抵抗勢力が日本最強の古都だけに、当然、「町内の反対」に遭遇した（『同志社九十年小史』三六頁）。交渉には代理

人が不可欠だった。新島が二條家邸（現同志社女子部今出川校地）を購入する時も、同家近隣に住む材木商（堀本利慶）に購入してもらった（『新島襄全集』一、三〇八頁。以下、①三〇八。『同志社九十年小史』三六頁）。

中井屋敷の場合、助っ人は不明である。あるいは京都府顧問で同志社発起人の山本覚馬か。その後、同志社が一条家の所有地（現室町校地）を購入する際にも、山本家出入りの大工を名義人に仕立てた（同前、三二六頁）。

## 奈良・大神神社の神官

中井屋敷は、家康に仕えた中井正清（主水、一五六五〜一六一九）の名に由



中井正清の肖像画(部分)  
(谷直樹『中井家大工支配の研究』  
思文閣出版、1992年)

陵部などが所蔵する。

今年には正清の四百回忌に当たるので、四月二十一日に長香寺（京都市高倉松原下ル）で記念のイベントが催された。

中井屋敷で仮開校した同志社（英学校）は、翌年には本開校のために相国寺前に移る。ので、この屋敷との縁はいつたん途切れる。移転理由として、新島は「これではあまりに不便になりましたので」と述懐する（J・D・デイヴィス著・北垣宗治訳『新島襄の生涯』七六頁）。

が、まもなく繋がりは復活する。転出二年後に新島は、中井屋敷を今度は借用ではなくて購入し、今の「新島旧邸」を建てる。つまり、新島旧邸と新島会館が並び立つ現在地は、学園発祥地であると共に、新島夫妻が共に暮らした記念すべきスポットとなる。

## 慶應義塾の京都分校

新島旧邸のくぐり戸を入った所に、日英バイリンガルで謂れ（私の作文）を記す案内版が立つ。隣接する新島会館の門のあたりに、「同志社発祥の地」碑が欲しい。



同志社最古の学生集合写真(1876年、中井屋敷にて、『同志社校友同窓会報』1926年11月15日)

来する。正清は、奈良（法隆寺西の西里）出身の棟梁で、中井家初代当主。彼以前は巨勢氏と称し、奈良県桜井市三輪の三輪神社（大神神社）神職だった。正清は家康からの信頼が篤く、初代京都大工頭として江戸城を始め、浅草・増上寺、日光東照宮、名古屋城、さらには二条城や伏見城などの建築にも携わった。さらながら江戸時代のスーパーゼネコンである。同家に伝わる書類や絵図は「中井家文書」と総称され、重文も含まれる。現在、京大や京都市・歴史館（旧京都府立総合資料館）、宮内庁書



大神神社(奈良県桜井市、2016年1月1日撮影)

七四年二月であった。が、七か月後の九月には閉塾された。奇しくも同志社開校一年前の出来事である。もしも義塾が存続しておれば、はたして知事は同志社開校を「希望」したのだろうか。立ち消えた慶応の穴を埋めるために、あるいは外国人による洋学教授の場を確保するために、知事顧問の覚馬は、新たな私学を誘致したかったのではないか。

### 丹羽圭介

慶應の京都校は、入学者の確保が見込めずに廃校された。最後に残った学生(丹羽圭介)は本校(三田)に引き取られた。入学は一八七四年、卒業は三年後であった。いずれも同志社開校の前後である。

京都府庁の正門(南門)脇には「京都慶應義塾跡」碑があり、福沢諭吉の筆で「独立自尊」と刻む。裏面には、「当時の京都府知事榎村正直の希望に依り福澤諭吉先生之を設立し」とある。

同志社の記念碑は、これほど立派でなくとも十分である。

ところで、義塾跡碑の碑文に「明治七年」とある通り、京部分校の開校は一八

使はれた」(『同志社校友同窓会報』一九二七年三月十五日、「」は本誌)。

### 高松家と同居

この回想で注目すべきは、借りたのは屋敷全体ではなく、「大部分」(後述)であること、ならびに「高松家現住」とある点である。屋敷には居住人がいたのである。同志社が開校したおりの家主は、元公家の高松保実であったので、仮校舎は厳密に言えば「高松屋敷(旧中井屋敷の一部)」である。屋敷の所有者がいつ中井から高松へ代わったのか、不詳である。

以前、家主「現住」の事実を見落としたり、「明治維新の頃、ここ(中井屋敷)に住んでいた高松保実というお公家さんが、東京に転じましたので、空き家になります。それを幸いとばかり、同家の半分を同志社が開校時に仮校舎として借家しました」と誤記してしまった(拙著『自己発見のビルグリム——新島襄を語る・別巻(五)——』二一〇頁)。

明治維新後、大半の公家は明治天皇の東京転出に伴って京都を去ったので、高松家もそうであったと即断したり、空き

丹羽は、少年時代に覚馬から法学の指導を受けていたので、開校が早ければ同志社に入ったであろう。慶応を出た後、一八七九年に京都府議会議が開かれて、覚馬が初代議長になったので、取り立てられて議会議務長となり、眼と脚が不自由な覚馬の手足となって恩師を支えた(三田商業研究会編『慶應義塾出身名流列伝』一五〇頁)。この事実も、もちろん同志

家故に耶蘇でも借家できた、との思い込みもあった。しかし、現実には同志社は中井屋敷を高松家とシェアしたのである。『同志社九十年小史』(二六頁)も、「当時、高松卿の仮寓を借用」として断定する。「仮寓」故に、本間が言うように、玄関も使い分けた。大玄関が高松家、小玄関が同志社である。

そうならば、周知の表札「官許同志社英学校」が掛けられたのは、後者の柱であろう。寺町通りに面する表門(長屋門)に掛けることは、「誇大広告」めく。

さらに高松家以外にも人が住んでいた形跡がある。同志社開校一か月前の新聞報道(仏教系新聞が同志社創立を最初に報じた)には、近く「中井の村にて」開校予定、とある(拙著『京都のキリスト教』六一頁)。「村」とある以上、ほかにも居住者がいた可能性がある。同志社は、そうした共同体へ後から割り込んだ異教的「余所者」であった。



中井正清の墓(長香寺、2018年7月11日)

### 屋敷の半分を借用

本間の回想には借りたのは「大部分」とあったが、伝承では屋敷の半分である。見取り図(次々頁)を見ても、屋敷の敷地は相当広く、中央に母屋と並んで付属屋が、さらに北面と西面にはかなり大きな長屋風の建物が立つ。同志社はこのうち、付属屋と長屋一棟を借りた。

部屋数はどうか。J・D・デイヴィスは日記に十六と明記する。「十一月十八日、私たちが学校用に借りた寺町(通り)に面した家屋には、よく光の入る十六の部

社側でも掘んでいる(青山霞村『山本覚馬伝』改訂増補版、一五九頁)。

つまり、丹羽はいわば「覚馬派」のひとりで、同志社とも間接的な関係を有する。

### 初期学生の回想

さて、仮校舎時代の同志社学生は、延べでも三十人程に過ぎない。最初の八人のひとり、本間重慶(後に牧師)は、「寺町より相国寺畔へ」と題して当時(五十二年)をこう回想する。

「寺町時代の同志社英学校校舎は、高松家現住の大部分を新島先生が借受けられしものにて、表門を入れば正面に大玄関あり。之に次で奥の教室と台処及勝手先あり。之は高松家の使用するもの。此玄関に並びて小玄関あり。之は同志社の借受け居る一部にして、即ち本校の受付兼昇降口なり。

茲に須田(明忠)又は渡邊君の扣へ居られしを見受けたり。之に続で十二畳大の広間と八畳の二室あり。之は本校の使用する講堂、即ち教室にして、「中略」。

又、此教室に次で奥に大小の教室と、其二階の三、四室は悉く生徒の寄宿舎に

屋があり、ほとんどすべての部屋にはタタミが敷き詰められており、「家賃は」月十四ドルだ」（『宣教の勇者 デイヴィスの生涯』一七七頁）。

十六の和室は、間取り図からも特定できない。間取り不明の二階はひとまず置くとしても、十六は屋敷全体の部屋数にしては少なすぎるし、逆に付属屋と長屋だけでは多すぎる。一方、ミッシン（ア



「京都慶応義塾跡」碑(京都府庁内、2018年7月11日)

メリカン・ボード)の公式報告は、「建物が一棟、借家され、一八七五年十一月二十九日に学校が開校された」と記すばかりである(『京都のキリスト教』五六頁)。「二棟」という文言は、中井屋敷の建物が複数だけに、誤解を生みやすい。

また、仮校舎は「広くはあったが、荒れた屋敷」(吉田<sup>廣二</sup>『新島襄——自由への戦略』一四三頁)とも伝わる。

デイヴィスが借りた柳原邸から類推すれば、当然の結論である。実際、柳原邸は八年の間、締め切られていたので屋内はあちこちが腐食してポロポロで、とても人が住める状態ではなかった、とデイヴィスは証言する。だが、中井屋敷は完全に無人の空き家ではなかっただけに、そこまで酷くはなかったのではないか。

ちなみに、デイヴィスが「その一部」を借りた柳原邸は、全体で「百の部屋と三百五十の戸(ふすま?)」や窓を誇るこの荒廃した公家屋敷で、家賃もたった月額六ドル(中井屋敷は十四ドル!)であったという(『宣教の勇者 デイヴィスの生涯』一七六〜一七七頁)。

部屋数は、あきらかに誇張であろう。

### 校舎と寄宿舎を兼ねる

さて、中井屋敷で教室に使われたのは、二階建ての一階部分で、二階(間取り図はない)の三、四室は寮室に充てられた通学生は元良勇次郎(柳原邸にデイヴィス一家と住み込む。後の帝大教授)くらいで、ほとんどが寄宿生だった。

とりわけ、最初の入学生八人は、デイヴィスの証言(『新島襄の生涯』六六頁)やら、学生の回顧(拙著『徳富蘇峰の師友たち』一六頁)から見ても、元良を除く七人すべてが寄宿生である。寺町校時代の唯一の写真(六一頁参照)に本間がつけたキャプションは、「寺町時代の寄宿生」であった(『同志社校友同窓会報』一九二六年十一月十五日)。

すなわち、当初の同志社は寄宿舎学校(a boarding school)であった。中井屋敷は、「当分の間の仮校舎兼寄宿舎として」利用されたのである(『同志社百年史』通史編一、八六頁。傍点は本井)。

ちなみに、同書には「華族高松保実の邸宅」(八六頁)とはあるものの、中井屋敷の名は出ない。

本間の回想はまだ続く。「寺町通に面

した方は、黒塗の左右に観音開きの門を有する門長屋にして、其長さは十間ありしと覚ゆ。「新島」先生は之を賄人の居室と炊事場、及学生の食堂に区分して、改修せられ居た。生徒は勿論、賄食を食する者多数なりしも、自炊も許されて居た故、中には自炊の連中も見受けた」。

同志社が借りた屋敷西側(寺町通り沿い)の長屋は、食堂やら炊事場、賄人居室などに利用されたという。とすれば、最初の入学生のひとり、中島力造(後の帝大教授)の回想には、記憶違いが混じる。

「寺町の今出川(を下がった松蔭町)と云ふ処で、元京都府の知事をして居った長谷氏(事実誤認)の家を借りて、同志社と云ふものが出来た。少数の人を塾に入れて、表の長屋の様な処を食堂にして、一番広い部屋を教室に使った。それは明治八年か(から)九年頃と覚えて居る」(同志社社史資料室編『創設期の同志社』三一頁)。

### 八重の回想

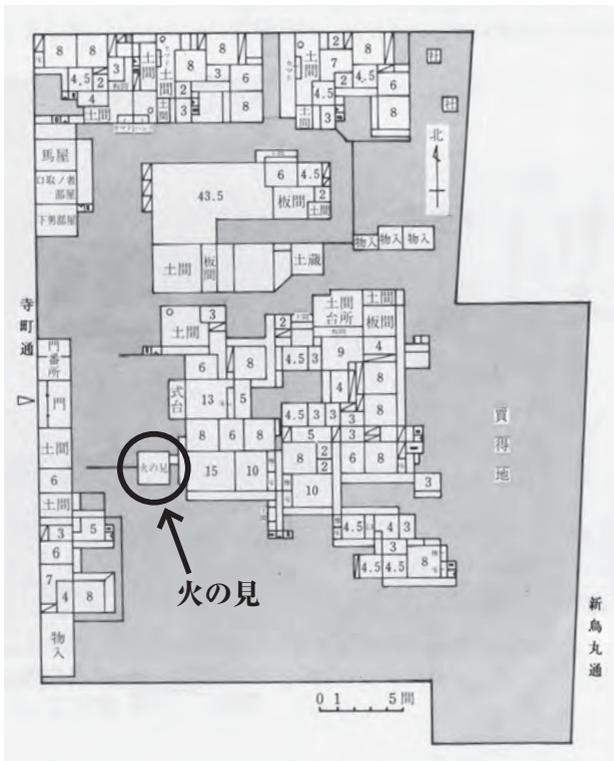
中井屋敷借用の経緯については、新島

八重の発言が参考になる。

「学校[同志社英学校]のはじまった時、ここは高松さんという華族の家で、洛陽教会(現在も新島旧邸南側に隣接して立つ)よりまだ下から長屋で取り囲まれていて、その真中にありました。この家は高松さんが、御所の火消の頭(大工頭)」

であった中井主人(主水)という人から借りていたのであります」。

「借りていた」は「買い受けて、居住していた」と見るべきである。であればこそ、高松は自分が使っていない家屋や部屋を同志社に貸すことができた。普通なら耶蘇に土地や家屋敷を売却したり、



中井屋敷の見取り図  
(同志社編『新島襄 その時代と生涯』晃洋書房、1993年)



高松保実の短冊  
(同志社社史資料センター蔵)

賃貸したりする市民は京都ではまずいない。高松は例外である。同家の台所事情を八重はこう暴露する。

「高松さんは大変貧乏な華族でありましたので、この家と長屋の一つを月三十円で〔同志社に〕貸してくれまして、家賃は三ヶ月づつ〔ずつ〕払うことにして居りました。」

榎村〔京都府知事〕さんはこれを聞いて、高松さんを京都府庁へ呼び出し、『新島に家を貸すな』と言いつけました。けれども高松さんは、前金に取った三ヶ月分の家賃がどうしても返せないで、止む得ずそのまま放っておきました。

それからも三ヶ月ごとに百円以上の金があるの、とうとう立退を要求されることなくしてすみしました。百円と言え、その頃ずいぶん大金でありましたから〔永澤嘉巳男編『新島八重子回想録』六〇〜六一頁〕。

が市内で生じた『新島襄の生涯』六五頁)。キリスト教(プロテスタント)が宗教都市の聖なる古都に「侵入」することに対して、危機感を抱いた市内の仏教勢力が、府知事に圧力をかけたのである。さっそく知事は、高松を府庁に呼びつけて、賃貸契約を取り消すようにと迫った。

高松は、いったんはそれを飲む。「校舎用に借りた建物の持ち主は新島に、家はやはり自分が使いたい、したがってわれわれ〔同志社〕に貸すわけにはいかない、と通告してきた」とデイヴィスは証言する。

しかし、「知事との間に聖書教授に關するこのとりきめができたのち、家主はようやくわれわれに家を貸すことにきめたのであった」という(同前、六五頁)。一方、八重によれば、高松側にはむげに契約解除できない弱みがあった。家計逼迫である。

いずれにしろ、知事の横やりは功を奏しなかった。新島は、校内では聖書を教えないとの誓約書を知事に提出して、事なきを得たものの、これを知ったデイヴィ

明治維新で京都の公家は総じて窮地に立たされたが、高松家も「大変貧乏な華族」であつ

たらしい。その高松から借りたのが、屋敷の一部、すなわち「この家と長屋の一つ」だったと八重も証言する。

さらに、賃貸契約を高松と取り交わしたことも判明する。文面からして、八重には中井屋敷の認識が明確にあつたことが分かる。新島もたぶん同じである。ただし、中井家が奈良出身であるとは、夫婦ともに知らなかったであろう。

### 「火方屋敷」

ところで、中井屋敷のランドマークは、火の見櫓であつた。屋敷の見取り図にも、母屋の西南隅に「火の見(○内)」とある。これを見た人にはその印象が強烈で、八重も中井を「御所の火消の頭」と誤解するほどである。ある同志社史にも櫓が登場する。

「同志社の始めて開かれたこの屋敷は、華族高松氏の所有で、この華族は国風社



「立命館草創の地」碑(京都市上京区東三本木、2018年7月11日)

イスが、神戸に戻ると言い出したのも、無理はない。

それにしても、立命館が始まった地もここから近い。同じ「春日学区」であるのは、なんとも奇遇である。

### 中井屋敷を買収

高松(一八一八年生まれ)が亡くなった時期(一八七八年九月二十四日)も興味深い。新島が中井屋敷の敷地(七百八

の歌の先生であつた。貧乏であつたが、家の中は中々立派なものであつた。敷地は今の洛陽教会からまだ二軒程南が境界で、真中に井戸があつた。

ここに大工の統領の中井主水といふ人が「かつて」住み、火見櫓が立つてを借りて始めたものである(青山霞村『同志社五十年裏面史』四一頁)。

当時の学生のひとり、堀貞一(後に牧師)によれば、屋敷は住民から「火方屋敷」とも呼ばれていた(『徳富蘇峰の師友たち』一五頁)。

### 高松保実

残る問題は、櫓を含めて中井屋敷がいつ取り壊されたかである。新島が購入を決めた一八七八年秋の時点では、屋敷はどうなっていたのか。つまり、新島が購入したのは更地なのか、あるいは上物(古家)つきなのか。さらに、高松はこの時点でこの屋敷を立ち退いて、他所(東京?)に移つたのか。謎は残る。

ところで、同志社が府庁から開校認可を得る過程で、「非常に不穏な空気」

十五坪)の買収を決めた時期(同年一月二十八日)に近い(⑧一七二)。一月というのは、ボストンの旧友(J・M・シアーズ)から新島に住宅建築資金が送られてきた二か月後(⑧一六九)であり、高松永眠の八か月前であつた。

屋敷購入の交渉は、浜岡光哲(京都政財界の大物で、のちに同志社理事)に委託した(⑧一七一)。例によって、新島単独では、購入は無理であつた。

新島はすぐに工事に取りかかり、棟上げを五月十七日、引越しを九月七日に行なつた(⑧一八〇)。仮に高松が最期まで京都におれば、新島家の新居竣工を自分の目で見届けられたであろう。

大河ドラマ「八重の桜」(二〇一三年)でブームを呼んだ新島旧邸であるが、現在、公開日は週三回に戻され、しかも屋外からの見学に限定されている。

屋内見学を補うために、案内ビデオ(約十八分)が隣接する新島会館別館ロビーで鑑賞できる。私がシナリオ(本文は、『自己発見のビルグリム』に収録)を作成し、案内役として出演もしているので、旧邸内部の説明はそちらに譲りたい。

# びわ湖疎水通船の復活

あおき まみ 青木 真美 (大学商学部教授)

大津の乗船場から四ノ宮を経て蹴上までのルートとなっている。

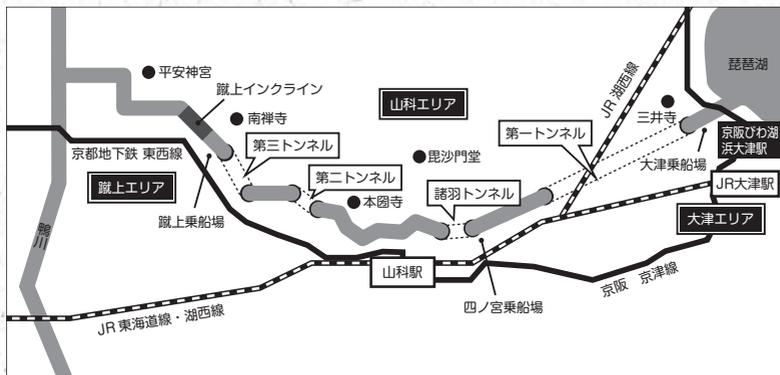


図1 疎水通船のルート



写真1 乗船場から北国橋をのぞむ



写真3 第一トンネル内 中央の明るくなっているところが第一シャフト下



写真2 大津の乗船場から見た第一トンネル入り口

1) 大津から四ノ宮舟溜  
筆者は2017年11月20日に試験運行に同乗、2018年5月20日にも実際の営業運転に乗船している。  
疎水通船の乗り場は、京阪石山坂本線の三井寺駅に近い北国橋にある大津閘門の西側にあり、12人乗りの小型船に乗り込む。11月は夕方の乗船となりかなり寒く、冬の時期に運行されない事情も納得できた。

びわ湖の取水口から通船の終点の蹴上までの第一疎水の距離は8・4kmで、そのうちトンネルの区間は4箇所あり計3・

## 2. びわ湖疎水通船の風景

この疎水通船の復活を望む声はすでに  
舟運については、大正年間には年間22万トンもの貨物が行き来していたが、鉄道や自動車の発達に伴い、徐々にその利用が減少しており、1951年9月に最後の荷を運んで以来、舟運は姿を消してしまった。

1. びわ湖疎水通船とは  
2018年春より、大津と京都間のびわ湖疎水において、観光船の運航が行われるようになった。このびわ湖疎水の水路は、1890年に開削され大津と京都への舟運と水力発電の利用、水利の利用のために長年にわたって多に活躍してきたものである。現在でも毎日200万立方メートルの水が送られてきており、水道用水、灌漑用水、防火用水、工業用水として用いられている他、蹴上周辺の無鄰庵や瓢亭、菊水、何有荘、円山公園などの庭園の用水としても使われている。また水力発電についても、3箇所の発電所が稼働しており、現役である。本稿では、琵琶湖を通船のパンフレットに倣い「びわ湖」と表記している。

半世紀以上も連続と続いてきたが、2013年12月に当時の京都・門川市長と大津・越市長も参加した船の試乗会が実施され、びわ湖疎水の歴史的意義の再評価とアピール、新たな観光資源としての地域活性化への寄与などを目的として、「びわ湖疎水船下り実行委員会」が翌年12月に発足し、多くの課題を克服しながらの事業となり、2015年春にはのべ16日間の試行事業が実施された。その後、本格事業化に向けてガイドの育成やバッテリーツアー企画、大津から京都の下りだけでなく、京都から大津への上り便の試行などが行われ、2018年春に本格的な運行が開始された。

春と秋の運行となっており、2018年春季は3月29日から5月28日までの木曜から月曜まで、秋期は10月6日から11月28日までの運行（運休日は10月と11月で異なる）となっている。料金は通常期（平日）、繁忙期（土日祝）、トップ期（春休み、GW、秋のGW）で異なり、それぞれ大津と蹴上間で4,000円、5,000円、8,000円となっている。

図1は、疎水通船の概略地図であり、

9kmである。大津閘門の先の船着場から出発するとすぐに第一トンネルに入る。トンネルの入り口などには明治政府の要人らの筆による扁額が掲げられ、第一トンネルの東側には伊藤博文（疎水開通時には初代枢密院議長）の「氣象萬千」

(千変万化する気象と風景はすばらしい  
の意)が掲げられている。

トンネルの中はかなり暗く、照明はあ  
るがひんやりとした空気に包まれている。  
第一トンネルは2・4kmあり一番長い  
トンネルである。工事の際もたいへん時  
間がかかったようで、現在東側のトンネ  
ル口から1・7kmいったところに、第一  
シャフトといって堅穴が残されているが、  
これは山頂から下に掘り進んでいった名  
残で、現在でも穴が開いており地下水が  
かなりの勢いで落下している。トンネル  
内には疎水の建設を主導した当時の京都  
府知事北垣国道の扁額もある。

第一トンネルを抜けると、春の桜や秋  
の紅葉の眺めが美しい、四ノ宮付近の開  
口部に出る。滋賀県と京都府の境界を越  
えたここは、山科エリアであり、JR湖  
西線の建設時には若干疎水の経路を変更  
した部分でもある。

このあたりは水深が浅いところがあり、  
操船には注意が必要とのことだった。

#### 2) 四ノ宮舟溜から第二トンネル

このあたりは進行方向右側に遊歩道が

設置されており、散歩をし  
ている方も多い。四ノ宮の

舟溜には、乗船場も設けら  
れており、ここで乗降する  
ことも可能である。ここを  
過ぎるとすぐ諸羽トンネル  
(520m)に入り、それ  
を抜けると見所が満載のエ  
リアとなる。毘沙門堂につ  
ながる安朱橋、安祥寺川が  
疎水をまたぐ立体交差とな  
っている地点や洛東高校  
への橋を過ぎると、左手に  
は天智天皇の山科陵があり

地下鉄駅の御陵はこのあたりである、右  
手には日蓮宗の本圀寺があるが、その参  
道の正嫡橋の欄干は朱色に輝やいている。  
更に進むと、第二トンネル(124m)

の入り口となる。この入り口の扁額は、  
明治期にさまざまな大臣職を歴任した井  
上馨のものであり、「仁以山悦智為水飲」  
(仁者は動かない山によるこぶ)、智者は  
流れ行く水によるこぶ」と書かれている。

11月にも5月にもこのあたりに大きな  
青さが飛んできており、船の進行に合

ンクリート橋は、少し東よりの第10号橋  
(通称黒谷橋)であることされる。

第三トンネル(850m)を抜けると  
すぐに蹴上の乗船場となる。この乗船場  
には立派なレンガ造りの建物があり、「御  
所水道ポンプ室」と命名されている。こ  
れは京都御所に防火用水を送るための施  
設で、京都御所の建物より高い位置にす  
るためにここに作られたという。内部に  
はポンプがあるのだが、大正天皇が皇  
太子の時期に疎水を大津から京都まで船



写真6 御所水道ポンプ室



写真7 蹴上の水路とインクラインの始点



写真8 田辺朔郎像

で行幸されるという計画があり、その出  
迎えのために豪華なレンガ造りの建物と  
なった。建築の設計は、京都国立博物館  
などで知られる片山東熊である。

#### 4) インクラインと水路閣

蹴上で下船しても、疎水の施設はまだ  
まだ続いている。蹴上からは流れは分か  
れて、鴨川・高瀬川の方向に向かう水路  
と、南禅寺水路閣を経て哲学の道を北上  
し松ヶ崎浄水場の方向に向かう水路があ



写真4 四ノ宮の舟溜 奥のほうが浅い

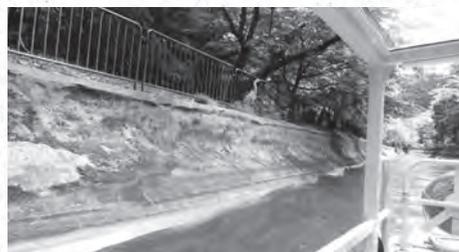


写真5 道案内(?)の青さぎ

わせて追いかけてきて先回りし、まるで  
道案内をしているかのようなであった。

#### 3) 第二トンネルから蹴上の乗船場

第二トンネルを抜けると、欄干が鉄製  
になつて橋が目に入るが、1903  
年に建造された日本最初のコンクリート  
橋で、幅1メートルほどの小さな橋であ  
る。橋の袂には石碑も立ち、第11号橋と  
なっている。ただしこちらは試験的に建  
造されたものであつて、本格的な鉄筋コ

る。  
蹴上から南禅寺の舟溜は勾配が急で船  
を直接流すことができなかったため、  
レールを引いて船を台車に乗せて下るイ  
ンクラインの設備があり、一部が保存さ  
れている。

実は疎水には今まで船でたどってきた  
第一疎水の他に、全線がトンネルの第二  
疎水があり、蹴上で合流し水の量が一挙  
に増加する。乗船場から南禅寺の方向に  
も遊歩道が整備されており、轟音を立て  
て流れる水を間近に見ることができ

その途中に、この疎水建設の中心人物で  
あつた、田辺朔郎の像がある。明治中期  
の当時、大規模な土木工事は全て外国人  
技師、お雇い外国人によって行われてい  
たが、この疎水の建設は日本人が行つた  
最初の大規模な土木工事であつた。その  
責任者として、当時工部大学校(現在の  
東京大学工学部)を卒業したばかりの弱  
冠21歳の田邊が発用されたのである。電  
気もなく重機もない当時、ほとんどを人  
力の手作業で行つた先人の苦勞はいかば  
かりか、と察せられよう。

そしてこの先は、南禅寺の敷地内にレ



写真9 南禅寺水路園を上から眺める



写真10 南禅寺水路園の橋脚

ンガ造りの橋脚がそびえる水路園となる。この流れが、哲学の道の水路につながり、若王子神社の前を南から北へと流れ、疎水となつているのである。

一方、現在疎水記念館がある仁王門通に並行して幅の広い疎水の流れがあり、平安神宮の鳥居の前を過ぎ北上して冷泉通に並行し、夷川発電所にいたる。さらに鴨川への合流点があり、伏見までの鴨川運河にもつながっている。

### 3. 疎水の建設と 京都の近代化

明治中期にこうした大規模な土木工事が京都で行われた背景には、天皇陛下の東京への行幸による京都の人口減少や産業の衰退があり、その対策として社会的・経済的な復興をめざすものであった。

1881年2月に京都府知事に任命された北垣国道は、びわ湖の豊かな水量に注目し、疎水の開削によってびわ湖と宇

治川を結ぶ舟運を開通させ、同時に水利や動力としての活用を図ろうと計画した。

これに対しては大規模工事に伴う巨額の建設費の危惧、びわ湖の水利について危惧する滋賀県や大阪府などの反対、などがあり、ようやく1885年6月に着工し、1890年3月に大津から鴨川合流点まで完成したのである。

当初は水利と水車に利用による動力の利用を目的と

したものであったが、建設期間中にアメリカを視察した田邊の意見により発電施設も備えることとして、その後の産業振興や市電の発達などにも大いに貢献した。さらに完成後も、電力需要の増大などに対応するために、第二疎水の建設が行われ、これは水道事業、市電開通と幹線道路の拡幅とあわせて京都市の三大事業と呼ばれている。

現在も一日二百立方メートル、年間約二億トンの湖水が京都で利用されており、京都市は「疎水感謝金」して年間二億三千万円を滋賀県に支払っている。

1990年の疎水竣工百周年を前に、琵琶湖疎水記念館が開館し、1996年には国の史跡として指定されている。先人の知恵と決断により建設され、現在もお京都市民の生活を支えている疎水の歴史的な意味と今日における役割について、通船の復活を期に再認識されることが切に望まれよう。



平凡社  
820円(税抜)

## 一神教とは何か —キリスト教、ユダヤ教、 イスラームを知るために

小原克博(ニホノカケフミ)著  
(大学神学部教授)

止むことのないテロ、解決の糸口が見えない難民問題、エルサレムをめぐる騒動などを、ニューズメディアを通じて見聞きすると、暗澹たる気持ちになります。ユダヤ教、キリスト教、イスラームといった一神教が、それに関係しているように見えますが、実際のところ、どうなのでしょう。ニューズメディアは、出来事や事件のセンセーショナルな部分に光を当てますが、一神教社会の日常やそれを支える思想や論理について、私たちは十分に理解しているわけ

ではありません。

世界人口の過半数を一神教徒が占めている現代世界を見据えていくためには、一神教の基本的な理解が欠かせません。本書によつて、読者はニューズの背後にある一神教の歴史や、ものの考え方を知ることが出来ます。一神教それぞれについては、膨大な数の入門書や専門書があります。類書にはない本書の特徴は、「間」を見ることにあります。

一神教相互の「間」、一神教と現実社会との「間」、一神教と日本社会との「間」です。本書では、日本社会で繰り返されてきた一神教批判そして多神教礼賛といった言説に潜む日本文化論の特質に対しても光を当て、異なる他者と向き合う作法を考えています。日本が自己満足的・排他的ではない仕方での自らの価値観や伝統を語るために、一神教を知ることは大いに役立ちます。また本書において、同志社のキリスト教主義の未来の形を考えたためのヒントを見出すことも出来るはずですよ。著者より



おうふう  
12,000円(税抜)

## 竹田からくりの研究

山田和人(ヤマダワカノ)著  
(大学文学部教授)

本書は、著者の二十五年余にわたる竹田からくり関連の研究成果をとりまとめた著作です。

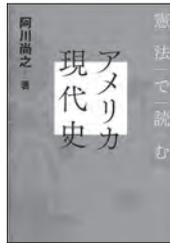
竹田からくりは、江戸時代初期から明治に至るまで道頓堀を中心に上演されてきた一座で、からくりと子供芝居が併演され、大坂に行つたら竹田芝居を見るべしという程の人気でした。にも関わらず、従来、竹田からくりに関する文化・文学の研究からはのまとまったアプローチはほぼ皆無であり、演目や演技、構造・興行実態など基礎的な研究もじゅうぶん行われてこなかったのです。

本書は、江戸時代から明治初期に至る竹田からくりの実態に迫る研究資料とそれを活用した新たな方法論を提示することにもなり、日本の芸能・演劇研究の空白を埋める唯一無二の研究として評価されています。絵画資料の精力的な調査と現存からくりの詳細な調査を総合することで竹田からくりの動態を明らかにしていく手法は独創的であり、絵画資料の徹底的な読み取りによつて、からくりの動態を推定していく方法も前例のないアプローチとして注目されています。

竹田からくりが人形浄瑠璃の舞台演出や他ジャンルにも大きな影響を及ぼしており、からくり文化史とも称すべき太く大きな潮流を形成していることを実証的に示し得た功績たりえたのではないかと思います。

こうした成果に対して、本年度第五十回日本演劇学会河竹賞が贈られました。

著者より



NTT出版  
2,500円(税抜)

## 憲法で読むアメリカ現代史

阿川尚之(特別法学部教授)著

就任以来物議をかもし続けるアメリカのトランプ大統領だが、歴史的な功績をすでに一つ残している。合衆国最高裁判事の任命である。

合衆国憲法は最高裁をふくむ連邦裁判所の任命権を大統領に与えた。ただし上院の同意を必要とする。また判事の任期は終身なので、辞任か死去がない限り任命の機会はない。2016年に死去したスカリア最高裁判事の後任として、トランプ大統領は就任早々ゴースッチ判事を任命した。本年7月にはケネディー判事が引退し、大統領はキャバノー連邦控訴裁判事を後

任に指名した。上院での審理を経て、おそらく中間選挙までに新判事が任命されるだろう。最高裁の保守化が進みつつある。最高裁は人種差別、同性婚など、アメリカ社会を二分する問題について憲法上の判断を示してきた。判決の方向性は9人の判事の構成に大きく左右される。そこで大統領は自分に近い憲法思想をもつ人物を任命しようとする。大統領は任期が終われば退任するが、新判事は何十年もその地位に留まる例が多い。影響は長く残る。ただし憲法が独立を保証する最高裁判事は、自分を任命した大統領の期待に反する判決を下すことがままある。議会上院が大統領の指名した候補に強く反対して、任命を阻止することもある。

著者より



有斐閣  
3,900円(税抜)

## 銀幕の大統領 ロナルド・レーガン —現代大統領制と映画—

村田晃嗣(法学部教授)著

映画はきわめて大衆民主主義的な文化であり、アメリカ的な文化である。にもかかわらず、映画史研究と政治外交史研究には、接点が乏しかった。そこで、本書はハリウッドから大統領になった唯一の「銀幕の大統領」ロナルド・レーガンを素材に両者の架橋を試みた研究である。総じて、映画研究者はレーガンすなわちタカ派といったイデオロギー的単純化に陥り、政治外交史研究者は映画をせいぜいエピソード扱いしかしてこなかった。今日の大学や知的世界を見直し

ても、一方が他方を無視したり断罪したりするのではなく、異なるディシプリンや立場の間の対話が必要なのは、一層明らかである。

また、本書ではレーガンとリチャード・ニクソン、ジミー・カーターといった前任者、そして、レーガンの影響を受けた「レーガンの子供たち」との比較も試みた。「アメリカを再び偉大に」と呼号するロナルド・トランプ大統領も、その一人である。しかし、レーガンが共産主義や「大きな政府」といった抽象概念を攻撃したのに対して、トランプは個人攻撃に終始し、はるかに排他的である。この点でも、トランプを批判しながら、自分と異なる意見に不寛容な「小さなトランプ」がキャンパスにも少なくないのではないかと案じる。また、マーガレット・サッチャーや中曽根康弘など外国の指導者との比較も行なった。今後さらに本格的な比較研究を展開していきたい。

著者より



信山社  
7,600円(税抜)

## 人権条約の解釈と適用

坂元茂樹(法学部教授)著

人権条約は、他の条約と異なり、条約の履行状況を締約国が報告する国家報告審査と条約の履行を監視する監視機関が存在するのの特徴とする。また、日本は未だ批准していないが、国際人権規約には個人通報制度があり、締約国の国内裁判所の規約の条文の解釈に誤りがある場合は、個人が当該締約国を相手取って、監視機関に訴える制度も存在する。その際、監視機関は規約違反の有無を判断する「見解」を出す。ただし、見解には法的拘束力はない。さらに、こうした「見解」の蓄積に基づく

著者より



有斐閣  
3,500円(税抜)

## 近代日本の庶民史 —ふつうの人々の暮らしと人生を紡ぐ—

西村卓(経済学部教授)著

天下国家の盛衰や、そこにきらびやかに登場する「英雄」たちを描き、その時の流れのなかに、全ての事象を流し込んでしまうような歴史でなく、ふつうの人びと、庶民といわれる人びとに寄り添って歴史を描く。いわば、上から下を見下ろすのではなく、逆の下から上を照らし出すことによつてこそ、実感のある歴史を描きされるのである。

本書は、そういう立場から、庶民といわれるふつうの人びとの歴史で構成されている。第一章『まち』の暮らしと戦争』では、1938(昭和13)年に一人の豆腐商人が書き残し

た「日誌」を素材に、「戦争」に巻き込まれていく庶民を描く。第二章『むら』における強盗と盗み』では、明治前半期に都市近郊農村で起こった強盗事件と窃盗未遂事件をみるなかで、近代社会と向き合う「むら」の姿を浮き彫りにする。

第三章「尿尿を通してみる『農』の風景」では、尿尿が「むら」にとつての有用物である一方、「まち」にとつての廃棄物であった時代を垣間見ること、むら」に「まち」の本来あるべき姿を照らし出す。

第四章「宇山栄太郎と一粒稲栽培法」では、明治後半期における島根県能登郡の一農村で農事改良に邁進した篤農・宇山栄太郎の考案した農法が、地域の農法として定着する姿を明らかにする。

第五章「信州リンゴの開発者真鍋猪之吉」では、明治期に福岡県「勸農社」から派遣された実業教師の真鍋猪之吉が、老農的な稲作改良法が終焉を迎えたのち、派遣先の長野県で「信州リンゴ」の開発者として新たな人生を歩む姿を明らかにする。

著者より



平凡社  
800円(税抜)

### 「ネコ型」人間の時代 ―直感こそAIに勝る―

太田肇(大学政策学部教授)著

何ごとにもマイペースで、勤勉さや忠誠心にはやや欠けるが、自分の頭で考え、自発的に行動する。感性に優れ、創造性もある。この数年、このような「ネコ型」新人が職場で異彩を放っている。

わが国は一世紀以上にわたり、工業社会で成功を取ってきた。そこでは組織と上司に忠実で愚直に働く「イヌ型」人間が重宝され、学校や家庭でも人材育成の目標とされた。ところが「イヌ型」はIT(情報通信技術)によってその地位を脅かされ、かわって「ネコ型」人間が活躍するよ

うになったのである。

指示待ちで積極性に欠けるとか、野心がないなどと言われる近年の若者たちだが、実は本性を隠した「隠れネコ」が多い。スパルタ式の指導から選手の自主性を尊重する指導方針に変えたチームが、高校野球や大学駅伝、ラグビーの大学選手権で栄冠に輝いている。また社員を「イヌ扱い」から「ネコ扱い」に変えたところ、業績がV字回復した企業もある。さらに「ネコ型」社会では幸福感が高まり、人々の助け合いやチームワークが促進されることもわかつている。

興味深いことに保守的、閉鎖的といわれる京都には「ネコ型」人間が暮らしやすい条件が備わっている。なかでも「個體不羈」を理念に掲げ、自主独立の精神と個性を尊重する同志社からは、社会の範となる健全な「ネコ型」人間が多数輩出されることが期待される。

著者より



ミネルヴァ書房  
2,800円(税抜)

### 臨床舞踊学への誘い ―身体表現の力―

阪田真己子(大学文化情報学部教授)他著

人は本来、刻々と変化する他者の身体(からだ)から、リアルタイムに情報を読み取るための高度な能力を有しています。しかし、想像力や創造性、身体性の欠如が指摘され、人々の生きる力が弱まっている現代社会にあつて、「自分の気持ちを素直に表現することか「相手の気持ちを正しく読み取る」、さらに「自分の振る舞いが相手にどのようなメッセージを伝えるか想像する」といった、従来人に備わっているはずの社会的知能が著しく低下しています。本書では、このような問題意識に立ち、人

とが意思疎通、相互理解を行うための基盤にある「身体表現」にスポットを当てます。

本来的にすべての人に関わり、自己理解・他者理解、そして「自分らしく生きていく力」へとつながる「身体表現」舞踊。本書では、生きる力を涵養する特性をもつ「身体表現」舞踊の意義を問い、身体表現のどのような特性からその力が育まれるのかを舞踊実践と研究に基づく舞踊理論の展開によって実践的・実証的に考えます。さらに、精神病院、デイケア、幼稚園、小学校、大学での具体的な活動から身体表現がもつ力を鮮やかに描き出します。実践を積み重ねながら舞踊と人間の関わりを思索し、さらに実践に反映させていく、「臨床舞踊学」という新たな理論をご紹介します。

著者より



言視社  
1,300円(税抜)

### 『君たちはどう生きるか』に異論あり！ ―人間分子観』について議論 しましょう―

村瀬学(女子大学特任教授)著

『君たちはどう生きるか』への疑問は、最初に、主人公・コペル君が銀座のビルの屋上から下を見て、「人間って分子みたいだね」というところから始まりました。「人間を分子としてみる」という物の見方は、解説を書く丸山真男氏も高く評価していました。しかし、人間を「上から」みて「分子」と見なす見方は、近代戦争の祖となる「英雄ナポレオン」からはじまり、「人民」を「革命分子」と見なす社会主義的、全体主義的独裁国家をささえる「人間分子観」にまでつながってゆくもので、手放しで讃えてよ



慈学社出版  
10,000円(税抜)

### 政策税制の展開と 限界

占部裕典(大学司法研究科教授)著

租税特別措置(租税優遇措置、税負担軽減措置等)は、特定の政策目的を実現するための政策手段の一つであり、税負担の公平・中立・簡素という税制の基本理念・原則の例外措置として設けられている。租税特別措置はシャープ勧告において一度は廃止されたものの以後、わが国の成長過程等を通じて経済政策や社会政策のために相応の役割を果たしてきたといつてよい。

しかしながら、租税特別措置については、個別的な政策目的に細分化され、極めて複雑なものとなつており、また、一旦、租

税特別措置が導入されると、既得権益となり長期間にわたつて継続して措置されがちであるなど、問題が指摘されてきた。租税特別措置(優遇税制)の法的限界を論ずるとともに、議会における法的統制のあり方、司法的な意味で違憲等の審査基準などについての検討が不可欠である。そこで、本書では、租税特別措置の意義を明らかにしたうえで、(1)租税優遇措置に係る規定の解釈論、(2)租税特別措置に係る規定の実体法的な意味(特別措置の法的限界)、(3)立法過程を含めた租税特別措置に対する手続法的なコントロール、(4)租税特別措置の見直し(整理合理化の対象)やその審査基準などに視点を置きながら、各章の優遇税制等について検証を加えている。

本書を通じて、優遇税制や政策税制の法的評価にあつたための基準、法的な整理合理化のための手続要件を含む法的枠組みなどを確立したいと考えている。

著者より



大阪大学出版会  
5,900円(税抜)

## 外国にルーツをもつ 子どものバイリンガル 読書力

櫻井千穂 大阪大学日本語・日本文化センター准教授 著

国内外のグローバル化にともない、日本の公立学校に通う外国にルーツをもつ子どもの数は8万人を超え、その半数以上が日本語指導が必要な子どもたちであるとされる。この子どもたちは、日本社会への適応のために、こうして日本語の習得を求められる一方で、母語喪失の危機にもさらされている。それはアイデンティティの喪失にもつながる逼迫した問題である。

本書は、複数の文化、言語のなかに生まれ育つという本来なら豊穡ともいえるべき背景を持ちながらも、それが故に却って



キリスト新聞社  
1,500円(税抜)

## 奨励・説教集 嵐と 風と不思議なマント

三木メイ キリスト教文化センター准教授 著

本書は、同志社大学のチャペルアワーでの私のメッセージと、キリスト教会での主日礼拝の説教などをまとめたものです。大学と教会では、列席者の年齢や状況が異なりますが、それぞれ人生の歩みのなかでさまざまな悩み、苦しみや悲しみ、困難を経験する場合があります。何とか乗り越えて生きていかねばならないという点では、共通の課題をかかえています。そんな「嵐」や冷たい「風」に向き合わねばならない時に、歩むべき道を開いてくれる「風」や「不思議なマント」が神様から与えられて

いることを告げ知らせる役目がある、と私は考えています。私は大学で教員兼チャプレン(大学専属牧師)として多くの学生たちと接していますが、彼らの殆どは宗教に触れる機会があまりなく、宗教の存在自体に疑問をもっている学生も少なくありません。その一方で彼らの多くは、将来社会のなかに生きていく場所を見いだすため、自分が歩むべき道を探し求めながら生活しています。そんな学生たちの想いや状況を念頭におきながら、聖書のみ言葉を通してどのようにメッセージを語るのかというチャレンジが私の課題となります。学業に追われる日々のなかで、心静かに自分を振り返って見つめ直してみる、また社会のなかで起こっているさまざまな出来事を通して他者の思いに心を留める、そして困難な状況を乗り越えて生きる力と希望を見いだす、そういう「時」を提供できればと願いながらメッセージしています。

著者より



ミネルヴァ書房  
6,500円(税抜)

## 「稼得とケアの調和 モデル」とは何か 「男性稼ぎ主モデル」の克服

田中弘美 大阪大学研究開発推進センター特別研究員(助教) 著

本書は、著者が同志社大学大学院社会学研究科社会学福祉学専攻に提出した博士学位請求論文を基にしています。現在日本が抱える最も重要な課題の一つである「男性稼ぎ主モデル」の克服を目的に、規範論、政策論、動態論という3つの視座を連動させた検討を通して、「男性稼ぎ主モデル」に代わる新しい社会のビジョンを提示し、そこへのロードマップを示すことをめざしました。

筆者の問題意識は、夫が主に稼得役割を、妻が主にケア役割を引き受ける家族モデル、また

それに基づく社会・生活保障制度の「男性稼ぎ主モデル」は克服されるべきというものでした。その理由は、モデルが前提とする「安定した雇用」と「安定した家族」の基盤はもはや失われているうえ、人々の生き方の選択肢を狭め、性別役割分業から降りられないプレッシャーが男性と女性の両方を苦しめていると考えるためです。

そこで、(1)規範論…「男性稼ぎ主モデル」に代わるどのような社会システムをめざすべきか、(2)政策論…そのめざすべき社会システムは、どのような政策によって具現化されるのか、(3)動態論…その政策は、どのようなプロセスを経て選択・決定される実施に至るのか、という3つの問いを立て、国際比較の視点から検討しました。

今後日本はどのような方向を選択すべきなのか。本書の提示する「稼得とケアの調和モデル」や諸外国の経験を通して、読者のみなさまの関心や議論に少しでも貢献できれば幸甚に思っています。著者より



晃洋書房  
2,800円(税抜)

## 公共部門のガバナ ンスとオンブズマン 行政とマネジメント

山谷清秀 元大学政策学部助教 著

本書は、2017年3月の博士學位論文「オンブズマンの役割とインフォーマリテイの意義」に加筆修正を施したものである。

本書で主として扱うオンブズマン制度は、公共サービスに対する市民の苦情を受け、苦情の解決のための調査を行い、そして勧告や意見表明を通じて公共サービスの改善を図る制度である。日本では1990年から地方自治体レベルで導入されはじめ、また行政相談を所管する総務省行政評価局が国際オンブズマン協会の正会員であるにもか

かわらず、いまだなじみ深いものであるとは言えない。かえって「オンブズマン」という言葉からは、監査請求や情報公開請求を用いて行政の襟元を正そうとする市民運動としての「市民オンブズマン」が連想され、「私の専門は…」と話す政治家や行政職員からは怪訝な目で見られることもある。学会の場でさえ、そのように誤解されることもある。

このようなマイナーな分野である本研究をするにあたって、全面的に支持をしてくださったのが同志社大学政策学部教授であった故今川晃先生である。今川先生の指導のもと、行政責任と行政統制との間におけるオンブズマンの役割、そしてその役割のヒントとしてアンドロ・サクソン諸国のオンブズマン制度が発行するガイダンスの意義について研究を進めてきた。その結果が、本書である。研究は道半ばであるが、今川先生の学恩に報いるためにもオンブズマン制度研究を続けていきたいと思

著者より



鳥影社  
1,500円(税抜)

## 食通のおもてなし 観光学

山上徹(女子大学名誉教授 著)

近年、京都の観光スポットでは、溢れんばかりの外国人観光客で賑わっている。そこで、京都経済だけでなく、日本全体でも、訪日外国人の消費に期待が高まるばかりである。というのも、日本は少子高齢化や人口減少社会がやって来ること待たない。もはや、日本経済をけん引する産業とは、観光と認識せざるを得ない昨今である。

ところで、外国人は、何を目的に日本へとやって来るのだろうか。日本には「自然・気候・食・文化」という魅力的な観光資源がある。この観光資源の内でも、訪日外国人の関心には、

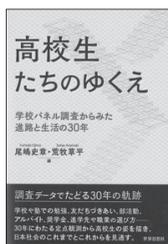
「日本食」が上位に位置する。2013年、和食がユネスコの無形文化遺産に登録された。これが追い風となり、今や、多くの訪日外国人は京料理をはじめ、地方の特産料理にも興味津々だ。

多くの観光客は食へのこだわりが強く、おいしい料理との出会いを求めている。外国人好みとなるように、いかに商品化を図るかが腕の見せ所となる。

本書は日本の風土・風習・食文化を交え、たとえば、全国各地で名物料理、特産品の「まちおこし」、さらに、イスラム教の食のタブーなどに関して筆者の持論を展開している。

本書は、X章からなり、総数162項目をコラム調にて編集してある。各項目では「語源・由来・エピソードなど」を踏まえてまとめられてあり、是非、読み解いて頂ければ幸いです。

本書は食やおもてなし観光に関するネタが豊富に詰まった一冊であり、是非、ウンチクを語る際、大いに役立てて欲しいと思う。  
著者より



世界思想社  
2,500円(税抜)

## 高校生たちのゆくえ

学校バネル調査からみた  
進路と生活の30年

尾嶋史章(大学社会学部教授 編)

1980年代初頭から、高校生たちの生活はどのように変化し、それに社会の変動はどう関わっているのだろうか。本書は、1981年、1997年、2011年と3時点で同じ高校の3年生を対象として実施した「学校バネル調査」に基づき、この問題を追及した共同研究の成果である。

1980年代初頭の高校生は、学校中心の生活を送っていて、卒業後の進路だけでなく、学校生活も高校のタイプによって大きく異なっていた。ところが、1990年代には、学校外に新

たな居場所ができ、携帯ツールによる親や教師に統制されないコミュニケーションが生まれた。学校生活の相対的なウエイトが低下した結果、高校生の生活構造は学校内・外を使い分けるといって多チャンネル化し、学校間の差異は総じて縮小する。そして2000年代以降にすべての学校で生じたのは、こつこつ努力しはじめに勉学に励むと自己評価する「まじめ」化の進行である。

高校生たちの生活・意識の変化とともに、ひとり親家庭や奨学金、学校外教育の利用という進学を巡る諸問題、さらには「幸福な」若者論と学校生活との関係など、高校教育の現代的課題も扱っている。

修士論文を執筆するために始めた調査であったが、「一定点観測」を続けた結果、新しい発見ができ、現在の大学生気質にもつながる高校生像の変容を描けた。10年ごとの追跡を意図したものではないが、次の節目である40年はすぐそこに迫っている。

著者より

# お知らせ

## 同志社大学古本募金 同志社女子大学DWCLA古本募金 ご協力をお願い

かつて新島襄がグレイス教会で献金を訴えた際、多くの聴衆から多額の寄付の申し入れがありました。その中で、年老いた農夫と寡婦がそれぞれ手渡した2ドルは、殊更に彼の心を打ち、そしてこの2ドルこそが同志社の核となった、と新島は書き記しています。この時に集まった5000ドルの献金はもちろん、それと同時に、多くの人々から頂いた善意によって同志社は設立されました。

同志社大学・同志社女子大学では、「古本募金」プロジェクトを開始いたしました。古本募金とは、皆さまのお手元にある不要となった書籍等（CD・DVD・ゲームソフトを含む）の買取金額が大学に寄付される仕組みです。その寄付金は、同志社大学では学生の奨学金に、同志社女子大学では図書館の図書購入費用に充てられ、これからの社会を担う学生の未来に繋がります。2ドルの精神をお持ちの皆様からのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

期 間：随時

寄 付 方 法：下記をご参照ください。

同志社大学 (<http://www.furuhon-bokin.jp/doshisha/>)

同志社女子大学 (<https://www.furuhon-bokin.jp/dwc/>)

寄付の流れ：

- ①まずは寄付者ご自身で本・CD・DVD・ゲームソフトの梱包をお願いいたします。
- ②各大学のウェブサイト（上記）からお申し込みください。  
宅配便の集荷日時を指定できますので、あとは集荷を待つだけです。  
※合計5冊（5点）から送料無料です※
- ③集荷を指定した日時に宅配業者がご指定場所まで取りに来ます。送り状もウェブサイトから申し込んだ内容を印刷して持ってきますので手間がかかりません。
- ④上記①～③の3ステップで手続き完了です。  
後日お手元に届く「寄付受領書」でご確認ください。

### FLOW 古本募金の流れ

1. 本・CD・DVD・ゲームを梱包



合計5冊（5点）から送料無料

2. 古本の集荷・仕分け・査定

VALLE BOOKS

3. 買取金額の寄付



お問い合わせ先：同志社大学 学生生活課

TEL：075-251-3280

E-mail：ji-kosei@mail.doshisha.ac.jp

同志社女子大学 図書館

京田辺キャンパス TEL：0774-65-8481

今出川キャンパス TEL：075-251-4145

E-mail：toshio-i@dwc.doshisha.ac.jp

## 新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開します。

## 【公開期間】①通常公開

2018年9月1日～11月29日、2019年3月2日～30日  
毎週 火・木・土曜日（祝日は除く）

## ②特別公開

2018年10月1日～5日（秋の特別公開）  
11月11日（ホームカミングデー・予定）  
11月29日（創立記念日）  
2019年3月20日～22日（卒業式）

※公開日の詳細はHPをご覧ください。http://archives.doshisha.ac.jp

## 【公開時間】10:00～16:00（入館受付は15:30まで）

## 【見学対象】①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）

## ②特別公開

旧邸周囲及び建物内部（母屋1階と附属屋）に入場できます。  
※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

## 【入場料】無料

## 【場所】京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10:00～16:30）。



入場無料

## お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）  
TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736  
E-mail：n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

## ハリス理化学館同志社ギャラリー展示のご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を、資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、長らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

【常設展】ギャラリー内には6つの常設展示室が設けられています。1階には「新島襄の人と思想」、「同志社のあゆみ」、「世界の中の同志社」、「同志社の今」、2階には「J.N.ハリスと同志社」、「京都の中の同志社」と、部屋ごとにテーマがあり、創立以来の歴史と共に、京都や世界と共に歩んできた同志社の足跡をたどることができます。

【企画展】年3回程度開催される企画展は同志社に関わるテーマだけにとどまりません。新しい文化を発信する施設としてふさわしい企画展も適宜開催しています。

※常設展（2か月に1回程度の展示替え有）は随時開催中、企画展は詳細が決まり次第、ホームページでお知らせします。

## 【入場料】無料

## 【開館時間】10:00～17:00（最終入館16:30まで）

【閉館日】日曜日、月曜日、祝日、ゴールデンウィーク、夏期休暇中の一定期間、年末年始。ただし、企画展開催中は日曜日も開館します。

※開館日等を変更する場合があります。お越しになる前にホームページ等でご確認ください。

## 【場所】同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。



入場無料

## お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）  
ホームページ：http://harris.doshisha.ac.jp/  
TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736  
E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

## 松岡敬学長と佐藤優氏の 新刊図書発売

海図なき未来を生き抜くための高等教育がここにある

# いま大学で 勉強するということ

「良く生きる」ための学びとは

四六判・並製カバー・160頁 本体1300円  
ISBN 978-4-00-061287-6



2020年に迫った戦後最大級とされる教育改革。日本社会のOSを変える大改革を目前にして、いま高等教育の意義が問い直されている。変動の時代にこそ求められる教養とは、「深い学び」の本質とは何か。「良心」と「自由」を掲げ、古都・京都を地盤に日本有数の歴史を持つ私学・同志社大学。共にOBである作家と学長が、同志社の教育を通じて、激動する社会を生き抜く人間の育成を語り合う。



松岡敬  
(同志社大学学長)

佐藤優  
(作家・元外務相主任分析官)

- ◆お近くの書店でお求めください。店頭がない場合は、書店にてご注文ください。
- ◆直送ご希望の場合は、下記にお電話いただくか、FAXにてご注文ください。  
岩波書店（ブックオーダー）係 TEL: 049-287-5721 FAX: 049-287-5742 ※送料650円が別途かかります。
- ◆ご注文の際にいただきました個人情報は、ご注文の書籍の発送およびご連絡のみに使用いたします。
- ◆各種ネット書店でもお買い求めいただけます。

岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 TEL 03-5210-4000(案内)

## 学寮140年のあゆみ

同志社女学校が今出川の地に校舎をもったのは、1878年のことで、一階が教室、二階が寄宿舎になっていました。爾来140年、キリスト教主義のリベラルアーツ教育にとって不可欠の学寮生活がいとなまれてきました。今回は、同志社の女子教育における学寮の変遷をあきらかにするために、寮生や寮務主事による文書、写真、生活用品などを展示します。

- 期 間：2018年11月23日（金・祝）～2019年7月31日（水）  
時 間：10:00～16:00  
閉 室 日：土・日曜日、祝日（ただし、11月23日（金・祝）、24日（土）、25日（日）、2019年5月6日（月・振）、7月15日（月・祝）を除く）  
2018年11月29日（木）、12月25日（水）～2019年1月4日（金）、5月1日（水）、2日（木）  
場 所：同志社女子大学史料センター  
（今出川キャンパスジェームズ館1階展示室）  
主 催：同志社女子大学  
★公開講演会：日時：2018年12月8日（土）13:00～14:00  
演 題：未定  
講演者：未定  
場 所：同志社女子大学今出川キャンパス ジェームズ館J207



平安寮落成記念（1909年12月4日）

お問い合わせ：同志社女子大学史料センター  
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入  
TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201  
E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

本号の特集で取り上げた読書時間減少・活字離れは、教育の場ばかりでなく日常生活や仕事の場でも問題となっている。「活字離れ」や読書量の低下への対策をテーマにしている。小学校から大学までの教育の場での「読むこと」についてのプログラムや新聞業界の現状についての記事をお送りすることができた。

最近、この分野で注目しているのは、「まわしよみ新聞」というコミュニケーションツールである。これは、大阪の陸奥賢氏が発案し

たもので、全国的に幅広く普及しており、2017年度読売教育賞NIE部門で最優秀賞を受賞している。アクティブ・ラーニングのツールとしても活用されている。やり方はグループに分かれ、持ち寄った新聞から各自が興味のある記事を切り抜き、なぜその記事を選んだのかをグループ内でプレゼンし、新たな見出しをつけて壁新聞をつくり、全体に発表するというプロセスで行われるもので、新聞の「自分の世界を広げる可能性」と「みんなでまわしよみこと

の可能性がある」ということから考へ出されたものである。

陸奥氏によれば、インターネットの「情報検索」は非常に便利であり、自分が欲している情報のみを取得する傾向にあり、これは結果として自分の世界を狭めてしまっている。それに対して新聞は、「見出しの大きさや幅」「記事の文字量や序列、配列」などによって「社会的なニュース価値」がのぞと示されている。そして新聞を眺めることによって、自分がまったく興味、関心のなかった分野

の情報にも触れ、自然と情報の門戸を広げる可能性ももっている、とのことである。こうした試みが今後も続けられ、紙媒体を読むことをきっかけに、他者とのコミュニケーションや相互理解が深まることに期待したい。

特集記事のみならず、本号には多くの方々からの玉稿をいただいた。紙面を借りてお礼申し上げたい。短い期間での原稿の執筆、真にありがとうございました。

(青木)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・○印委員長

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| ○大学商学部教授              | 青木真美                |
| 大学経済学部教授              | 東山良彰                |
| 大学理工学部教授              | 平山朋子                |
| 大学広報部広報課長             | 今西覚行                |
| 女子中学校・高等学校事務長         | 磯田信行                |
| 大学広報部長                | 岩田喬彦                |
| 女子大学学芸学部教授            | 鎌田貴伸                |
| 中学校・高等学校事務長           | 鎌田伸一郎               |
| 大学法学部教授               | 川嶋浩行                |
| 国際中学校・高等学校事務長         | 貴志志浩                |
| 大学神学部助教               | 木谷佳楠                |
| 女子大学表象文化学部教授          | 北林キリヤ               |
| 大学生命医科学部准教授           | 小谷耕太                |
| 大学政策学部准教授             | 小松倉真理               |
| 大学スポーツ健康科学部助教         | 光木幸子                |
| 女子大学看護学部准教授           | 三宅えり                |
| 女子大学現代社会学部教授          | 森田清真                |
| 幼稚園教諭                 | 安橋和正                |
| 大学文化情報学部助教            | 成川昌典                |
| 女子大学薬学部准教授            | 及川ROBERT JOHN CROSS |
| 大学心理学部准教授             | 齋藤道子                |
| 大学グローバル地域文化学部教授       | 唐中裕一                |
| 小学校事務長                | 田谷口芸秀               |
| 法人事務部校友同窓課長           | 塚田隆雄                |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部助教 | 内山一栄                |
| 国際学院事務長               | 山内孝造                |
| 大学文学部助教               | 山内孝一郎               |
| 香里中学校・高等学校事務長         | 渡邊寿望                |
| 大学社会学部教授              | 山本柳井                |
| 女子大学広報部広報室広報課長        |                     |
| 女子大学生生活科学部教授          |                     |
| 法人事務部長                |                     |

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

- ・送料（ゆうメール着払い：1冊236円）のみのご負担でご講読いただけます。
- ・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。
- ・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入同志社大学広報課

同志社時報 第146号  
 編集人 青木真美  
 発行人 八田英二  
 発行 学校法人同志社  
 同志社大学広報課同志社時報係  
 電話 (075) 251-3120  
 印刷所 株式会社 石田大成社  
 2018年10月1日発行